



GHQ占領下のジャーナリズムと原爆文学研究
—プランゲ文庫検閲文献を視座として—

(課題番号 13610506)

平成13年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))

研究成果報告書

平成16年3月



研究代表者: 岩崎文人
島大学大学院教育学研究科教授)

GHQ占領下のジャーナリズムと原爆文学研究
—プランゲ文庫検閲文献を視座として—

(課題番号 13610506)

平成13年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(C))(2))

研究成果報告書



平成16年3月

研究代表者：岩崎文人
(広島大学大学院教育学研究科教授)

は し が き

本報告書は、プランゲ文庫が所蔵するマイクロフィッシュ版広島県の雑誌 482 誌のうち、226 誌をとりあげ、CCD（民間検閲支隊）による検閲の実態について調査し、CCD により指摘を受けた箇所すべてを翻刻するとともに、検閲と原爆文学とのかかわりについての考察を加えたものである。

なお、独立した冊子として、『GHQ/CCD（民間検閲支隊）による検閲の実態—プランゲ文庫広島県雑誌 226 誌の場合—』を刊行したが、その目次は、以下のとおりである。

1. GHQ/CCD（民間検閲支隊）による検閲の実態
プレスコードと原爆文学
凡例
2. 検閲により指摘を受けた雑誌一覧
3. CCD 検閲英文注記一覧
4. 調査対象雑誌一覧

研究組織

研究代表者：岩 崎 文 人（広島大学大学院教育学研究科教授）

研究分担者：植 木 研 介（広島大学大学院文学研究科教授）

研究分担者：宇 吹 暁（広島女学院大学・生活科学部教授）

研究分担者：槇 林 滉 二（尾道大学・芸術文化学部教授）

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 13 年度	1900	0	1900
平成 14 年度	600	0	600
平成 15 年度	500	0	500
総 計	3000	0	3000

研究発表

- (1) 宇吹 暁、「戦後政治と原爆被害者の動向—原爆死没者追悼と政府の対応—」、「歴史評論」、No. 635、2003.3.1
- (2) 岩崎文人、「『夏の花』（原民喜）三部作とその周辺—陸軍用達商一家の興亡と再生—（一）」、「国文学攷」第 176・177 合併号、2003. 3. 15
- (3) 岩崎文人、『原民喜 人と文学』、勉誠出版、2003. 8. 30
- (4) 岩崎文人、植木研介、宇吹 暁、槇林滉二、『GHQ/CCD（民間検閲支隊）による検閲の実態—プランゲ文庫広島県雑誌 226 誌の場合—』、2004.3.10

平成 15 年度科学研究費補助金研究成果報告書概要

1. 研究機関番号 1 5 4 0 1 2. 研究機関名 広島大学
 3. 研究種目等の名称 基盤研究(C)(2) 4. 研究期間 平成 13 年度～平成 15 年度
 5. 課題番号 1 3 6 1 0 5 0 6
 6. 研究課題名 GHQ 占領下のジャーナリズムと原爆文学研究—プランゲ文庫検閲文献を視座として—

7. 研究代表者

研究者番号							研究代表者氏名	所属部局名	職名
7	0	0	9	8	7	0	イワサキ フミト 岩崎, 文人	大学院教育学研究科	教授

8. 研究分担者

研究者番号							研究代表者氏名	所属部局名	職名
2	0	0	3	3	5	0	ウエキ ケンスケ 植木, 研介	大学院文学研究科	教授
1	0	1	1	0	4	6	ウブキ サトル 宇吹, 暁	広島女学院大学・ 生活科学部	教授
9	0	0	3	3	4	9	マキバヤシコウジ 槇林, 滉二	尾道大学・ 芸術文化学部	教授

9. 研究成果の概要

GHQ/SCAP が発出した十ヶ条のプレスコード（日本出版法）に基づき、CCD（民間検閲支隊）が 1945 年 9 月から 1949 年 10 月まで検閲を行っていたことはよく知られている。しかし、その実態は必ずしも明らかではなかった。ただ、早稲田大学の研究グループによって、雑誌の目次データベースづくりがなされ、その輪郭が少しずつ明らかになりつつある。

本調査研究では、今まで把握できなかった検閲の具体的事例を、プランゲ文庫所蔵の広島県雑誌（マイクロフィッシュ版）482 誌のうち 226 誌をとりあげ調査し、検閲指摘箇所を翻刻し、それまで抑圧されていた活字文化に対する欲望が一挙に噴出しかつてない活況を呈した地方の雑誌出版のエネルギーとそれを抑圧するかのような機能を果たした検閲との相克の一端を鮮明にすることができた。

また、検閲により指摘を受けた具体的な事例を調査翻刻する作業を通して、CCD の行った検閲の実質が、校正刷りでの事前検閲が行われた 1947 年 12 月までと、それ以降 1949 年 10 月までの事後検閲の期間とで変化していった様相をうかがうことができた。と同時に、検閲による指摘箇所が付された英文注記の可能な限りの再現を通して、GHQ/CCD の関心がどのあたりにあり、どのような判断基準を持っているかも明らかにした。

こうした検閲の実態はこれから次第に明らかになっていくものと考えられるが、戦後文学の出発期に「占領下の文学・検閲下の文学」といった項目を措定し、この時代の文学をトータルにとらえるべき視座を持つ必要があるように思う。

10. キーワード

- (1) プランゲ文庫 (2) プレスコード (3) 検閲 (4) GHQ (5) 原爆文学
 (6) 原爆報道 (7) 原民喜 (8) 大田洋子

11. 研究発表

[雑誌論文]

著者名	論文標題			
宇吹 暁	戦後政治と原爆被害者の動向 —原爆死没者追悼と政府の対応—			
雑誌名	巻	発行年		ページ
歴史評論	No. 635	2	0 0 3	70 - 83

著者名	論文標題			
岩崎文人	「夏の花」(原民喜)三部作とその周辺 —陸軍用達商一家の興亡とその再生— (一)			
雑誌名	巻	発行年		ページ
国文学攷	第176・ 177合併号	2	0 0 3	79 - 90

[図書]

著者名	出版社			
岩崎文人	勉誠出版			
書名	発行年		総ページ	
原民喜 人と文学	2	0 0 3	1 - 221	

ABSTRACTS OF RESEARCH PROJECT, GRANT—IN—AID
FOR SCIENTIFIC RESEARCH (2003)

1. RESEARCH INSTITUTION NUMBER : 15401
2. RESEARCH INSTITUTION : Hiroshima University
3. CATEGORY : Grant—in—Aid for Scientific Research (C) (2)
4. TERM OF PROJECT (2001~2003)
5. PROJECT NUMBER : 13610506
6. TITLE OF PROJECT : On the Journalism and Literature in Occupied Japan seen in the Censorship in the Prange Collection
7. HEAD INVESTIGATOR REGISTERED NUMBER NAME, INSTITUTION,DEPARTMENT,TITLE OF POSITION
70098705 Iwasaki, Fumito Hiroshima University, Graduate School of Education, Professor
8. INVESTIGATORS (1) REGISTERED NUMBER NAME, INSTITUTION,DEPARTMENT,TITLE OF POSITION
20033508 Ueki, Kensuke Hiroshima University, Graduate School of Letters, Professor
 (2) REGISTERED NUMBER NAME, INSTITUTION,DEPARTMENT,TITLE OF POSITION
10110462 Ubuki, Satoru Hiroshima Jogakuin University, Faculty of Life Science, Professor
 (3) REGISTERED NUMBER NAME, INSTITUTION,DEPARTMENT,TITLE OF POSITION
90033498 Makibayasi, Kouji Onomichi University, Faculty of Art Culture, Professor

9. SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

On the bases of 10 articles of the Press Code issued by GHQ/SCAP, CCD put censorship on all printed materials in Japan from Sep. 1945 to Oct. 1949. This fact is well known but its details are yet in the dark, though the research group of Waseda Univ. is making the whole list of the Prange Collection with the contents and the names of materials. Our research deals with the factual examples of censorship in Hiroshima Prefecture in the cases of 226 magazines out of 486 contained in the Collection. We examined the censored parts and reproduced the deleted parts as much as possible, since some parts are very difficult to decipher. By pointing out the examples we realized the change from those before Dec. 1947 when previous-censorship was done to those after that until Oct. 1949 when the post-censorship was employed. We also paid our attention to the English words attached to the censored parts. Then we know in what things GHQ/CCD got interested and how the criterion of the censorship worked.

We came to the tentative conclusion that in the period of the start of Japanese Literature after the Second World War we will have to take into account “Literature Under Occupation or Under Censorship”.

10. KEY WORDS

- (1) Prange Collection (2) Press Code (3) Censorship (4) GHQ (5) Literature on A-bomb
(6) A-bomb News Report (7) Hara Tamiki (8) Ota Yoko

11. REFERENCES

AUTHORS, TITLE OF ARTICLE	JOURNAL, VOLUME-NUMBER, PAGES CONCERNED, YEAR
(1) Ubuki, Satoru “The Politics and the Movement of A-bombed Survivors after the Second World War — the Mourning over A-bombed Victims and the Response to it of the Japanese Government —”	<i>The Review of History</i> , No.635, 70-83, 2003
(1) Iwasaki, Fumito, “ <i>Natu-no-Hana</i> , by Hara Tamiki, his Trilogy and their Surroundings — the Rise and Fall, and Rebirth of the Family dealing with the Army — (1)”.	<i>Kokubungakkou</i> , the combined Number of 176 and 177, 79-90, 2003
(3) Iwasaki, Fumito <i>Hara tamiki — the Man and his Literary World</i> —	Tokyo : Bensei-shuppan Press, 221pages, 2003
(3) Iwasaki, Fumito <i>The Actual Censorship by GHQ/CCD in Japan — the Examples from 226 magazines published in Hiroshima Prefecture kept in the Prange Collection</i> —	A Monograph, 91pages, 2004

GHQ/CCD(民間検閲支隊)による検閲の実態

—プランゲ文庫広島県雑誌226誌の場合—

岩 崎 文 人
植 木 研 介
宇 吹 暁
楨 林 滉 二

1. G HQ/CCD（民間検閲支隊）による検閲の実際

プレスコードと原爆文学

岩 崎 文 人

連合軍最高司令官総司令部（GHQ / SCAP）が占領期間（1945.8 ~ 1952.4）を通じて言論の統制を行うことになる十カ条のプレスコード（「日本新聞遵則〈日本出版法・Press Code for Japan〉」）を発出したのは、1945年9月19日のことであるが、それは次のようなものであった。

日本出版法

趣旨

連合軍最高司令官は日本に言論の自由を確立せんが為茲に日本出版法を発令す。本出版法は言論を拘束するものに非ず寧ろ日本の諸刊行物に対し言論の自由に関し其の責任と意義とを育成せんとするを目的とす。特に報道の真実と宣伝の除去とを以て其の趣旨とす。本出版法は嘗に日本に於ける凡ゆる新聞の報道論説及び広告のみならず、その他諸般の刊行物にも亦之を適用す。

日本出版法

- 第一条 報道は厳に真実に則するを旨とすべし。
- 第二条 直接又は間接に公安を害するが如きものは之を掲載すべからず。
- 第三条 連合国に関し虚偽的又は破壊的批評を加ふべからず。
- 第四条 連合軍進駐軍に関し破壊的批評を為し又は軍に対し不信又は憤激を招来するが如き記事は一切之を掲載すべからず。
- 第五条 連合軍軍隊の動向に関し、公式に記事解禁とならざる限り之を掲載し又は論議すべからず。
- 第六条 報道記事は事実を以て之を掲載し、何等筆者の意見を加ふべからず。
- 第七条 報道記事は宣伝の目的を以て之に色彩を施すべからず。
- 第八条 宣伝を強化拡大せんが為に報道記事中の些末的事項を過当に強調すべからず。
- 第九条 報道記事は関係事項又は細目の省略に依って之を歪曲すべからず。
- 第十条 新聞の編集に当り、何等かの宣伝方針を確立し、若しくは発展せしめんが為の目的を以て記事を不当に顕著ならしむべからず。

たしかに、プレスコードは、総論として言論の自由と責務について述べ、言論の民主化の指針を示したといえるが、実際の主目的が連合国に対する批評批判を封じるところにあったことは、それ以外の条が抽象的であったのに比し、第三、四、五条が具体的に連合国・軍に対する言論の禁止条項となっていることによく表れている。と同時に、第四条にある「軍に対し不信又は憤激を招来するが如き記事」といった文言は、解釈によっては記述内容に大幅な制限を加えることにもなりうるものでもあり、また、第五条にあるように、「連合軍軍隊の動向に関し」では、最初から制約が設けられていた。

ところで、プレスコードを実際に運用し検閲に当たった CCD（民間検閲支隊）は、以下にあげるような配布文書によって業務を遂行した。

雑誌及び定期刊行物ノ事前検閲ニ関スル手續

雑誌又ハソノ他ノ定期刊行物ヲ事前検閲ノタメ提出セシメントスル総テノ出版社ハ左ノ手續ヲ履行スルモノトス。

1. 雑誌ノ同一ナルゲラ刷二通ヲ提出スベシ。ゲラ刷ハ挿絵、カット、表紙、奥付、予告、広告、頁番号、目次、及び完成雑誌中ニ含マルベキ一切ノ印刷事項ヲ網羅セル完全ナルモノタルヲ要ス。
2. ゲラ刷ハ雑誌ノ主筆、或ハ他ノ責任者ガ東京都麹町区内幸町二丁目二番地放送会館六階マッカーサー総司令部新聞雑誌検閲部ヘ持参スルコトヲ要ス。
3. 東京地区外ノ出版社ハ、当検閲部ヨリ明瞭ナル許可ヲ得タル場合、事前検閲ヲ求ムルタメ雑誌ノゲラ刷ヲ郵送スルコトヲ得。但シ検閲済ゲラ刷ヲ受領スルタメニハ責任アル代表者ヲ当検閲部ヘ出頭セシムルヲ要ス。当検閲部ハ郵送ニヨルゲラ刷ノ到着遅延又ハ紛失ニ対シテ責任ヲ負フモノニ非ズ。
4. (イ) 始メテ事前検閲ヲ求ムルタメゲラ刷ヲ提出スル場合ハ、ゲラ刷ト共ニ日本字及ビローマ字両様ヲ以テ認

メタル左ノ通告ヲ提出スベシ。

- (1) 題名 (英語訳ヲモ付スベシ)
 - (2) 主筆ノ姓名
 - (3) 出版社ノ名称
 - (4) 出版社ノ番地
 - (5) 発高回数 (週刊, 月刊等)
 - (六) 発高部数
 - (七) 定価
 - (8) 発行日
- (ロ) 右ノ事項ニ変更アリタル場合ハ直チニ当検閲部ヘ通告スベシ。
5. ゲラ刷ハ出版社ガ要求セララルコトアルベキ訂正ヲナスニ十分ナル時間的余裕ヲモツテ提出スルコトヲ要ス。尚, 紙型ハ, 出版社ガ承認セラレタルゲラ刷ヲ当検閲部ヨリ受領シテ指示セラレタル訂正ヲ間違ヒナク履行セル上ナラデハ, 之ヲ作製セザルモノトス。
 6. 検閲ハ連合最高司令官ニヨツテ発令セラレタル日本出版法ノ条項ニ基キテ施行セルベシ。
 7. 雑誌又ハ定期刊行物ノ内容ノ承認ハゲラ刷ニ検閲済ノスタンプヲ捺印シテ明示シ, ゲラ刷ノ一綴ハ出版社ニ返却セルベシ。
 8. 削除又ハ抹殺箇所ハ返却セルゲラ刷ニ色鉛筆ヲ以テ明示シ雑誌ノ代表者ガゲラ刷ヲ求メテ当検閲部ヲ訪ルルトキ, ソノ注意ヲ喚起スベシ。
 9. 訂正ハ常ニ必ず製作ノ組直シヲ以テナスベク, 絶対ニ削除箇所ヲインキニテ抹消シ, 余白トシテ残シ, 或ハソノ他ノ方法ヲ以テナスベカラズ。尚, ゲラ刷ヲ提出セル後ハ, 当検閲部ノ承認ナキ追加又ハ変更ヲナスコトヲ得ズ。
 10. 必要ナル削除ガ行ハレテ雑誌ガ印刷セラレタル暁ハ, 完成雑誌ニ部ヲ当検閲部ニ郵送又ハ持参スベシ。コノ完成雑誌ハ当検閲部ニ於テ囊ニ提出セラレタルゲラ刷ト比較対照シテ要求セラレタル一切ノ訂正ガナサレタルカ否カヲ検査ス。
 11. 事前検閲ノタメ提出セラレタル雑誌ソノ他ノ刊行物ハ, ソノ代表者ガ当検閲部ヨリ承認セラレタルゲラ刷一綴ヲ受領スル以前ニ之ヲ印刷シ, 配布シ, 或ハ販売スルコトヲ得ズ。
 12. 雑誌ノ事前検閲ハ, 当検閲部ヨリ出版社ニ何等ノ明示ナキ限り各号ニ対シテ以上ノ方法ヲ以テ継続セルベシ。
 13. コノ注意書ヲ受領セル上ハ文書ヲ以テ回答スベシ。

なお, この通達ノ第九條ヲ補ウものとして, 以下ニあげるような注意書ガ配布されてゐる。

出版社ヘノ注意書

- 一, 削除ヲ指令されたる場合は左ノ如キ行為ヲせず必ず組み変へ印刷スルこと
 - 1, 墨にて塗りつぶすこと
 - 2, 白紙をはること
 - 3, ○○○等にて埋めること
 - 4, 白くブランクにすること
 - 5, 頁を破り取ること
- 二, 表紙奥付, 序文, 目次, 写真, 広告, 其ノ他如何なる記事も当事務所ノ許可なく挿入, 追加, 削除, 変更スルヲ得ず。
- 三, ゲラ刷ハ必ず製本内ニ入ル総てノ記事及び第二條ニ示されたるものを包含するものとす, 且つ二部とす。
- 四, 書籍ハ理由ノ如何ヲ問はず事前検閲とす。
- 五, ゲラ刷受領日ニハ間違ひなく受領ニ来られ度し。
- 六, ゲラ刷ノ = || ○□× 等ノ記号ハ出来得る範囲でこれを避けもし止むヲ得ず使用スル場合には必ず其ノ意味する「仮名」又ハ「漢字」をもつて書き込むこと。
- 七, 印刷後ノ納本ハ理由ノ如何ヲ問はず遅滞スルことを禁ず。

満州事変前後から敗戦にいたるまで, よく知られてゐるやうに, 言論ノ自由ハ極端に圧迫され, 伏せ字ノまま出版されたり, あるいは, 谷崎潤一郎ノ『細雪』(1943 — 1948) ノ例ヲもち出すまでもなく, 執筆活動そのものが制限されて

いく。伏せ字を含む刊行は、その内容あるいは字句のおおよそを推測させ、やがて執筆者を含め言論人の自主規制を生むことになった。これに対して、CCD の行った検閲は、伏せ字等の使用を一切許さず、しかも検閲事項を暗示することも、その事実にもふれることも許さなかった。これは、実に巧妙な戦略といってよく、GHQ / SCAP の言論に対する介入の事実を一般読者から完全に隠蔽秘匿すると同時に、執筆者、出版関係者にいっそう強い自主規制を促すことになったのである。

その一例として、原民喜「夏の花」発表にいたる経緯についてふれておくことにする。

「夏の花」は被爆の年 1945 年の暮れにはすでに完成しており、その原稿は、「近代文学」の創刊を企図していた佐々木基一のもとに届いていた。が、中央のジャーナリズムから遠い位置にいた原民喜（1946 年まで広島市郊外八幡村で避難生活）は、検閲のことについてくわしい事情は知り得なかった。永井善次郎（佐々木基一）宛書簡（1945 年 12 月 28 日付）には、次のようにある。

拝復 十七日付の葉書拝見。なるほど検閲といふこともあつたのですね。別便で別の原稿送つておきますから読んでみて下さい。この「雑記帳」は原稿が間にあはなかつた時の用意にと思つて清書しておいたものです。

ここには、敏感に時局の流れを察知した原民喜がいるといつてもよいが、じじつ、「雑記帳」はなんら検閲に引かかるような内容を含まない 1941 年作の「謎」、1942 年作の「絵艸紙」、1943 年作の「鈴虫」、「靴と傘」、「皺」、1944 年作の「掌」、「ビール」、「牛乳」、「本」、「干もの」、「にほひ」、「だから」、1945 年作の「七月二十七日」「時の歪み」などの掌編作品であった。タイトルについても次のような永井善次郎宛書簡（1946 年 2 月 15 日付）がある。

速達拝見しました。原稿の件については先便で申上げた通りあなたの方の都合に一任します。「新日本文学」へ持つて行かれても結構です。「原子爆弾」といふ題名がいけないなら「ある記録」ぐらゐの題にしてはどうでせうか、それともまだ適切な題があればそちらでつけて下さい。

「夏の花」の草稿は、出版事情にくわしい佐々木基一のもとにしばらくそのまま止まることになるが、その内容とともに佐々木基一が苦慮したのは「夏の花」の原題「原子爆弾」であった。「原子爆弾」というタイトルで実際に検閲を通つたかどうかは仮定の話になるが、この語が最初に活字になったのは、1945 年 8 月 9 日付の「中国新聞」朝刊であり、「中国新聞」には以後も「原子爆弾」という語がそのまま使用されている。

「原子爆弾」から「夏の花」への改題がいつ、だれの手によってなされたのかのくわしい事情はつまびらかではない。「夏の花」に名を改めた作品は、「三田文学」編集者の丸岡明の手に渡る。丸岡明の心配は、したがってタイトルにはなく、その中身にあった。丸岡は、次のような書簡を原民喜に送っている。

「夏の花」拝見しましたが、やはり少々危険のやうです。ご面接の折りにお話しします。(1945.7.29)

この書信から四ヶ月後、丸岡明は、ふたたび次のような葉書を宛てている。

三田文学第 9 号を、小説特輯として、例の「夏の花」を思ひ切つて発表してみようと思ひます。再読しましたが、やはりいけないところが少々あるやうに思へますので、校正の時でも結構ですから、そのところを消して載せ度く思ひます。なほ終りの方少々手を入れませんか。(1945.11.18)

けっきょく「夏の花」は、以下に示すような三カ所の記述を削除したうで、1948 年「三田文学」六月号に掲載された。

1. どのやうな人々であるか……。男であるのか、女であるのか、殆ど区別もつかない程、顔がくちやくちやに腫れ上がつて、随つて眼は糸のやうに細まり、唇は思ひきり爛れ、それに、痛々しい肢体を露出させ、虫の息で彼等は横はつてゐるのであつた。
2. 私も暗然として肯き、言葉は出なかつた。愚劣なものに対する、やりきれない憤りが、この時我々を無言で結びつけてゐるやうであつた。
3. これは精密巧緻な方法で実現された新地獄に違ひなく、ここではすべて人間的なものは抹殺され、たとへば屍体

の表情にしたところで、何か模型的な機械的なものに置換へられてゐるのであつた。

プランゲ文庫広島版雑誌の中でうかがわれる検閲の実際から見れば、これらの叙述がプレスコードに抵触したかどうかはきわめて疑わしい。が、こうした自主規制を促したのは間違いなくプレスコードの十カ条であつた。

CCD が出版法に基づき雑誌の事前検閲を行ったのは、1947年12月までで、それ以降は「極右極左」28誌を除き事後検閲となり、CCD が解散するのは、1949年10月（人員整理等のための猶予期間は11月10日まで）のことである。

戦後文学史は、戦後文学の出発を、戦時下の抑圧された状況からの開放といった側面をクローズアップし、谷崎潤一郎をはじめとする大家の復活、田村泰次郎『肉体の門』に象徴される性表現の自由、無頼派の台頭、戦後派の文学の出現等々で語っていくが、戦後文学の出発期は同時に、占領下・検閲の時代と重なっているのである。

プレスコードに基づく検閲がもしなかったとすれば、「夏の花」は「原子爆弾」と題して早くに発表されていたであろうし、大田洋子の「屍の街」も大幅な削除もなくそのまま刊行されていたはずである。そして何よりも、これらの文学作品以外の、多くのすぐれた原爆文学が出現していたはずである。

戦後文学史も、あらたに「占領下・検閲時代の文学」という項を立てるべきである。

本報告書「GHQ/CCD（民間検閲支隊）による検閲の実態—プランゲ文庫広島版雑誌226誌の場合—」は、プランゲ文庫広島版雑誌482誌のうち226誌をとり上げ検閲の実態について調査し、それを翻刻したものである。マイクロフィッシュから紙焼きし、判読したものであるが、当時の資質の劣悪、あるいはすべてが活字印刷ではなくガリ刷りのものも少なくないといった事情もあり、判読不能部分も少なからずある。が、検閲のおおよその実態は十分うかがえるものである。

1. 検閲に関する記述において以下の書を参考とした。GHQ 発出文書の引用は、江藤淳のものによる。

江藤淳『閉された言語空間 占領軍の検閲と戦後日本』（文藝春秋、1989. 8）

堀場清子『禁じられた原爆体験』（岩波書店、1995. 6）

2. 本書は、文部科学省科学研究助成に基づくものである。

凡 例

1. 本書は、プランゲ文庫広島県雑誌 482 誌のうち 226 誌を調査し、CCD（民間検閲支隊）による検閲において指摘された雑誌 60 誌の指摘箇所を翻刻したものである。
2. 雑誌の掲載順は、プランゲ文庫の分類である ABC 順にしたがった。
3. 原文はほとんどすべて縦書きであるが、CCD による英文表記を主としたため、横書きにした。
4. 翻刻に当たっては、旧字体は新字体に改めた。
5. できるだけ推定を避け、判読不能のものは□で示し、数字（行）にわたるものは〔○字（行）判読不能〕といったかたちで示した。
6. 巻末に、検閲により指摘を受けた雑誌一覧、CCD 検閲英文注記一覧、調査対象雑誌一覧、を加えた。

001 (「あけぼの」2号 (広島県立第一高等学校), 1948.11)

その土台は何か...やはりアンデルセン、グリム、ハウフ、アラビヤ等だ。日本と強いて云うならば、日本五大童話、近年のものとしては小波山人の「こがね丸」等が基となつてくるのだ。土台になるものなら其れの本質をよく知つて其の上に築くことだ。

私はやはり最近の童話にはみられない美点を認めて口惜しい。何時だつたか文科の国語の時間に岡田先生がおつしゃつたことを思ひ出してこれを照らし合わせ静かに考えてみる。芸術と科学は違ふ。科学は一時代に飛び抜けた進歩はないとしても年月を重ねるに従つて多少は進化してゆく。芸術はそれと同調子にゆくかと云へばそうではなく天才の出ない以上、坂はあつても山は見えない。その例を音楽界にとつてベートーベンやシューベルトの出た時代は山であつた。それから坂はあるふんでも進歩はなく、あの頃からみて科学は大いなる発達を遂げている。

現在の人々はベートーベンに憧れてゆづらない。童話は芸術故に同じでやはり私は一世紀のアンデルセン時代が山であつたと思ふ。

(牛尾素子「未明とその作風について」)

002 (「あけぼの」創刊号 (広島地方検察庁呉支所内呉区司法保護委員会), 1948.4)

Juvenile Delinquency(Info)

The Expression toward young [以下英文注記判読不能]

〔判読不能〕未曾有の現象であると思う。此の□□者は社会の各層より出て居り本年五月三日新憲法施行以来十一月十二日□の□□□□を受理した犯罪者の員数は六千六百六十四名という多数に達してゐる。就中□少年の多数が悪質の犯罪を敢行して居ることは、我国の前途に大□えいを投じ誠に憂慮に堪えないものがある。平和日本の再建も遙か遠い彼岸にあるやうに感ぜられる。

此の時に□我国の裁判、検察及び警察の各制度に大変革が齎らされたが、未だ機構改革も過渡期にあつて充分な整備が出来て居らぬ状況にあり、之等の分野のみによつて社会の治安を完全に維持することは極めて困難なことである。故に司法保護の□面に活躍を期待することこそ最も時宜に適したものと云えよう。其の司法保護委員会も終戦当時の虚脱状態を脱却して漸く陣容を整え来り、正に活動期に入らうとしてゐる。然し司法保護の事業は従来兎角形式的な御座なりに流るる傾向がないとは云へなかつた。此の秋に当り司法保護の眞の使命を果さなければならぬと思う。

(「富村育男「□□を□して」)

003 (「あけぼの」創刊号)

(info)S.M.G.I Civil affaires

刑務法は改善作用の結論と致しまして釈放者の保護に留意せなければならぬ事は勿論であります但し監獄法は刑務官にそれ等に関しまして何等の義務を規定して居りません、唯釈放するものが出所する時帰住旅費や衣類のないものに限りまして其の一部を給与したり停車場又は乗船場まで同行して切符や乗船券を本人に代り購入してやる程度以外何等規定して居りませぬ、又ありました処で現在の機構では完全なる事は到底望めません。

どうしても社会一般の方のご理解と御協力がなくては行刑有終の美を完全に期待する事は甚だ六ヶ敷い事でありませぬ。

(山崎監登「刑務所から皆様への御願ひ」)

004 (「あけぼの」創刊号)

S.M.G part I Civil affaires S.M. part II Juvenile Delinquency(info)

之等犯罪を本年一月から六月迄の本県下の統計から見て二十歳から二十五歳までの青年が五十%、十八より十九歳が二十九%。十四歳より十七歳までが十八%。其他三%と云ふ率を示して如何に青少年の犯罪が多いか? 之等の多くは復員軍人、動員学徒、勤労挺身隊等戦争にかり出された青少年が敗戦後虚脱状態となつた社会に放り出され其の上戦後の食料事情や就職難に伴ふ生活の不安が犯罪の原因となり更に之等青年層の頹廢的思想が相当裏付けられて居ると思ふ。

犯罪者に対する教育或は授職等科刑の相当改める点はあるとしても一般青少年に対する社会教育或は刑余者に対する国民の善導がなかつたら平和日本の新生も期せられない。

(桐原松雄「発刊の祝辞」)

005 (「あけぼの」創刊号)

(Info) S.M.G. II Juvenile Delinquency

終戦後経済状況の悪化又は離職失業或は道義の頹廃等の為犯罪は日を追ふて累増し殊に青少年の犯罪の激増に於ては実に驚くべき数字を示して居ます、之れには色々原因もあることでしょうが何れに致しても再建日本を背負ふて立つあのうら若い青少年達が毎日警察署や検察庁に沢山引張られて行く姿は涙なくしては見て居られません之れは寧ろ社会全般の責任に於ても措置を構はずべきものでありまして、之れが原因なり動機を除去し或は個性をためなおして犯罪を未然に防止して再犯累犯に陥らしめぬ様善導して遣る施設が是非必要なことであります。

特に呉地方に於ては青少年の犯罪者が多いことでありまして、県下は勿論界限でも稀で実になげかわしい次第でありますと同時に又之れに対する補導施設のないことも情ないことであります。

又一面斯様な不遇な青少年をお持ちになる親達は一層其の子供が可愛いものでありまして親達は毎日を如何様に悲しみの涙して過して居られることか御同情に堪へない次第であります。

呉区司法保護委員会では昨年九月より同委員会内に青少年補導相談所を設け青年保護司担任の下に虞犯青少年の身上に関し一般相談に応じ、科学的に又は総ゆる方面より其の原因なり動機を探求して総ゆる努力を傾斜注して居り現に御満足の行く様秘密裡に御相談に預つて相当な成績を取めて居ります次第ですから斯様な境遇にあられます親達は一時も早く御相談下さいまして一日も早く再び明るい生活に立ち帰へらるゝ様御勤めする次第であります、一日遅れば其の輪はどれだけ広がるか判りません。中には斯様なことを相談に行けば恥ずかしいとか恥になるとかお考への方もあられるかも知れませんが其の間に其の子供はだんだん深味に陥り再び救い上げる事の出来ない取り返しの出来ないこととなります。可愛い我が子を思い家名に対する責任者としての責任を感じずならば瞬時を躊躇しては居られません筈です、早く御利用御来□下さいませ。

又一方悪質の者は補導所に收容して之れが徹底した改善を計らねばならぬといふので目下補導所の候補地並に之れに対する構想を立案中で近く具体化すると意気込んで居る次第であります。

(呉区司法保護委員会「虞犯青少年補導相談所設置に就て」)

006 (「あけぼの」創刊号)

S.M.G.II (info) Juvenile Delinquency

少年保護記念日は毎年四月十七日一般の司法保護記念日は九月十三日これに文句のつけやうはない、そしてこれらの記念日に司法保護委員が年毎に自覚を新たにしたり、何かと□外部活動をしたりするのも結構なことである。然し司法保護委員の職責といふ点から考へると、もし司法保護委員が、年に一回の記念日に何か忙しく働くだけで、其の外の三百六十幾日かは、保護のことを忘れたやうな顔をしてゐる、と言ふやうな傾向があるとすると、それでよいとは言へないのである。

今の時勢から考へてみると、司法保護委員がボンヤリして居るべき時ではない。もつと／＼活発な活動の機会が、もつと／＼多く与へられる必要があるそこで差当り各保護分区毎に、毎月一回、司法保護委員の全員活動の日を、作つたらいと思ふのである。この全員活動の日を仮に保護デーと呼ぶことにする。

勿論、司法保護委員の職務は、殊に補導の働きは、月に一度の仕事でなくて、毎日々々の仕事である。其のために特別の日を限るべきものではない。特に保護デーを設けるのは、其の日には全員が信愛の強いきづなに結ばれ気持を揃へ力を合せて保護の精神を発揮して居ることを全員が意識し、全員が其処に新しい力の泉を汲むやうにしたいからである。其のほかのいろ／＼の効果も勿論期待し得るものと思ふ。

この保護デーに何をするかは各分区毎で適当に定めればよい。必ずしも華やかな企画をする必要はない。例へば全員が集つて研究会を開くとか、全員が各自に受持の対象者を訪問するとか、もつとジミなところでは、各委員が常務委員に宛てて対象者の更生状況を報せる手紙を一本書くとかいろ／＼の事が考へられるだろう。対社会的に働きかけて保護懇談会を開くとか、講演会を開くとか、その他積極的な保護人らしい社会奉仕の仕事をするのも結構であらう。

これは又、毎月同じことを繰り返すのも結構、時宜に応じて行事を変へるのも結構である。この保護デーを毎月の何時と定めねばならぬことは勿論ない。十日でも二十日でも十三日でも結構だが、若し例へば全分区が悉く毎月十三日を保護デーと定め、それ／＼に適当な行事を実行することになつたならば、吾々は月々僅か一日がではあるにしても此の日こそは全分区の司法保護委員が足並揃へて立つて居るのだといふことを——日本再建のために司法保護事業が結束を固めた姿をハウフツとして望み得ることになるのである各分区司法保護委員諸氏の直一層の努力を御願ひする次第

(「声」)

007 (「登音」一周年記念号, 1948.8)

Illegible

[44行判読不能]

(「東城町の沿革」)

008 (「登音」一周年記念号)

Illegible

[15行判読不能]

(佐々木孝之「東城町の□□□□□□」)

009 (「登音」一周年記念号)

Japanese cabinet

民主党の芦田氏も今春の組閣の時は、無理矢理に強引な組閣工作をやつて、とう／＼総理大臣の椅子をせしめた時の嬉しさは、外資投入の一枚看板とか政権のたらい回しとか、少々の悪口には替えられないものもあつたろう。人間持つ可きものは金と強心臓でとう／＼今日迄やり通し、定例国会どうやらこうやら切りぬけた形である。さて、此の次の淵はどうして渡つて呉れようかと、思案中の処へ、榑崎、犬養と大物要人の追放解除は、全く渡りに舟で、今度はいさゝか芸趣を変えてとばかり此の処中央保守大合同の、プランをしきりに、ほめめかしてゐるところは中々□□めがたい。□□□なんて□□□□□□とう／＼此の春は片棒□□でした。

010 (「あゆみ」創刊号, 1948.23)

War Rumor

今こゝにとある X 国と Y 国とが戦争を起し吾が国へも武器を与へ或は人員を動員して来た場合は如何なる態度をとり如何なる方向に進むか、恐らく「考へるまでもない」と云ふだらう。その通りである。考へるまでもなくその方向は現在明示され建設されてゐる、而し一部の過まった考への持主の存在することも疑念される。茲で一度考へを纏め強い信念をもち返し意を決して居て頂き度いと思ふ(私は斯く云つてその時□を予想してゐるものではない。種々の強大兵器実在の今日、戦争は人類の破滅を来たすは疑ふ余地もない)

(鹿島滋夫「文化への一途」)

011 (「驀進」12月号, 1947.11)

(V)Leftist

資本攻勢がぐんぐん行われると共に民主主義はいつのまにか、労働者の仲間から引抜かれて、むこうの陣営で働かされやがて圧殺されんとしつつある。独占的な猛威をふるつてゐる金融資本と官僚とによつて強引に行われている現在の産業経済政策がそれを証明しているし、人民を欺くために仮面をかぶつた政党がこれの先頭にたつてゐることは、われわれが見て知つてゐる通りだ。

日本の民主主義は、今こうゆう状態にある。世界の民主主義から遥かに立ちおくれた上に、追いつくことを邪魔するものが次第に勢力を増し、戦争中のあの奴隷の鎖に再び人民をしぼりつけようとするファシズムの毒牙がポツポツ姿を現わして来た。彼等は民主主義の煙幕の裏側で巧妙な毒瓦斯をまきちらし、彼等にそのような巧妙な戦術をとらせざるを得なくなつた人民の(特に労働者階級の)巨大な歩み振りを喰いとめることにヤツキとなつてゐる。このままでは、日本は独立の力を失い、植民地のみじめさの中で、人民がどんどん死んでゆく姿を傍観するより他はない果結になつてしまう。

現在では、日本には悪臭粉々と腐り果てたドブが一杯つまつてゐる。物を真面目に造ろうとする中小工業者には資金も資材も与えられず、官僚と金融資本と大ヤミ商人がヤミ肥りを限りなく出来るように政治がしくまれ、資本家を救けて労働者に一八〇〇円で暮せ、暮せなきあ死んでしまえとゆう窒息しそうな状態が益々悪化して来ている。これでは工場も労働者もドブの中の蟻みたいに滅亡するしかあるまい。

組合と政党と一つになつた力をもつて、われわれは、経営と日本の政治経済の民主主義を闘いとることが出来る。一工場にあつては一組合が、資本家の団結に対しては全国的につながつた組合の団結が民主主義を闘いとつてゆく。それの行先をしめし、又最後の総まとめをするものはわれわれを代表する政党である。

こうして労働者の手による民主主義が先づ闘いとられ、そこから民主主義の最高のものである社会主義、共産主義も次々に闘いとられてゆくのである。

しかし、ストライキを頻繁に繰り返しても、もはやそれだけでは充分ではない。資本家もストライキを黙つて見てゐない。資本家も団結して労働者の団結に対抗してくる。その上、資本家は国家権力に助けをかり、ひた押しに労働者を

弾圧してくる。もはや資本家は一工場の資本家ではなく、資本家達が集まった資本家階級であり、彼等を援けるのが現在の政治である。そこで各々の工場の労働者だけが団結したのではもはや充分ではなく、産業部門、石炭とか車輛とかで団結したのでは尚不十分となり、全日本の否全世界の労働者が団結して、資本家階級と闘争をやらねばならなくなる。このようにして、労働者階級と資本家階級の闘争は階級闘争となつて来た。

労働者は自分の生活条件を満たす為に、資本家階級を相手に階級闘争を展開してゆく。然し、かゝる闘争を繰り返すだけでは決して労働者は浮ばれるものではない。階級闘争が進展するにつれて、搾取をなくし、搾取のない社会を社会主義社会をつくる事に依つてのみ、労働者は解放されるのである。この社会主義社会をつくる為に社会主義革命をめざすのである。

(高田勇「労働者と組織」)

012 (「鷲進」12月号)

V[iolation].Leftist

[判読不能]

(大塚□□「臨時大会」)

013 (「鷲進」12月号)

(I)Morale

傷つき破れた日本丸という難破船は、辛うじてボロ／＼になつた帆を修理して、デモクラシーといふ岸に向つてゆるやかに動き出したが、乗船客は八千万、その中には、船底で船酔ひに倒れかゝる労働者が、その苦痛から脱却すべく強い団結といふロープを皆して握りしめている。

船は闇風によつてます／＼インフレの波は高く、船長はしきりに望遠鏡をのぞいているが、果たしてデモクラシー岸が見え、平和境にたどりつけるだらうか。

(菅巨「新しき道」)

014 (「鷲進」12月号)

ソ連と言ふ国柄を識らなかつた千代、一途に赤い国を憎み夫の身に大きな不安を抱いてゐたが、その国からの引揚げが開始されて帰つて来た人々の体験談を耳にするやうになつてからは、夫が生きてさへゐれば、他人が心配するやうな虐待など受ける道理もなく、必度元気で帰還するだらうと、

(原田常彦「運動会」)

015 (「文化」五、六月号、1949.6)

disapproved all entirely

日蓮教と日本国体との関係は、影と形のようなものであり、日本国なくば日蓮教なく、日蓮教なくば日本国はあり得ない。あらゆる宗教の中で宗教と国家の一致を□□するのは日蓮教のみである。どの宗教でも個人の救済に参加しそれがやがて世界全体を救済するものであると説くのであるが、しかし過去の歴史をふりかへるとき道のみにては世界の救済を実現し得ぬことは、あまりにも明瞭な事実である。

日蓮教は信仰的に浄化せられた国家の□により個人も世界も一□□□□立正安国の悲願がこめられてゐる。人間が今日のように国家生活、社会生活を営む以上、政治や経済が正しく行はれなければ完全なる安心立命の□られないことは余りにも当然である。キリストの「神のものは神にかへせ、カイゼルのものはカイゼルにかへせ」といふ教は一切の世俗的なものを粉碎し神の権威を確立せる素晴らしい教ではあるが、世俗の物的現実そのものを無視するならば完全な安心立命を予期することは出来ない。敗戦によつて精神的、物質的に貧窮のどん底にある日本が、仏教の教義によれば道義的世界建設のための中心になるべしと定められてあるが、現在の日本人にとっては將に破天荒の大宣言と言ふべきであらう。もしこの伝説を正当化する裏づけがあるならば世界は仰いで信じ飛躍して進むべき光明の指針となり得るであらう。

聖日蓮は日本国をいかに見たか、人或ひは聖日蓮をもくして不忠の最なるものと呼び、或は大忠なるものと呼び今日に至るも大聖人の正確なる姿はとらへられてゐない。

「国ハ亡ブルトモ□□ハ少クナリナン」

日蓮大聖人は日本国土の究極の栄光とその使命を達観され国より真理の責を述べられ、真理の命ずるところ、滅亡も甘受すべきを述べられた。されどこれによりて国家安全の基礎たらしむることを保ば、□正日本の姿の燦然として光り輝くことを予期されて□□、日本国は□□□□のために□□し發達しなければならぬ大事なる国である。大地宇宙を

全一体と見る見地から宇宙根本の唯一真理なる法華経を□□つべく約束せられし日本が自づから誤つて之を否定せる場合、之を發展させ□□□のもの、結果はすべて神聖□□となる。

「日蓮生ヲ此ノ土ニ得タリ豈此ノ国ヲ思ハザランヤ」

此の言葉は生をこの土に受けたから、此の土を愛すといふのではなく、末法の救世主本化上行菩薩たる我生れたるが故に、此の土は神聖なりとの絶大なる権威をもつて言はれたのである。聖日蓮は国家のために真理を認めたるには非ずして、真理のために国家を認めたのである。「蒙古来」は正しく日本に対する天啓的抗伏である。

「是ハ梵王、帝釈、日月、四天の、彼ノ蒙古国ノ大王ノ身ニ入ラセ給ヒテ責メ給フナリ」

「梵天、帝釈ノ御咎メニテ西ナル国ニ仰付ケテ日本国ヲ責ムベシ」

「大蒙古国ヨリ打手向ウテ日本国亡ボサルベシ」

亡ぼすのが目的ではなく捨邪帰正せしめて、要は法華教を保たせるにある。救世主本化菩薩の言葉を聞き入れぬ日本にやがて「蒙古来るべし」との切々の読音に日本國中上下をあげての迫害に、將に大蒙古は博多湾に堂々の陣□を□□で迫り来つた。

「日蓮ガ五天ノ□ヲ一天ニ□フ」

と自己□□の大□□を□にされ、蒙古来の予言適中について得意□に誇るを警告して蒙古事件を一言にても□にするな若しそむくものは破門するぞと不思議な命令を出された。

「国ヲ助ケ給ヘト、日蓮ガ控フレバコソ、今マデハ安穩ニテハアリツレ」

国体を支□して一生を捧げ、未曾有の大迫害の中に人類救世主としての資格と権威をもつて、身延山□に蒙古調伏の祈りを籠められた。法界の大气を動かして、天地の神靈を鼓舞し、一気に□物を動員し、未来に世界を□化□□□□本門の□□国日本に無限の祈りを□められた。

蒙古来るの警告には、真理にそむく国日本を小日本と呼ばれ、之を被らす蒙古を大蒙古と呼ばれたが、一度び蒙古攻め来たるや□□□因縁の国日本を大日本、こしやくにも攻めよせる蒙古国を小蒙古と呼び給ふた。

本来、□□の蒙古□を過去の歴史と見るなら、人類相殺の悲惨事は末法五濁の現在、益々その暗雲をふかめつゝある。もし第三次大戦起るとせば人類生存の可能すら否定せられんとする現在ではないか。

米ソ戦ふや否や。

之は全世界人類の運命をかけた歴史の一大事実である。

日本が□□日本として戦争なき文化を設立することのみによつて、この世界の□□なる□□を□□し得るであろう。勝てば官軍負ければ賊軍といふ言葉がある。之は単的に言ふならば強いもの勝ちといふとである。今次大戦後、米国内のある一部の識者は、戦勝国と敗戦国たるとの区別をつけず、全世界の□□□一堂に会し、戦争□□の原因をきはめ□□□の現実的□□を確立すべしとの主張ありたるやに聞く。全世界人類恒久平和を切実に求めつゝ相はねばならぬ。人類史的矛盾を敢てなさしむるものはなにであろうか。日本民族は戦争法規を憲法に宣言した。

吾等はいかなることがあろうとも再びあの鬼畜の如き行為に吾等の手を血ぬらすべきではない。来るべき戦ひの様相は過去における短期決戦長期持久戦の如きものではなく□□□戦とも言ふべき□□たる□□を□するであらう。全人類はいふまでもなく□も□も閃光一瞬する阿鼻叫喚の世界にまきこまれ、砂漠とかはり果てた荒漠の世界に果□自史する全人類は、この時始めて□□日本の完成せる至高なる□□□のはれあがつた中で□□の□□をもつて見つめるであろう。アメリカ的民主々義をそのまゝ受け入れることは□□しも日本民族の至福にならないことは□□自身常に警告するところである。ソ連の共産主義を信奉することは、世界がソ連、アメリカの二大グループに全く対立する現在、再び武器を取つて争ふことを意味する。社会發達史に於いてマルクスはいままで人に知られなかつた国家と階級の関係を明らかにし、真理の一部をさし示したことはたしかに傾聴すべきであるが、その理論は最早今日では科学的批判に堪えぬことが明にされ、□□の實際面においても□□幾多のの矛盾露呈しつゝある。

吾等はあるとあらゆる主義を冷静に審判し叡智と独創によりて□□を□□と□□文化を設立し眞の民主々義を確立して、世界の範たらしむるべき道教日本を建設すべきである。

いかにして絶対平和を確立すべきや！！

吾等は感情によりて自己の思想を守る□を捨て□□の目標を世界平和の確立に□□開くべき□□捨てるべきを捨て全智を投じて進むべきである。かゝるとき日蓮によりて□さ□し立正安国の炬火が新鮮なる迫力をもつて吾等に迫ってくるのを覚へる。

立正安国は単に政治、経済を尊重するのでは断じてない。ありとあらゆる現実が悉く妙法化することを意味する。正しい心の世界が確立されて始めて物の世界がその結果として現はれてくるのである。

今次□敗戦は、日本国民にとつて最大の試練の時代である。□国をあげて軍備に狂奔する中で日本のみ戦争なき文化の設立に挺身し得ることは將に天意である。理想を現実に、現実を日本に、日本より世界にと示されし仏語の虚しからざるを、切々として吾等は想ふのである。

日蓮教は過去の宗教ではない。日本国の未来を照らし、世界の方向を決し、宇宙を完成せしむべき唯一の宗教である。日蓮即日本、日本即世界、世界即宇宙と無限に広がる人類発展の鍵が日蓮大聖人の御遺文に秘められてゐる。

世界の始末をつけるには、まづ日本から始まるべきだとは□□の□□であり、日蓮大聖人の□教へである。□□には血をもつて高貴なる歴史を彩り、切々として全世界人類にそゝぎたもう□□□の声は妙法三字に籠められてゐる。

「吾レ日本ノ柱トナラン」

「吾レ日本ノ眼目トナラン」

「吾レ日本ノ大船トナラン」

以上の三大誓言は、一、日本人としての叫びではなく、真理の人聖日蓮の雄叫びである。しかして日本とは単なる大八州日本には非ずして、全世界道義化せる場合の日本たるこれは「世界トハ日本国ナリ」との空前の日本□によつて推察出来るるのである。

僅か渺たる小島に生まれたる貧しき僧侶がいかなる権威ありてか、かゝる不適の言をなすや。

積尊によりて予言せられたる末法救世主本化上行菩薩たりとの満々たる自身が真理の言葉となつて迸り出たのである。

真理の声に目醒め得ざる日本が、之の代償として払ひたる高貴なる血の代償を吾等は心塊に徹して反省すべきである。自己の血潮をもつて自づからを浄よめ、再び来るべき世界の大惨劇を吾等は防止すべき聖なる使命がある。

亡国□□は□しむべし、されどこの一民族の悲みをして全世界人類の歓喜たらしむることを得ば、歎きは無限の歓びにかはるのである。

過去、現在、未来がおりなす□の如く、天来の一大文字を大聖人の御遺文は、日本再建と世界復興の具体的方策が、かくやとばかりに明示されている。(つづく)

(水野胖「日蓮教の国体観」)

016 (「文林」第二号,1946.9)

北迫町にあつた話

呉市北迫町花田房江(□□)=仮名=さんは夫である元□□□□社員の花田□一郎氏が戦時中司教官として大陸に赴任してゐたが終戦後一年近く経つても未復員のため、母親と共にかばそい生計を営んでゐたが、この食糧難と物価高にかたて加えて□□の□□さは日増しに□きがかゝつて来るといふ状態が続き、近所の人の話では□□□□へ□□きにゆけば□□□□食料も手に入れるといふことを良き□□の□□さんに相談したところ一も二もなく□□を得たので進駐軍のハウスガールとして勤務することになつたまではよかつたが、何しろ町内でも指折りの美貌を謳われてゐる房江さんのことゝ進駐軍の受けもよく日の経つにつれて、□ちやらの兵隊さんも房江さんの家へ屢々遊びにくるやうになり、遠くて近きは男女の仲、休日などはつい近くの丘へ二人で散歩すると云つたことでもあつたが、□□はそれ以上の発展を見なかつたに不拘ず、とかく世間は五月蠅いもので誰れいふことなく“花田の奥さんは進駐軍とあやしい”“どうもパンパンガールになつたらしい”と町内の噂は目から耳へとまたたく間に拡がつていった。

(「パンパンの噂から離縁された人妻」)

017 (「中国電気工事労組機関誌」創刊号, 1949.7)

V[iolation] Crit[icism] U.S.& allies

外資導入に依つて国内の重要設備は外国商社の物となり、後に残るものは、長時間労力と低賃金より外に何物もないのです。

(富永亮三「組合員一同に告ぐ」)

018 (「大広島」4, 1947.7)

(V)Censorship

(I)A-bomb

[判読不能]

マック・ミラン「キリスト教と広島の将来」

(I)A-bomb マック・ミラン

(マック・ミラン「キリスト教と広島の将来」)

019 (「動輪」第四号, 1948.11)

言つてみれば、個人的人間理想像と社会的人間理想像の全時的な確立、それは社会主義的□□□の遂行に依つて可能性が準備され、個人の主体性□□□はその能力を發揮せんが□□□□かの□□に結び付く事である。□□□、我等の民主革命コースの□□□な□きである。

(秋山益朗「人間理想像確立への道——近代的ヒューマンイズムの方向」)

020 (「動輪」第四号)

LABOR UNIONS

つまりダラ幹中心の御用組合でクローズトシヨップの協約を結んだ為に戦闘的なものが組合を除名され解雇されるに至る例もあることを指摘したい。要する我々は折角新しい時代の息吹をかんじ誕生した新憲法によつて保証された生存権と労働権を飽く迄のび／＼と自由に且つ正しく生かさんが為に労働者が使用者側と結ぶものが労働協約と理解したい。

労働組合自体としては元来政党の任務であるべき人民委員会、人民会議等の反政府闘争機関の組織に腐心し反政府闘争に没頭する様なことを採ることなく、大衆が如何に生活危機と経済復興を念頭に置いて居るかを考え地味な生産復興闘争を展開すべきであると信ずるものである。

(郷津乾一郎「労働協約当面の課題」)

021 (「エスポワール」創刊号, 1948.11)

V[ilation]. Crit[icism] of U.S

「ジャーナリズムに“鉄のカーテン”という言葉が屢々用いられ、或るニュース映画等もしきりに敵愾心をあふるような場面をとり上げているときにあつて、この映画を見たことは、大きな意義があつた。

戦争は□□と排他から起る。それに伴うのは、すでにこれまでの戦争で周知のように、相手の一方的誹謗と敵愾心の昂揚であつた。

(カワモト・ヒデミ「此頃の映画より」)

022 (「エスポワール」創刊号)

河本英三 (広高・理)

023 (「Friend」No. 4, 1947.8)

(V) Militaristic

「いいえ泣きはしません。もう泣きません。僕は立派な帝国軍人です。軍人が泣いてなるものですか。お母さん□□あの時の声が僕を何時も励ましてくれまして武運拙しと云ひながら何一つ□とてなしに生きて帰り再び御奉公してみます。何も彼もお母さんのお蔭だと思って喜んであるのです。」

戦では軍服を脱ぎ捨て、地方の洋服に着替へた彼は今でもあの時の

(白樺生「母の日」)

024 (「風土」新年号, 1948.1)

(V) Rightist

ここまでも民たずねますみ車の徐行肅々やさし陽のてる

あの峡この峡にかよふ径をみ車回ふと民のつゞくも

み車を回べし□に敗れたるひがみはずでに忘れてゐたり

(武村好郎「樞火」)

025 (「風土」新年号)

V[iolation] Rightist

有難き只有難き玉歩はも吾が掃き清めし土踏み給ふ

ほのかにも尊き匂ひ運び来て今み車は吾が前をゆく

吾がまへに尊き姿拝みてはたゞにうれしき世とはなりたる

(野毛秀忠「玉歩」)

026 (「風土」新年号)

(V)Rightist

〔短歌2首判読不能〕

(北村宣昭)

027(「風土」二月号, 1948.2)

□□女と生まれて陛下に言□□す君が幸はもうら若くして(裕□さんを歌ふ)

(深安 山田はるみ「霜」)

028 (「風土」十二月号)

I. war Criminal Trials

絞首刑は七名と云ふ断罪のラヂオ放送額たれてきく

額たれてせちに祈るは被告等が最後のさまの潔かれとのみ

(榑原千好子)

029 (「風土」十二月号)

極刑を当然の如イヤホーンを落付き外す被告もありて断罪の放送を聞けば藪のさ中の吾に悔の多かり

(高橋珠枝)

030 (「風土」十二月号)

〔英文注記判読不能〕

月刊雑誌 如来の福音 半年送書兵 壱百貳拾円

如来の福音 観行要員 初製本壱千部は既に、予約済みで□□ちに製本中です

広島県□□局区内竹尋村上竹田 福音会本部

(「同人諸兄姉に告ぐ!!」)

031 (「古市文化」創刊号, 1946.8)

西洋人の目には非道徳的と見える行動さへ、日本人には正義とされている場合が多々あることを認めざるを得ない。

我々は「全員玉砕」といふニュースの裏に明らかに不純なものを感じるし、重傷の捕虜の首を斬つて、その屍体を銃剣衛の稽古台にしたいといふ事実を単に残虐性とか、武士道とかで解決できないものを知つてゐる。

(加藤好男「日本的なるもの」への反省)

032 (「古市文化」創刊号)

八紘一宇、滅私奉公、一億特攻等のスローガンにより自分は即ち神であるかの如き観念を抱かせられた我々は終戦により再び人間界に転落した。理想の余りに高かりしが故に現実の惨めさに呆然たらざるを得ぬは一人吾人のみではあるまい。

(山縣武博「青空談義」)

033 (「古市文化」第二号, 1947.3)

Allied powers

成る程、中央政府や地方官僚は厳然として存在しており、一応は独立国家としての体裁を保っておりますけれども、その実質に至つては、完全に連合国の属領たるの観を呈してゐるのであります。敗戦国の惨めさではありませうが、こうした状況は、私共一般国民をして心から悲しまさずにはおりません。私共が情けないと思ふばかりでなく、連合国の方でも、日本のこんな状態は決して快しとしてはゐないでせう。

Reactions to the present government

みたところ、今までの政府は、ただ単に占領軍の政策をとりついで国民に臨んでゐるといふだけで、自ら国の最高の機関として国民を率いてゆくといふ迫力が更に見えません。

Key Leg No.1 3

農地法の改革、公職追放の問題、共に連合国に強いられて渋々と実施したがいずれも不徹底。現政府が、民主改革に果たしてどれだけの熱意があるのか疑問なきを得ません。

(今中良一「国民が幸福になる政治」)

034 (「古市文化」第二号)

アメリカ婦人の一例を挙げれば、缶を開けて……

(米澤ひさこ「これからの女性について」)

035 (「古市文化」第二号)

終戦後第二の春を迎へたけれども、敗戦の憂き目は日増しにつのるばかりである。

(井原生「あとがき」)

036 (「学校養育」八月号, 1946.8)

敗戦といふ歴史的現実直面し、近き過去に於いて教へられ、信じさせられて来た総てのことが——絶対神聖で現御神と仰いだ天皇が連合軍最高司令官の命令下に御立になつたこと、又八紘為宇、絶対不敗の神国日本といった思想等——根底から否定されることになつた我が国民が、総てに対する信頼を失ひ、虚脱放心の状態になつたのも全く無理からぬことであつた。しかも、この痛棒一喝は決して生易しいものではない。国土は焼土と化し、領土は制限せられ、七千三百万の国民はその日の生活にさへ安易たり得ない状態にある。この現実直面して解決されねばならぬ問題は政治、経済、文化等凡ゆる面に山積してゐる実情である。これ等の中、教育、□□□□の国史教育について、従来の歴史観に反省を加へつつ歴史的教育的新しい立場にまで到達したいと思つて居るものである。

(岡部充男「問題の国史教育」)

037 (「学校教育」九月号, 1946.9)

仰々、ひとり歴史教育に限らず、すべての新日本教育に於いては、敗戦日本の赤裸々な現状に就いての適格な認識と、かゝる窮境に陥るのやむなきに到つた諸原因に対する、深き反省と批判とが加へらる可きことが、先づ根本的に要求されるのである。七月四日の衆議院憲法特別委員会で、吉田首相は高橋議員の質問に対する答弁中に、「日本国は独立国である。日本政府は厳として存在する。しかし占領期間中は、占領軍総司令官に所属する。」と述べて居る如く、同じ敗戦国独逸が、米・英・ソ・仏四ヶ国の分割的軍政下にあつて、全体的にも部分的にも独逸を代表する正当の政権を持たない状態とは、いささかその趣きを異にして居るけれど、日本は連合国に対し、ポツダム宣言の受諾と無条件降伏を行つた結果、その国土国民のすべてを挙げて連合国占領軍の管理下に置き、その命令を絶体至上のものとしてこれを完全履行する限りに於いて、その国家機能を営むことを許されて居る現状である。

(浦廉一「新生日本の歴史教育に就いて」)

038 (「学校教育」九月号)

新制日本の教育は構想を新にして、かゝる日本の現状に即して施される可きは勿論であり、各教科は各その特異性を通じて最大の効果を挙げることに工夫せられなければならない。ここに歴史科は過去の誤りの一切を払拭して出なほす可き時期に際会したのである。青少年に課す可き新歴史教科書は、従来の教科内容から単に軍国主義超国家主義と目される部分を削除しただけのものであつてはならない。真に民主的平和的文化的日本の動向を豊富に指示するものでなければならない。以下新歴史教育に於て留意すべき若干の点に就いて考察を試みたい。

百千の論議の一つのかくあると云ふ厳然たる史実の前には、ただ単なる概念の遊戯にすぎない場合が多いことによつても判る通り、歴史の偉大なる教化力は、「真実」を以てその構成要素とする所に存するから、時勢の如何に係らず、歴史は真実を語るものでなければならないが、文化国家建設を標望する新制日本の歴史教授には、特にこの点が強調される。なんとせば、あるがままの姿が顕現されてのみ、真理の探究は可能であるからである、そして史実の真実性を決定するには、先づあらゆる素材が提示せられ、それに就いての自由厳正透徹した選択、解釈、批判が加へられなければならない。米、英、仏等に於て、なまなましい最近の外交公文書が、政府の手によつて国民の前に公刊され一般国民の自由活発なる批判に供せらるゝが如きは、大いに学ぶ可きことと思はれる。ともかくも歴史は、客観的に絶対性を持つ史実の上に真理を探究するものであつて、換言したならば、科学的探究を離れた歴史は、真の歴史ではあり得ないのである、されば歴史教育に於いては、被教育者の心理状態発達の程度によつて多少の相違はあつても、常に史実に対して仮借することなき批判と吟味が、自然に湧起せらるゝ様に仕向けられなくてはならない。そしてこの真実を愛する心が、

被教育者の純真な弾力性のある意識の中にしつかりと植え付けられて、科学の域から更に哲学へ、遂には宗教の境地まで展開されて行く、豊かな可能性があることに就いて歴史教授者は決して無関心であつてはならない。

もし歴史教育に於いて、ある主義目的のために、隠蔽、歪曲、誇張、潤色等の作為が施されたならば、世を誤り人を損ねる結果となり、歴史教育の持つ偉大なる感化力は減少し又は滅却されるのである。然し歴史が国民教育の一教科として取扱ゝ場合に於いては、ともすればかかる過誤に陥り易いのである。旧日本の歴史教育に於いても、この種の過誤は数多く繰り返へされた。吾々はこれ等に対し深い反省を加へて面目を一新せねばならない。

(浦廉一「新生日本の歴史教育に就いて」)

039 (「学校教育」九月号)

一体、教科書は、あるきまつた考へとか、ねらひとかをもつて作られたものであり、そこには組織とか系統とかいはれるものをもつてあるのであるが、マ司令による、いはゆる、軍国主義、極端なる国家主義的なるものの追放というやうなことで、そのある部分をのぞけば、全体は□□□□のものである。組織とか系統とかは、おたがいに□□□□つてゐることを意味しているわけであるから、この□は□然である。だから今の教科書のやうに、のこつたものだけをつなぎあはせたのでは、殆ど意味も、価値もなく、かへつて混乱をおこすことになつてしまふのである。まへに、私どもは教科書を持たないといつたのは、この意味である。ところで、日本を、よりよく、より確かな方向に進めてゆかうと念じているわれわれとしては、このままにすてておくわけにはゆかないのであつて、なんとかして、解決の道を見つけ出さなければならない。

吉川英治氏によると、宮本武蔵は、剣の道一すぢにつながつて自らを高めやうと、恐しいまでの努力をつづけてゆくのであるが、彼は剣に執着すればするほど、迷ひを生じ、動きがとれないやうになつてしまふのである。ところが、彼はこのくるしみのはてに、剣をすてさることに思ひいたつた。すると彼が今まで、心の中に思ひ描いてゐた剣の世界が、はつきり見えるやうになつたといふことである。

(小川利雄「国語の教科書と国語の教室」)

040 (「学校教育」九月号)

それで若い者の力の芽が伸びない中にこれをつみ、抑へておけば、自分が安全だと考へるからである。そこで若い者は、今老人から抑へられている其の気持を忘れない様にしてほしい。老人になつても若いものいぢめを、決して、してはならないことを今からよく覚ゑてゐて、老人となる準備をしてほしいと思ふ。其の為には、よほど努力して実力を備へておかなければ、年取ると、若い者いぢめの安易な方法を選ぶことになり易いからである。と。

ローマ字国字の論。日本字と云ふよりもむしろ漢字がむつかしく、しかも、日本の言葉を乱し易いと云ふことは、ローマ字国字論者でなくてもよく分かつてゐたことである。ローマ字国字論者の云ひ分の中で、ローマ字を使ふことにすれば、日本の「やまとことば」が盛んに使はれることになり、日本の乱れた語葉の「ことばなほし」が出来ると云ふ論について、私はその「ことばなほし」をすること、日本のことばらしい、平たい語葉が多く使はれる様になるのは非常にいいことと思ふ。それには漢字制限は必ずしなければならぬことであると思ふ。

(岡崎義男「見聞きするまゝを」)

041 (「学校教育」十一月号, 1946.11)

日本民族の生命の源にふれることは、日本民族の存在の根拠を省察し、その存在の意義について確信を抱くことである。我々は自ら問ふてみなければならぬ。若し日本民族の存在が人類にとつて無意味でないとすれば、それは何等かの意味に於て、人類全体に対して個有の使命を有しているのではないかと。

(高橋壤「民主主義的教育の道徳的原理」)

042 (「学校教育」十二月号, 1946.12)

ボードはこの興味の相互認識の問題は人間性の陶冶問題に帰着すると論じ、アメリカの民主主義の理想が徹底的に実現せられざるはアメリカの教育が、従来欧州の貴族主義の地域に発生したものの借物である為であるとし、アメリカ教育の刷新を論じて居る。ボードは又民主主義教育の陥り易き難点を指摘し、民主主義教育の理想を一層明にして居る。吾等は教育が社会秩序を人間性化し得ることを信ずる。併し茲に難点が満ちてゐる。一方では民主主義運動は個人の興味並に性能の発展を通じて個人を開放することを意味してゐる。これを教育的にいへば、個人的差異、個人的創造、自由、自己表現を強調することとなる。併しこれらの事は茲で終わるのではない。これらのことは個人生活並に社会生活の豊富を助長する限りにおいてのみ価値ある。もしこれらのことの指導が誤れば、軟教育となり、出来心や利己主義の

奨励となり、或は恐らくは職業興味の一方面的な発展となるであらう。かくなると民主主義の觀念が失敗に終り、過去の悪が永久化せられる。併し他方では民主主義は一層広い社会的意識を意味し、共通の安寧に対する高き責任感を意味して居る。民主主義の此の方面は教育上社会的価値を教育することとなる。併し此の強調が容易に個人を社会に従属させ、個人を理想や標準を受身的に受領するやうに訓練する悪傾向を生ずるであらう。これがまた民主主義が失敗することを意味する。愛国主義の教育が、此の平面で指導せられると、丁度教育における自由が、我が儘や放縦と同じこととなるやうに、偏狭となり、異説狩となる。とにもかくにも民主主義は常に自由と自己決定への権利を意味して居る。併し民主主義がその理論と実際とにおいて訓練と義務と犠牲に対してあるべき場所を見出し得るにあらざれば、その最後の成功が最大の危機をはらんだものとなるであらうほど由々しき不利の地位に立たせられることも事実である。私はボードの此の思想の中からも亦現代のアメリカ民主主義思想の中核を教育的に把握納得し得ると信ずる。個性を十分に自由に發揮する思想、興味の相互認識、全体が協同する思想、責任遂行、犠牲奉仕の思想、伝統を尊重しながらこれを改進し絶えず進歩する思想は此の立場から見て動かないものと見て差支はあるまい。

(守内喜一郎「現代アメリカ民主主義思想の中核……其の教育的解明……」)

043 (「学校教育 新教科書の研究」夏季号, 1947.6)

(I) Reactions To Occupation Policy

国史上空前の事実とも言うべき戦勝国軍の全国土占領の現実となったが、教育に関しては、軍国主義的、超国家主義的色彩の徹底的払拭を強要こそせられても、国民思想の民主化のためには、国民教育の積極的進展を企図する忠告が極めて合理的に与えられ、日本国民の自発性を十分に生かした学制改革への推進力として「強力なる教育軍」の役割を果たしている。苟も他律的に教育を萎微消沈させるような措置は微塵もとつていないと言えるのである。流石は世界の文化的民主的先進国としての貫禄を示したものである。

二、 政治機構の改革と新憲法

国家の政治機構の根本とその運営を成文憲法によつて居る我国に於いては、「大日本帝国憲法」を徹底的に改正することが日本の民主化に速効あることに気付いたのは、占領軍の示唆もあつたことではあるが一大達見と言わねばならぬ。

(森岡文策「教育の新目的と陶冶材観の確立」)

044 (「学校教育」7 昭和22・7・25)

Story from news Chugoku

マッカーサー元帥が米誌ライフの

(「思潮・展望 アメリカ民主主義の普遍性」)

045 (「学校教育 社会科教育協議会号」三月号, 1948.2)

(V) Rightist

二七番(寺門) 戦争で敗けたのは、国家のすべてにおいて敗けたのではない。皇国民の練武にも、正しい□がある。戦争中のものも反省してみる必要はないか。時勢に迎合するものも多いが、それはやさしいことである。

議長(森岡) 時代の迎合はほんとうの教育でないというのには全く同感である。

(「協議」)

046 (「学校教育」四月号, 1948.3)

Education

アメリカの児童教育は全くの自由の中に放任せられていて、学習のための基礎となる訓練などはないのだと考えるあまりが相当に存在している。これは第一次世界大戦後の新教育の際にも誤つた傾向として見られたことではあるが、児童中心の自由な学習がなされる為には、その基礎に特別な学習の訓練が存してなければならぬのである。かゝる背後に存する秘密なくしては自由にして豊かな学習の展開はあり得ない。ところが新教育運動の華やかに見える外観にばかり注目して、学習の展開がなされる基礎に特別な訓練が営まれていることを忘れる傾向が今日においてすでに見られている。

アメリカの子供は言葉と文字の訓練については教師の手を通じて様々な材料が用意されていて、それによつて基本となる言語訓練が与えられている。例えば、発音の基本練習をするためには発音練習帳があるが、わが国における国語教育の中で発音の基礎訓練のためにどれ位の努力が教材上なされているであらうか。また話し方であつてもこれを基本的に何年も訓練しているから討論会でも自由に言う事ができるのである。

言語教育や算数教育に基礎訓練があることはよく理解できるが、他の教科でもアメリカの児童は基礎訓練を受けている。例えば、理科の学習でも、わが国では自然の観察を低学年から実施することとなつて、内容も変化してきているが、観察する場合の基礎的な態度をつくる工夫をしていない。

アメリカの教育はこんな形式基礎陶冶をしないかの如く誤認している。これは甚しい見当ちがいであるから、改めてどれくらいの基本陶冶の上に自由な学習をさせているかを見通さなければならぬ。
〔思潮・展望〕

047 〔学校教育〕7, 1948.6)

Education

思想の科学より

(城戸幡太郎「日本の教育」)

048 〔学校教育〕9, 1948.8)

EDUCATION

この委員数名が主として一般公民から選挙せられるので、この点では公安委員の選出よりも一層民主的と言えるのであるが、エキスパートを除外した純然たる教育の素人しか委員になれないとしている法案によつて、果して教育的識見の高い人物が求め得られるであろうか。又、純然たる自由立候補制になるのか、法的に推薦制を加味するのかは詳細不明であるが、われ／＼教育の実際家としては、今やよい人物の物色に良心的で合理的組織的な方法を眞剣に考えねばなるまい。委員会をボスの存在としたり、又はロボット化してこの制度を改悪に終わらせない用意が必須の緊急事であることを警告するものである。

〔地方教育の危機〕

049 〔芸備教育〕2.3, 1948.3)

中川 さつき前田さんの言はれたことからちよつと。偶像と言いましたが偶像化しなくては食えない。偶像化すればオソナエがある(一同哄笑)偶像化しなくても食えるように他の組合と同じように活発な生活確保の闘争を開始すべきだと思います。生活が保証されれば偶像化する必要はないのです。偶像を喜ぶものが広教組の中にもおると思いますが——そう言う人達の意識を革命することが必要です。教育建設会議を中心に他の文化団体、労組と協力し先程齊藤さんが言はれたように、広い人民的運動を通してこの革命を遂行することが必要で——まあ教育者を人民の中で一ペン搅伴するんですネ。

多幾山 偶像化するということは封建的な農村から来ていると思います。農村では地主的よりも兼業的であり零細農となる傾向がある。職業の意識が封建的な貧農的な立場から偶像化しているのです。広教組を強大にしても農村など末端においては、意識が低いのです。農村と組合とが結びついて行くことが革命の一番近道なのですが、それなのに今まで地方では中々結びつかないのです。

中川 教員の経済的な条件を忘れては教育文化各部の独自の活動もかえつて主体的役割を失うと思います。こんな例など参考になるのではないかと思います。それはこんど民科で二十二年度の国家予算の分析をやつたのです。それをみると金融資本家や土建資本家に数百億の金を出してやつている。それなのに六三制教育費は僅かに七億なのです。義務の教育費などは六千万円に足りない程度です。これでは人民の教育などと言うことは出来ません。教員の生活だつて保証出来ません。こうした教員の身近かな資料で教育啓蒙して行くべきです。

栗田 教組は先づ組合員である教員の生活保証を民主的に解決する他方では文化運動によつて、教員自身の民主的再教育が何よりも先づ必要です。これが教組の文化革命の第一歩です。

中川 先程多幾山さんが言つておられた、外部的内部的な問題も労組団体との連繋との中に鍛える必要があります。

清水 教員自体の動きは教組の性格の中にも現はれてはいる如く民科、労文と一体的な立場に動いている。それらと共通な面があります。その共通な面に於て民主革命をしなくてはならない段階に来ていると思います。教組だけでなく各労組団体と協力の立場に於て、民主革命を推進して行きたいものです。

中川 ユネスコに封じ広島県教組は唯教員として長田文理大学長が出ていますがこれは少し変ではないでせうか。長田さんが個人で出ているなんてー

中川 労文はユネスコに対し全面的に協力します。

ユネスコの目的は正義、法の支配ならびに国際連合憲章によつて人種、性、言語、または宗教の差別なしに世界の民衆に対して確保された人種及び基本的自由の普遍的尊重を促進するために教育、科学及び文化を通じて、諸国民のあいだの協力を増進することによつて平和と安全とに貢献するにあるのであり、基本的人権とは今日の段階においては勤労大衆（民衆）の基本的人権を意味しなくてはなりません。またこうした全人民的な民主主義的な力の結集なくしては、真に世界平和確立のためのユネスコ運動にはならないのです。真に世界平和を維持するためには広く世界の勤労民衆の民主的文化団体を基盤とし、人民民主的な平和運動を促進し勤労者の基本的人権を擁護し、いかなるファシズムに対してもこれを絶滅し、教育、科学、文化を通じて諸国民間の民主的提携をはかることであります。こうしてユネスコが真に全世界的な構造となり、その運動が力学的な網のように精密な運動になつてこそ、そうした世界的環境の中におかれた人間の心の中で平和の防衛が建設されるのであります。今日の段階は決してかゝる運動が個人を単位に考えらるべきものではないことは全く自明であります。日本の場合に於ても、民主主義的基盤としての勤労大衆（労組、農民、市民組織、民主文化団体）などがアメリカのユネスコ国内委員会委員に指命された□□、総同盟のように、その指導□□の一単位として活動に於てはその主導的役割を果さなければなりません。もしわれ／＼勤労大衆がこれに対する無関心から、今日の日本に於ける反動勢力の、反動攻勢に媚びた官僚や、それとつながる一部文化知識人の手にそれをゆだねることがあつたとしたら、この平和運動自体決して平和運動とはならないのです。人民戦線以後とくに明確な世界運動として、民衆が戦い続けた平和運動の歴史の精神をのびやかな喜びと、偉大な誇りとをもつてこれを受つぐことの出来るのはわれわれ勤労大衆のみであることを自覚しなくてはなりません。

多幾山 個人、団体所属の参加が必要ですね。

中川 そうです。広島県の場合は県民個々人の勝手に委してあるが、労組、農組、市民組織、民主的文化団体も団体として加入して、その主導的役割を果さねばなりません。

（「広島県教育建設運動座談会」）

050（「芸備教育」2.3）

Key leg No.1

それはGHQの指示にもとづき各地方の教員団体及びそれ以外の団体代表十名の中より互選された者

CIEも必要とあらば文部省に忠告を与えるであらう。

（保田史郎「教育民主化の方向—教科書問題を中心として—」）

051（「芸備教育」2.3）

（INFO）Imperial Family

人間性の弱さの自覚があるところ、家族の間の愛情も社会人としての愛情も師弟の間の愛情も自らに湧きでてくる。天皇も人間天皇にあられるところ、単なる機械的の象徴ではなく、人間性に根ざした敬慕がつのる。

（沼田五月「人間性の探究」）

052（「芸備教育」2.3）

この港は北鮮の国境より約十里の北に当るといわれている。一九四五年より一九四六年にかけて、北鮮より送られた日本人は、殆んどこの幕舎に収容され、旬日後シベリヤ奥地に輸送された。又シベリヤ奥地より、多くの日本人の栄養失調者が、この地に輸送されて、折角故郷に続く海を見ながら、遂に命なく、この丘の上に埋められ、故国の父母妻子に便り一本も出来ず、何処の誰ともわからず葬り去られたことを思えば、今なお感慨無量である。眼前の海は祖国に連なれども、帰るよしもなく、この地に永久に眠る多くの同胞の冥福を祈りて。

（仲本策史「ソ連とところどころ」）

053（「芸備教育」2.3）

（INFO）Labor Unions

臨時給与委員会の答申した官公吏の新賃金二九二〇円ベースは愈々実施の段階にきた。この二九二〇円ベースは職種

別に賃金を決めさらに能力能率に応じて段階をつけてゆこうとするものである。この案では勤労者の最低生活を保証したいばかりか我が国現段階においては其様な段階別の施行は労働者の分裂、対立をそのかす一原因ともなる憂がある。こうした欺瞞に充てる新給与体系を向うに回して我が広教組は去日来最低生活保証賃金獲得をスローガンに闘いつゝある。

(「編集後記」)

054 (「芸備教育」四月号, 1948.4)

unit check required

幸にも米広島軍政部チエスラック中尉英連邦軍ソープ大尉を通じ司令部の認可を得ましたので平和を愛する世界の人々の拠金により遠大なる構想にもとづき科学と芸術と宗教の総合研究所の殿堂『国際学生会館』『国際平和大学』を広島に建設することになりました、幾多の障害を排除して真理の把握、理想の実現へ創造的活動を始めて行く時不可能を可能とする偉大な総合力も発揮出来、文化の華は光り輝くでありますよう

(「世紀の革新へ!」)

055 (「芸備教育」五月号, 1948.5)

(INFO)Labor Unions

独占禁止法、□□集中排□□□、あるいは戦後経済の一趨勢である企業整備などが労働者の□□線に大きな暗影を投げかけていると同時に、そういつた国家政策に歩を合せ個々の資本攻勢も漸次活性化して来つゝある。一方裏側資本のカラクリ、悪性インフレの昂進は労働者階級に明日の生活も約束しない迄に追い込めんとしている。こうした社会情勢下において如何なる条件にも先行して労働者が人間としての自らの□□を保たんとするあがきが必然の結果として労働争議として表面化するのもまた当然といわねばならない。就中昨今の如く生命すらおびやかすが如き労働者の賃金と著しい物価の□□との□行状態においては生産力そのものの問題がそれを解決する根本の課題であるとはいへ、なおそれに先だつて何より労働再生産の獲得保障の問題が提起されなければならない。

端的にいつて一方の犠牲において他方が栄耀栄華、少くとも格段の生活差違の在ることは人格の平等性、能力の公平性においても強く否定されねばならないことである。こういつた意味において労働者階級の経済闘争は当然起り得べき必然性があり、それが政治性を帯びるのも結果としてはまたやむを得ないことゝいわねばなるまい。

(是佐忠男「労働攻勢の中心課題」)

056 (「芸備教育」五月号)

(INFO)Labor Unions

まして、職場は、今強調した未亡人のための職場ではなくむしろこれからは若い女性が、生活の希望としての進出場所となるはずです。賃金問題ばかりではありません。その階級的方面、高しとされた教頭や、校長の椅子も、男女平等に用意されてよいと思います。まして未亡人は生活の希望を失い職場において改めて、希望をみいださうとする者もあります。そのためには、是非男性ならびに職を楽しめるよう、待遇を改めて欲しいと思います。

(佐内静子「女性の地位向上をめざして」)

057 (「芸備教育」五月号)

Civil affairs

私たちがむしろ生理休暇など認める必要のないよう、厚生施設完備していただく方がよいと思います。では実際問題として、大変困難に思われますが、これは私たち小学校職員の便利のためばかりではありませんからよく考えて欲しいと思います。すべて働く婦人の負担を軽くし働き易くするため必要なのですから、.....特に農村婦人の生活の改善や豊田郡のように、県下第一の戦後未亡人の多いところでは、是非設備すべきだと思います。

V[iolation] Leftist

Labor Union

労働法の改悪、産別の分立、経理能力の限界=あるいは赤字財政=等により昨今の労働組合運動には外よりの圧迫に伴う動揺がようやく甚しくなってきた。一□労組自発の反省も昨年二・一スト以来□□なるものも段々見受けられるようになった。

だが必ずしも正常な進歩的な反省とは断定し得ないものも少なくない。ギリギリの生活給要求の闘争を罪悪視したり、

資本家制が平常通りの摂取を限定して経済能力を云々すれば、それに同調し労働者自らの生計を犠牲にしたり、ヤミの犠牲を一方向的に強いる反動政府のとなえる労資協調の□□を鵜呑みしたりすること、こういった一連の傾向が真の意味の労組の反省といえるだろうか？ 反省とはあくまで正常な義務と権利との認識え向けねばならない。義務を履行してからの権利、(たとえば団結権、団体交渉権、そしてそれを通じてからの争議権)は当然正当化されねばならない。資本家に不当な□□と利潤を認めておいて労働者のみ生命をおびやかされる理由は絶対あり得べきことではない。こうした方法論の反省もさることながらもつと根本的には正当なるこれらの権利を行使するためには労働者の義務の面に反省の眼を向けねばならない。義務は□□する誠意がないところに世論の支持もまたあり得よう筈もない。

Labor Unions

こゝら当りの反省が教組が発展するかしないかのポイントであろう。容共的だとか反共的だとかあるいは政治色が濃いかとか云々する前に前述のような根本に□する観察が欠けていることを教員も教組も大胆に指摘反省しなければならない。

教育革命は先ず内部から教育に対する真摯な自己闘争を通じて教組に結集され、その教組の力ははやかて外部からの教育革命を促進さす方向に指向されねばならない。

(田井不二夫「農村教員よ反省せよ」)

058 (「芸備教育」五月号)

Education

わが新制中学はかゝる内部的諸矛盾を抱懐して、さらに外部的矛盾を加えながら現在にまで到達し来たのである。そしてわれわれは過去において物質的なものを得るために闘つて来た。しかしながらそれは現段階において不可能であることをハッキリ知つたのである。われわれは今こそ唯物論を一応否定し、唯心的なものに己が道を求めねばならない。

唯心的なもの——それは何であろうか。私はそれは愛であると思う。

(菅忠雄「中学教育」)

059 (「芸備教育」五月号)

Foreign Books

何故こんな古い話を書くかといえばそのレマルク先生(この呼称を敬語にとられては困る。)の「凱旋門」と称する、ナチス独から亡命して巴里でもぐりの外科医として生活している男を主人公とし、まるで夢のように存在の影の薄い美女や社交界の婦人との恋愛をよろしく配して、今次大戦勃発直前の巴里の不安な虚無的な雰囲気をも精密に描写した小説が、殆ど世界中のベストセラーズ(最も多く売れる本)になろうとしているからである。わが国でも抜目のない某書店が原作者に無断で翻訳して刊行するや否や、文字どおり羽根がはえて飛ぶように売れているらしい。これは悪い傾向ではない。

レマルク先生の小説作法は一段と冴えている。まったく巧いものだ。

ところどころの描写は殆ど完璧に芸術的でさえある。

これでは売れるのも道理だ。大衆の期待したがる要素は余さず取入れてあるのだ。それにもかかわらず、私はこの小説を通俗小説と断定する。すくなくとも、現代一流の文学などではありえない。もし一流を標榜した文学ならば、おのづから別種の迫力と□品をもっている筈なのだ。もう一度、それにもかかわらず、「凱旋門」は通俗小説としては上乘のものであり、おそらく通俗小説としては最も高級な作品であるという事実を否定するわけにはいきまい。この事実が私をおどろかせ、ある種の反省を強いたのである。

これだけの通俗小説を生み出すためには、やはり相当な文化の地盤が要るのだ。ある程度の大衆の文化水準の高さを想定することなしには、この種の文学は生れないだろう。そのことは逆に、一国の平均された文化水準を知るためには、その国の通俗小説の水準を調べればいい、ということがすぐいいきれそうだ。

(中井文彦「文化について」)

060 (「芸備教育」五月号)

V[iolation].Crit[icis]m.of U.S.

〔英文判読不能〕

アメリカが日本を経済的に自立させねばならない理由として、米国民の負担となる日本占領費を少なくするためであることは当然である。しかしその主眼は単に米国の負担軽減にあるのではなく、日本を極東の共産主義侵略の防壁地たらしめようしていることは明白だ。

Decentralization of Economic Centers

経済力集中排除は旧財閥を解体させるために規定されたものであるが旧財閥は依然として官僚と結託し日本の財界を握っており民主革命の道は彼らによつて阻まれている。それが集中排除を解かれたなら彼らは戦争中にもまして猛威を振うことは火を見るより明らであり日本は再び独占資本家に支配される可能性があるのだ。

Criticism of U.S.

外資導入にせよ経済力集中排除のワクをはずすことにせよ、それは日本独占資本主義の復興を助長することである。

わが国の民主主義革命の道は資本主義の徹底的解体から出発するはずだつたし、米国占領軍当局もこれに対し援助をしてくれた。しかるに日本を共産主義に対する防壁とするために資本主義をより強力に復興させねばならないとするならばわが国の民主主義革命の道は阻まれている。

われわれはソ連の侵略の壁として日本を極東の工場たらしめて、兵器を製造すること以外にわが国を経済的に救う方法はないものか一応冷静に考察してみよう。

アメリカのボウ大なる物資の援助に俟たねばならない日本ではあるが、現在の腐敗だら／＼した高級官僚、反動政治家、独占資本家、大ブローカーが結託して行う官僚統制をもつてすれば輸入物資は、右から左へ大資本家、大ブローカーを通じて闇に流されかえつてインフレをおおる有害なる資材となろう。また彼らはあくまで、生産をサボタージュしヤミを横行させるところに非常に利益をもっていることをバクロしている。何故ならいくら生産資材を輸入しても現在のインフレ下では生産は増強されぬと自ら告白しているではないか。

Introduction of Foreign Capital

現在の急務は、外資の導入にあるのではなく国内の腐敗だらだらした資本家中心の政治、経済機構を人民のための政治、経済機構に徹底的に改めることにある。しかる後に国際的対等の立場において、あらゆる国々と貿易クレジットだけを有利に設定することにある。かくすることによつてのみ外資は世界平和確立のために有効につかわれるであろう。

(「国内時計」)

061 (「芸備教育」五月号)

Inc[itement] to unrest

V[iolation].Leftist

それは片山内閣が金融独占資本の利益のために、社会党に対する勤労人民大衆の信頼を逆用して、これをゴマ化し勤労者に耐乏生活を強要し千八百円ペースで賃金をストップしたからである。賃金を先ず釘付けにし公定価格は三倍半も全面的に引上げこれに加え財政的負担をプロレタリアートに前年度に比し五倍も増大させたのだ。かくすればブルジョアジーは利潤をあげて資本を蓄積し生産の増強になるというのである。労働力の再生産なくして、生産が増強せられるであろうか。このような千八百円ペースでは労働力は再生産されず白骨になることは明らかである。判事がヤミをやらず月給のみで配給だけをたよつていたため、栄養失調で斃れたことは一般社会に大きな反響を呼んだがそれはたまたま判事というブルジョアや官僚にとつて目星い人間であるからにすぎない。プロレタリアートは毎日のように栄養失調で倒れている。闇をやらなければ栄養失調で斃れる。ゆえに誰しも闇生活をせざるを得ない。かかる制度の下においては闇の防止は不可能であります。

V[iolation].Leftist

しかし人類の無知と野ばんと背信とをほしいままにした単なる侵略そのものの半封建的、軍事的、絶対主義権力そのものを、そそのかしときには代行することによつて膨大な超過利潤を収奪してきた独占資本、金融資本はいまや軍国主義の亡者共を冷笑しつつ、漸次巧妙に衣替している。ストライキは単に天皇制下の軍閥官僚多年の圧制から解放されたことによつて恣意的にただ騒動をこのむ野次気分からひき起された運動ではないのです。

敗戦後の労働運動は終始一貫この線に沿つていました。吉田内閣成立以後の反動攻勢の積極化は、労働者運動を従来の企業別、個別的な方法から転じてゼネスト態勢へと深刻な闘争段階へ突入せしめたが、労働者運動をかかるとして深刻な闘争の渦中に追いこんだのは金融資本、官僚政治のインフレ政策であつたのです。民族を破滅にみちびくインフレ進行の上に築かれんとしている上からの産業再建に抗して最低賃金をかくとくし下からの産業再建を推進せんとしているので

あります。またなんで教育者はストライキをやつてはならないというのですか。教員は労働者と違うというのですか。では一体教員はなにものですか！ われわれはマルクスのいう「自己の労働力の販売によつてのみ生活手段を得ている社会階級である。仕事にありつく間だけ生活出来、そして労働が資本を増殖する間だけ仕事にありつけるという労働者」と同一の階級であります。

だれが一体かくも不幸な人達をつく出したのか。それは旧帝国主義の支配階級者であり一般人民を犠牲にして資本家、地主のため政治を行う民自、民主、社会、国協、各党の偽政者です。これらの反動政府は引揚者、戦災者、復員者を含めた失業者に何をなしたか。戦時中、国家権力をもつて、人民の多数を徴用し、全労働者を完全に奴隷化して思いのまま、資本家を富ましたことを考えるなら、現在の資本家政府のやることもうなづけるはずです。失業者は戦災者、引揚者、復員者を合して百万からいるのです。資本家はまだプロレタリアートに対し首切をなさんと必至に狂奔しているのです。これらの気の毒な人達が貴男は一粒の涙で救われると思つているのですか。かかる不合理な資本主義制度を打ち倒し社会主義政権を樹立する以外にこの問題は絶対解決されません。

V[oliation].left[ist]

Japanese Cabinet

われわれが餓死したら女房や子供たちはどうなります。われわれのみ餓死したのでは政府や資本家は手を打つて喜ぶであろう。本当に政府やブルジョア階級にも一粒の米も銭の金もないのならわれわれは共に餓死しましょう。だが政府や資本家には金はあるだけあるのだ。われわれは餓死しなくとも法律で定められた人たるに価する生活を営むために正当なる要求をする権利があるのだ。われわれプロレタリアートに対し奴隷を強要し餓死を強要する貴兄は戦時中の天皇制、軍閥がいつたこととなんらかわりありません。

V[oliation].Left[ist]

Japanese Cabinet

現在の日本の経済は破滅せんとしている。この危機が川田氏のいうように労資協調の線で切り抜けることは出来ません。プロレタリアートは二、一スト以来自己批判し資本家政府が、いう通りの労資協調をやつてきた。政府は昨年七月の物価体系の決定によつて、物価と賃金の悪循環をたちきり、インフレを抑制し労働者の赤字も、企業の赤字もなくするといつて労働者はこれを信じタケノコ生活をしながら黒字になる十一月を待ちました。しかしこれは真赤なうそだつたではありませんか。勤労者の生活を完全に破壊する千八百円ベースを押しつけ、インフレは遠慮なしに進めるといふ無茶な政策を労働者がだまつているわけではありません。資本家政府のいう労資協調とはプロレタリア階級の犠牲において資本家階級の立ちなおりを授けることであります。二、一スト以後今日まで耐乏生活を続けて来た労働者階級はもう労資協調にだまされはしない。物価と賃金が次々に上つて行くのはインフレが促進されている結果だからこのインフレを徹底的に克服する思いきつた政策をとることが先決問題である。

プロレタリアートは民主党の政策は反人民的性格の点では自由党と本質的なちがいはない。そして政策実施にあつては独占的企業利潤に重点をおくとともに、社会党の□□、□□の協力という仮面をかぶつて、人民攻勢を弾圧しようとするこうかつな政党であることを見破つており芦田内閣に対し何の希望を持つていなかった。プロレタリアートは今までのどの政府も資本家、地主、大ヤミブローカーようごの政府でありプロレタリアートの敵であることを知つて来た。ゆえにプロレタリアートはかかる反人民的政府を打ち倒さなくてはならないことも知つている。階級意識に目覚めていない川田氏は真にわれわれのために闘つてくれる人は誰れであるか、われわれの最大の敵は誰れであるかの見わけがつかないのだ。ゆえに「誰れが政権を握つても、もうだめだ」という結論に達しブルジョア階級の政府に無批判に妥結したのだ。われわれ青年には理想追求のはげしい情熱がなくてはならない。安易な妥結を排しあくまで理論を究明し、その究明し得た理論を根強く実践して行く旺盛な意力がなくてはならない。この無批判な妥結が満州事変を起し、支那事変、大東亜戦争を惹起したのだと思うとりつ然とする。今プロレタリアートがここで譲歩、妥結したならどうなるか。今や日本の支配階級は国際状況を利用し、残存している一切の封建的、反動的勢力を利用し、プロレタリアートに弾圧を加え、再び奴隷化せんと狂奔しているのだ。進歩的なプロレタイアートはかかる反動攻勢を粉碎し、大衆の盛り上げる力で産業を復興すべく芦田内閣打倒を叫んでいます。

(伊勢木忠男「芸備教育四月号川田清氏の無定見なるスペクトルを批判す」)

062 (「芸備教育」五月号)

V[oliation].Left[ist]

Japanese Constitution

「国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあるが国民は文化的どころか□□□□すら保証されてはいない。また「勤労の権利」を□□しているが、□を求めて失業者は町をさまよっている。「教育の権利」を規定されているが、六三□□□の□□などによって教育の権利もただ一□□□□の独占物と化している。

かくの如く教育者は法文上では一□□□□されてはいるが金持にだけ保証されたもので貧乏国民にとって□文にすぎない。

さらに大衆運動の自由もだんだん限定されてきた。二千九百二十銭では絶対食えないと政府自ら認めていながら、生活権を確保するための正当なる労働運動さえおさえつけようとしているのだ。殊に最近の、人民弾圧は戦時中を思わせるものがある。「保安取締」が誰のためのそれであるのか、一部権力者のためか、それとも人民大衆のためか。これらの□□の示すように、憲法の規定する基本的人権はますますふみにじられている。

(「編集後記」)

063 (「芸備教育」六月号, 1948.6)

(V)Leftist

社会主義は人間の文明が進み道徳が高くなつて、貧しい人々を一人でもなくしようという人類の尊い精神を土台としている。しかるに知識階級は社会主義がファシズムと類似するかに考え社会主義の理想をその実現手段からきり離し、理想のみを美しく描いて手段の問題をヒューマンイズムという不明確な気分で解消している。自由は資本主義への復□やヒューマンイズムの□酔によつてではなく、社会主義への前進を通してのみ獲得され確保されるであろう。

064 (「芸備教育」六月号)

〔英文判読不能〕

先回イギリスに行われた総選挙では、六百三十七人の議席を具えた国会において、労働党はそのうちの三百九十五の議席を占めた。そのうち百三十六人は労働組合或は協同組合の役員である。また、現下院議長のモリソンはもと、商店の小僧で、小学校だけの学歴しかない。外務大臣のベズインはもとトラック・ドライヴァである。労働大臣のアイザックスは、新聞の印刷工であつた。とにかく大臣その他枢要なる地位にある者が多く労働者階級の出身者によつて占められている。しかし単にこのような事例だけによつて歴史的に虐げられた労働者階級を解放する証左であると簡単に信じてよいものであるか、どうか。

(田淵実夫「文化と政治」)

065 (「芸備教育」六月号)

〔英文注記判読不能〕

今日わが教育界に課せられた民主主義日本の創建という使命は、平和国家、文化国家という人類至高の理想を賢明しているだけ非常な勇気と努力を覚悟せねばならぬが、われわれは率直に言えば、止むを得ずこうなつたという響が強い。こうしなければ生きられないからといった捨鉢気分がないでもない。六・三制をめぐる教育制度の変革から、教育の根本的的革命は、内にある因子の発展したのもでもなく、生活体そのものの要望でもなく、まったく至上命令によつているところに、同様な杞憂をいただいている。

(有田吉之「教育者の課題」)

066 (「芸備教育」六月号)

V[iolation].Leftist

高度民主主義とは、とりもなおさず低賃金、首切り、企業整備、生産費の半ばに充たぬ強□□出のことであつたし、建設的社會主義とは社会主義的致策で以て金融資本に勤労者を奉仕させ耐乏生活を強要するファシズムであつた。流通秩序の確立イクオール賃金の釘付けであり、外資導入が日本の自立経済の再建という振れ込みで宣伝され

政府自ら行政整理を断行し賃金をストップして民間企業に範を示せと迫る彼等は、あらゆるギマンとデマゴギーとを使つてその裏から強力政治を押し進め、大衆を屈服するファシズムへのよびかけをやつて現在ある矛盾を糊塗しようとしている。しかしこのことは反つてます／＼現在の社会の矛盾、つきつめれば資本主義社会の矛盾を拡大再生産するものであることは論を俟たない。

Leftist

現在の社会の矛盾、それは本質的に資本主義社会末期の矛盾であるということをはつきりと見極めねばならぬ。政権が一部少数のブルジョアジーや大地主、官僚どもの手にある限り、この現在の社会の矛盾は爆発的に拡大再生産されることを免れない。こういう矛盾を真に克服するものは、いうまでもなく、□□なヒステリーの圧力政治ではなくて、勤労者自らのための政権の樹立による新しい日本の建設である。

(穂村晴人「逆立ち」の役割)

067 (「芸備教育」六月号)

Leftist

芦田内閣は根本からぐらつきはじめた。それは人民大衆から完全に支持を失いことに勤労大衆のふんげきを買っている点にある。

しかしこうした予算成立強行策は、きわめて無理な前提の上にたてられており国会内外の諸条件は、これらの努力をくつがえして、政府の思わぬ事態を招く可能性が多い。すなわち

- 一、検察官の西尾氏起訴いん請をいつまでも引延ばすことは、世論の非難によつて、かえつて形成を悪化する。
- 二、西尾氏が起訴後ももし閣内にとどまるとすれば大衆の批判と攻撃をうけ野党の攻撃ばかりでなく運動が社会党自身をゆるがすことになる。それ以上に注目すべきは予算案に対する人民大衆の憤激と反対である。

(「展望」)

068 (「芸備教育」六月号)

Japanese Cabinet

〔B〕さて永らく駄弁をろうしたが、最後に一言僕はこういいたいのだ。日本には現在映画演劇を指導する省も局もない。あるのはただ税金を課せる物□□だけだ。戦争を放棄して平和国家、文化国家として立つからには、民衆の「文化財」ともいべき映画を、もうすこし優遇してやり、せめて優秀映画には観覧税を安くするとか、統制□□を緩和するとかの、手段を講ずべきではないだろうか。“文部省推薦”だけでことたれりとしていては、日本映画はいよいよ退歩のみだよ……。〔A〕ほんとうに、東宝争議の遠因は政府の、文化に、そのものえの冷遇からだ!!

(川西恒夫「東宝争議の反省」)

069 (「芸備教育」六月号)

Leftist

そのこれからというところで何としたことか、はやくも暴虐的な資本の魔手は、児童映画のうえにおそいかかり、これをしめ殺さんとしているではありませんか。ほかでもない、兄も御存知のように、今回の東宝争議をひき起した首切り事件です。問題の東宝の従業員諸君が、営利資本の制約下にあつて、いかに強く映画文化の向上のために闘つてきたか、それだからこそ児童映画に対しても、いかに進歩的であり積極的であり得たかを、全日本の教育者は決して忘れてはいない筈です。

Antisocial facts

こうしたギャングどもの親分子分のつながりはわれわれの社会に深くひろく暗黒世界を形づくつており、それがいかなる階級的社会的地盤にたち、いかなる上層政治権力をむすびながら、いかに頑強に日本の民主化を阻んでいるかは、われわれの周囲を注意深く観察するものにははつきりと看得できる事実ではありませんか。その故にこそギャンブルはわれわれ大衆の敵であることを、われわれが今日もつとも強く再確認すべきときであるに拘らず、この映画ではその追求が全然なされていません。

Leftist

どうしても映画をつくる脚本家や監督やその他の人たちの個人的な良心や勢力だけでは無力なのであつて、特に今日のように映画が反動的な資本の制約下にあるときは、映画従業員と大衆との緊密な結びつきによる不断の文化闘争によつてこそ映画の発展は期せられるのです。この意味において、(また話が前に戻りましたが) 今回の東宝争議の意義は重大です。われわれは映画消費者として争議を支持し、協力し、共に闘わなければならないのですが、日本の文化復興のため、われわれの児童のため、教育者こそ先頭に立つて大いに闘わなければならないと信じます。

(伊藤清「酔いどれ天使」のことなど——TN兄へ——)

070 (「芸備教育」六月号)

Japanese Cabinet

政府の言い分によれば、賃金は昨年の一、七倍に新丸公をきめるから勤労者は大いに優遇している。また所得は大幅に軽減するから、政府の誠意をくんでもらいたい、と。はたしてそうだろうか。昨年六月千八百円ペースをきめた当時から、一年間に物価は二倍しか上らなかつたのだろうか。千八百円の二倍で勤労者の生活は安定し、生産復興にはげむことが出来るだろうか。絶対出来ない。政府は賃金を上げれば、物価が上るといつているが、日本の現在のインフレは賃金引き上げの結果ではない。賃金は物価の後を追っかけている。賃金の上昇にも関わらず、労働者の生活がますます苦しくなっている事実がこれを物語っている。現在の日本経済の状態では、総生産量に対する総賃金があまりに多すぎることは、事実である。これでは経済は成り立たぬと資本家というが、それは旧来の資本主義経済を成り立たせるためには総賃金を減らすことが必要であるに相違ない。だが、総賃金が生産の総量に対していかに多すぎるにせよ、個々の労働者の賃金が高すぎるのではない。個々の労働者は文字通り飢餓賃金を考えられているにすぎない。これらの労働者のギセイで国の経済を成り立たせねばならぬいかなる理由があるのか。これらの労働者の生活が成り立つような新たな経済をうちたてることこそが民主日本の課題なのではないのか。経済のために人があるのではない。人のために経済があるのである。新日本の経済は、国民の圧倒的多数のために奉仕しなければならないのである。日本経済の再建のために政府家は、勤労大衆のギセイを要求しているのである。

その証拠には廿三度本予算案をみると、価税、物品税、通行税を大幅に引上げ、たばこ、運賃、通信料の値上げなど何から何まで勤労大衆の負担である。一方労働者の賃金は最低生活すら保証されない三千七百円ペースをおしつけんしているのだ。こうした低賃金、重税苦に勤労大衆が立ち上るのは当然である。

Labor Unions

政府の労働攻勢の盾となり産報化の道をたどってきた□銭労組も奈良の大会で左旋回し労働運動の正しい主流にカムバックし。全官公□一体となり、最低賃金の確立、大衆課税反対芦田内閣即時解散と立上つた。

(「編集後記」)

071 (「芸備教育」7月号, 1948.7)

Apparent Propaganda

日本の民主革命の現段階は、ポツダム宣言受諾を決意したことから当然なさねばならなかつた民主主義の復活強化のために、法令をあらため制度機構を一応整備したことにとどまつていて、真に民主化を要望せられるものが却つて隠然たる勢力にものをいわせて穏健中正というよう公式論で、民主的勢力の伸張を阻止しようとしている。はなはだしいのは、反共とか、赤賊打倒とか、非民主分子を葬れとかの言辞をろうして極右的な封建勢力の活動がある。若しもこの実態をつかまないとそれにまよわされるようなことがあると、民主革命は停頓してしもうであろう。

(秋山豪爾郎「第三回定期大会の意義と今後の課題」)

072 (「芸備教育」7月号)

Criticism

教員が青白きインテリゲンチヤのぜい弱性を追放し、階級的自覚にめざめて、労農市民の利益のために、その立場をはつきりさせない限り、教組の戦線統一は、わづかに内部的な機能調整によつて、社会的団結をなし得たに止まり、わが国の民主革命において指導的な役割をもつことなどとても思いもよらぬことである。

(前田倭文雄「教組の性格と戦線統一」)

073 (「芸備教育」7月号)

V[iolation]. Criticism of Education

演説会終了後上野共闘委員長が首相に決議文を手交すると首相は煙草を吸いながら立つて答えようとするので組合の一員がこの態度をなじつて「組合員を侮辱するのか」と叫ぶと首相は「もう何も答えない」と言いはなつて壇を降り待たせてあつた自動車に乗つた。大衆は首相の不誠意極まる態度を眼前にみせつけられて自動車をとりまいてスクラムを組んだ。すると首相の自動車の周囲え四、五名の武装したMPが乗つて群がる大衆の中え無暴にも全速力でのり入れた。かくして首相は一言の弁明もなく逃れ去つた。この際広島造船の組合員の一人は自動車に触れて傷つた。

EDUCATION

政府をはじめ使用者側陣営はブルジョア新聞その他あらゆる機会を利用して五二〇〇円闘争は政治闘争であつて労働

組合としての行動を逸脱したものであると宣伝これつとめているが、今のように経済が厳重な国家の統制下にある時民間労組ですらこの両者をわけて考えることは不可能である。

EDUCATION

むしろわれわれは物価があがるとゼネストでこれを阻止しようとしたフランスの労組の如き高い政治性こそ要請されるのではないか、アメリカの労組もタフトハートレー法に対して制定前から今日に至るまでにしつような政治闘争が継続されている。

EDUCATION

われわれが闘争にあたつて一段と政治性を身につけなければ、インフレの昂進と共に苦しい現実の生活にのみ目を奪われついには組織としての闘争から脱落しルンペンプロレタリアート化するおそれなしとしない。

(下村仁一「全官公5200円闘争をめぐって」)

074 (「芸備教育」7月号)

EDUCATION

直接その渉にある者が意志の流通を害するブロック闘争は無意味だと思ふとき幸に単一組合の結実を見たことは実に慶祝の

EDUCATION

従来の壮年層と青年層との対立的行動(役員選出等)は組合運動の大きな障碍となる場合が多く、有害無益であるから、今後は両者が車の両輪となり更に強靱な一本の心棒となつてほしい。

(石田源作「私は単一結成された広教組にかく期待す」)

075 (「芸備教育」第十二号, 1948.7)

V[iolation].Lefist Propaganda

日本の支配階級は□□□□を利用し、残存している一切の反動勢力を利用し次から次と悪法をつくりわれわれ勤労者から一切の自由を奪い、ふたたび奴隷化せんと必至になつているのだ。青年はこれらの反動攻勢を粉碎する中心勢力とならなくてはならないことを自負しよう。

(「編集後記」)

076 (「芸備教育」八・九月号, 1948.9)

なぜなら金融独占資本というのは一つの生産関係=人と人との関係であつてこの関係の「危機」は結局においてかかる金融独占資本家と勤労大衆との対立関係が後者の優位において解決されることを意味する。

(松田元「戦後日本の政治経済」)

077 (「芸備教育」八・九月号)

Criticism of U.S.Management

マ書簡は突如として現われ出たのではなくてよつてくるべき国際的国内的要素があるのである。これは国際的また国内的に資本家のための経済復興方式と労働者の手による労働者の復興方式との抗争の勢力関係の現われであつて第二次世界大戦に残つた唯一の資本主義国アメリカがインフレの昂進、商品ストックの増大、確大、破産者失業者の増加実質賃金の低下、などの困難な国内経済事情を打開し、国内労働者の不平不満をおさえんとしてマーシャルプランを計画したことは周知の通りである。ところが欧州においては過去の実績からしてみてもマーシャルプランの成果はほとんど認められず、英国フランス、イタリアその他の国々においてはかえつて経済状態を悪くし労働者の感激はほとぼしつて数多の大ゼネストとなつて表明せられている。そしてこれらの国々においてマーシャルプランの受入れは我国の独立をキタイに□せしめるものであることを労働〔約10字判読不能〕者的センスでもつてはつきりと知つ〔約10字判読不能〕働者の反撃に会い、いづれの国々においても□□的金融資本家どもが漸次ファシズム的傾向をもつてきつつあることも冷厳な事実なのだ。

V[iolation].Criticism of U.S.

かかる事実は明かにマーシャルプランの失敗の歴史に外ならない。

V[iolation].Leftist Propaganda

日本の資本家階級も低賃金と、企業整備行政整理による職員の誅首、生産管理に対する仮処分起訴と拘留、労働委員の□□□□、紛争処理機関の設置、さらに最近に至つては直接テロをも用い（松山機関区スキヤブ防止字品事件の如き）労働者を弾圧することに狂奔し外国資本の水先案内おも自ら買つて出ている現芦田内閣は国民の反対にもかかわらず□大反人民換算を可決し徹底した大衆収奪を強行せんとしているのである。

〔英文注記判読不能〕

一方マ書簡をめぐる G・H・Q 内には統一した意志でもつて今度のレターにのぞんでいるかの如く見受けられるのであるが、実は左にあらず。G・H・Q 始まつて以来の大内紛があつた訳である。それは七月三十一日付ブルジョア新聞にキレン氏（G・H・Q 労働課長）辞職の見出しでごく小さく取り扱われていた。

CIVIL AFFAIRS

労働課長のキレン氏、スタンチンフィールド氏は十二日この書簡を出すか出さぬかについて G・H・Q 幹部会議の席上現在日本の公務員がやつてゐることは法律の範囲を一歩も出ていないのであるから当然のことであり世界の最低線である。英国の如く非常に民主的な国においても官業労組に対して罷業権も国体交渉権も与えているのであるからこのような罷業権や国体交渉権をおさえること〔11 字判読不能〕に主張したが国家公務員課長フージア〔10 字判読不能〕ある。そこでキレン氏始め労働課の主だつたものはかかる新労働政策に反対し辞職をして米国に帰還したのである。そして UP 通信はかかる重大な問題を日本の新聞が発表しないのは卑怯だといひ更にくわしいことが分らねば情報を提供しようと言つたそうである。

（下村仁一「公務員法改悪反対闘争」）

V[iolation].Criticism of SCAP

政府は前項に示したような意図によってマ書簡を有利に利用して労組お弾圧しようとしたのであるが、労組をはじめ民主陣営の反撃とマ司令部部内の紛争、世界的世論におされてか七月二十二日以来右にゆれ左にゆれて七月二十五日頃発布の予定であつた政令は一週間おくれて八月一日ついに姿をあらわした。

（下村仁一「公務員法改悪反対闘争」）

078（「芸備教育」八・九月号）

Leftist Propaganda

これに対して〔13 字判読不能〕た□実に階級闘争の□□に□□□□ている文学芸術家は、その□□的〔12 字判読不能〕反映する。その〔9 字判読不能〕もつとも正しく実□的に〔9 字判読不能〕る。それは階級闘争を承認し、〔6 字判読不能〕革を□しだし、人間の階級的〔5 字判読不能〕する文学である。そのような文学は、□□の□□をつかむものとして、支配階級〔6 字判読不能〕の文学を否定し、階級闘争による人間□□をもつて、支配階級文学の現状維持的、□□の人間観を打破する。それは被支配階級の解放のための文化闘争の一翼をなしている。

（伊勢木忠男「文学の政治性と思想性」）

079（「芸備教育」八・九月号）

Leftist Propaganda

資本家が労働者の生産物を□□する部分を、これを利潤と呼ぶわけであるが、生産力が低下すれば利潤に寄食する余地のなくみなるのは当然のことではないか。だがかれらはさうは考えない。おまえたち労働者の生産物は僅かなんだから、おまえたちが十分に食うなどということは無理なんだ。というわけで労働者の生産物から、彼等の企業利潤としてとるだけのものをとり去つた残りを、たとえそれが労働者の生活資料の最低限以下であろうとそんなことにはお構いなく、これが賃金だと投げ与える。

Leftist Propaganda

特に日本のように農村に封建的關係が強力に残存し、高率小作料による生活の窮乏から農家の子弟が、家計補助的賃労働を求めて町の工場へ駆り出されるところでは、与えられる賃金もまた家計補助的な低賃金に押しとゞめられる。いわゆる印度以下的と称せられる賃金は、かかる農村の半封建□と結びつた日本資本主義の必然的産物である。かく不当なる超過利潤を吸いとることによつて、異常な発展を遂げてきた資本家階級に対し、今や団結の自由を得た労働者階

級が、生活保証給を中核とする正当な賃金の要求に立上った。その□□づけをなすものは、いうまでもなく価値法則にもとづく労働力再生産費説である。

(伊藤清「いかに賃金闘争をたたかうべきか—是佐忠男氏に問う—」)

080 (「芸備教育」八・九月号)

EDUCATION

だが□□□であるがためにアカハタに於けるがごとく特定の立場と特定の指導理念に芸備教育が立つような印象を与えるものとしたら、それは□の□者の□を極めて限定するものとなり、その包容性を次第に失つてゆくこととなるものではなかろうか。

同人雑誌でない限り、『編集者の趣味性に□さずできるだけ大きなスケールに立たうとする努力』(四月号編集後記)が困難ではあるが□される必要がある。だが、六月号の芸備教育はただ一つの雰囲気だけに包まれているように思はれる。それでは□主的な読者は(事実そのような読者は多いのであり農村人と都会人とは生活意識も階級意識も随分違うのである

(村上洋「芸備教育批判」)

081 (「芸備教育」八・九月号)

EDUCATION

われわれは資本家でも地主でもない。純然たる労働者の集りであります。

その労働者であるわれわれと、独占資本のためだけでなく彼らの新しい主人の利益にも奉仕している□□的、また□□的芦田内閣とその与党および民自党などの政党と意見が一致するという事は絶対にありません。

ただ労働者のため少数ではあるが資本家擁護の政府と戦っているところの共産党社会党左派、の政党とわれわれ労働者の意見が一致するのは当然ではないでしょうか。

[英文注記判読不能]

人民の苦痛と民族の危機はあげての責任現内閣とその与党および官僚にある。労働法規の改悪をけしにかけている民自党。社会党幹部は勤労大衆に対し美しい言葉で大衆をつり、第一党となるや社会主義の名において、独占資本の主役民主党的政策を実行してきた。彼らが政権につくや、人民を眠らせ、分裂させ、保守勢力に屈服させ、保守反動のために奉仕した。連立参加はかれらのいうごとく保守の分裂に役立つたのではなく人民の不統一にのみ役立つた。かれらは人民の純粋な支持を支配階級に売りわたしたのです。

(いせき生「芸備教育に対する批判の回答」)

082 (「芸備教育」八・九月号)

EDUCATION

官僚ボスはこの教育委員会を通じ教権の独立、教育民主化の美名にかくれて、実際には教権をわれわれからとりあげ、教育費を人民負担に転嫁しようとしているのだ。たとえば委員運営の□に当る事務局には教育長や指導主事の名で官僚(教育部課長)を中心とした一つの反民主的勢力をつくりあげ、それに地方ボスを公選委員として加えようとしているのである。こうした結果はいうまでもなく教職員の生殺権を完全に握る委員会によつて争議権のはく奪はおろか民主的教員の迫放、組合の御用化にむけられることは火を見るより明らかであつて、危機にひんしている現在の教育をさらに崩壊しめるのである。このような危機に対しわれわれはこれを防ぎよするためにはどうしても今回の選挙をわれわれ組合員が結集し闘いとらなくてはならない。

(「編集後記」)

083 (「芸南文化」夏季創刊号, 1946)

進駐軍軍令部長一行の招待会の日は朝からひどい風だつた会場にあてられたKビール会社の別館には硝子をはめるのに大童だつた。

手わけしてはめた硝子を拭いて回る人もゐた。県の招待なので渉外課全員が朝から風の中を立ち働いた。

課長S君は会場の準備から、椅子の配置、万国旗の飾りつけ、台花の置き場所、ビールやグラスの並べ方にまで苦勞してゐた。

すると案内役の自動車を先頭に五台のジープが激しい雨の中を馳つて来た。

軍令部長

この二人が閣下で、他は中佐、少佐、大尉といった階級の人達に見えた。

着物を着た日本の女達が、ウキスキーを注いで回つた。乾杯が始まり、ビールが盛んに回わされた。県の正式の招待なので、白いテーブルの上には、私達が日常見ることの出来ぬ、珍しい御馳走が並べられてゐた。

軍令部長

「私は非常に妻を愛してゐる。異郷に来て寂しく思つてゐる、此の雨の日に遠く離れてゐる妻を偲んでゐる。どうかこの気持を絵にして貰ひたい。妻に送つてやりたいから」

(神田周三「扇子」)

084 (「激浪」1-2月号, 1948.1)

クリスマスの前の一ヶ月といふものは将兵のスウプニアーの□訳の□忙しくて時にはキャンプに止まることもあつた。それも通訳と一しよに

タイプを打つ、二世の彼女の指が午後の日ざしに光らされて、まぶしく反射する。うつとりとこんな□情に浸つてゐると後から伍長が私の肩をノックする。ハッと吾に帰へると私にはもう夢想は破れ、現実の世界のはかなさが心痛く感ぜられる。

(藤本勉「近況」)

085 (「ギンノスズ 一・二ネンノトモ」二・三月号, 1947.2)

Keyleg No.4

アメリカりくぐん チャールズ・イーストン

086 (「ギンノスズ 一・二ネンノトモ」二・三月号)

Keyleg No.1

「道を歩くときの注意」

しんちゅうぐん

日本のたいていのところで、ひがりがわをとおるようになりました。

087 (「ぎんのすず 一・二ねんのとも」第四号, 1947.4)

Keyleg No.4

「アメリカのよいこたち」

しんちゅうぐん チャールズ・イーストマン

088 (「暁星」六月号, 1948.6)

[英文注記判読不能]

(片岡□「犠牲者」)

089 (「暁星」六月号)

[英文注記判読不能]

進駐軍ためらひもなく登りゆき玉座にて群集の写真撮り□□
ぎこちなく帽とりませば一しきり万歳の声高くとよもす
万歳を叫びもみ合ふ人波にひた押されつつ天皇を見る
日本人のすがたまさしく身に迫りうるむ眼にて天皇を拝す
慕ひ寄る奉迎の人のひしめきて□□の麦の踏み荒されぬ

□□の麦は群衆に踏み荒らされて天皇を秘かにうらみてやをらむ
(新迫皇義)

090 (「暁鐘」第二号, 1949.2)

Criticism of SCAP

国民は、政府を責むれど政府には司令部の指示に如何ともできず。
(「短歌」)

091 (「働く人」創刊号, 1948.1)

Key Leg No.1.

Occupation

Forces

進駐軍の仕事も時には辛しとぞ学生弟の手紙書き添ふ
(速水潔「雑詠」)

092 (「働く人」第二号, 1948.3)

Imperial family War Crime

キリスト、釈迦、孔子、レーニン、近くはガンジーこう云つた人達をこそ尊敬し、「人妻よ、帯をとけ」と命じた天皇制を尊敬するものの、一日も早くなくなる事を、紀元節と云ふ無駄な休日を返上して、新憲法記念日、メーデー、敗戦記念日等を作り、新しい民主国家の建設に役立てたいものである。

東條初め戦犯人達の氏名及そのあやまれる軍国主義、資本主義等を、小学校の国定教科書に明記してこれからの子供達だけでも、せめて正しい教育を授けたいと思ふのは、春樹一人の間違った考へとは、どうしても思はれない。
(森直次「旧正月」)

093 (「働く人」第二号)

Imperial family

[短歌一首判読不能]

(速水潔「天皇来る」)

094 (「働く人」8, 1948.9)

Leftist Propaganda

vio[lation]

兄さん。沢田の言つてゐた事が僕には今はつきりと解るんだ。あいつはまたかうも言つてゐた。——だから俺達共産黨員は其の貧乏と病気に苦しむ働く人達の爲に闘ふんだ。働く人達が自分達の体にしぼりつけられてゐる鎖を、重い鉄の鎖をたち切る爲に闘ふんだ——とたえず僕に言つてゐたよ……

Leftist Propaganda

vio[lation]

そして昨夜良夫が(働いてゐる者が貧しくて病気になるつてもなほす事すら出来ず死んで行かなければならない……重い鎖をたち切る爲に闘ふんだ、といふ沢田の言葉がよく解る……)
(幡田和夫「鎖」)

095 (「働く人」9, 1948.9)

V[iolation]. Leftist Propaganda

啓吉は毎日此の文字を見る毎に、「何くそ」と敵階級に対する怒りがこみ上げてくるのであつた。

敗戦と云ふ新しい歴史の頁をめくつてからこゝに三年、過去のあやまつた資本主義から脱却した筈の日本に、再びフアツシヨの風が吹き始めてきた。地下にもぐつた軍国主義者が資本家と手を結び、暴力団を使つて、再び過去の特権社会を生み出そうとする蠢動が、国際情勢の機運に乗じて頭をもたげ始めてきたのである。この蠢動は巧みに形を変へては現はれてくるのであつた。組合を民主化すると云ふ口実を設けて、無智で金銭欲に眼のくらむ一部の労働者を使つて、資本家は民主主義の芽生えを片つ端から摘み取ろうと謀み、

(森直次「ボイラー占據事件」)

096 (「働く人」10, 1948.11)

新日本文学会講師団の
(原田常彦「前進」)

097 (「働く人」10)

三原支部

労者文学会議

広島支部

勤労者会議

西日本詩歌入□□

勤労者文学会議

支部主催

婦人民主クラブ

新日本文学会三原支部と勤労者文学会議で合同の座談会をもつた。

療養所に文学サークル

勤労者文学会議

三原□□中心の勤労者文学会議を一応解体して、あちこちの職場にサークルを作らせて文学サークル協議会
(原田常彦「前進」)

098 (「働く人」10)

Leftist Propaganda

Vio[lation]

政府は、従来からの勢力は、自分達の立場を守るはかない望みから、多くの働く人々のことを考えない一部の階級のための政策を、いまだに捨てなかつた。

(胡木英男「嵐」)

099 (「働く人」10)

Leftist Propaganda

Vio[lation]

「労働組合の活動が、いかに労働者にとって重要な事であるか分らず、関心をさえ持とうとしない！此のような者は青年部へ入らなくてもよい！僕達は本当に労働者の立場に立ち、その爲に闘おうとするはつきりした同志だけで、青年部を結成すればそれでよい……」

(胡木英男「嵐」)

100 (「働く人」10)

Leftist Propaganda

Vio[lation]

真面目に働いているわれわれ労働者なれど、大ヤミブローカーをしている者が贅沢三昧の暮らしをしている社会機構を、根本からひっくり返すのも、またわれわれのみの犠牲によつて、わが国の復興を図ろうとしている支配階級の力を、徹底的にたゞきのめすのも、総べてを結集しての、□□□□の闘争によつて、はじめてなし遂げるのだ...」

立て鍛えたる者よ！ 暁がきた。暴虐の鎖を断つ其の日が—— そのおたけびは工場を震わし、天地に轟き渡つて、今ぞ！ 高く、高く、わが勝利の旗は掲げられるのだ——

そして、全人民は、その生活に喘ぎに喘いでいた。働いても働いても食つて行けず、食えぬ爲の罪悪が（罪悪ではなく社会悪だと友達に思つていたが）日々に増え、国内の混乱の度も、益々加わりつゝある今日この頃であつた。

会社経理が許さないから首を齧る。従業員は食えなくとも我慢しろ。ということは、労働者は働かなくともよい、死ぬということゝ同じである。此処にもヤミが流行し、犯罪が増えて行く必然なものがある。

これらに対しても、政府は申訳の、誠意のない対策を持つて臨もうとしているに過ぎず、寧ろ、喰えない釘付にした賃銀を押しつけようとして、労働者の憤激をかつている現状でもあつた。

労働法規などの改悪による労働運動の発展の阻止、労働強化、労働者の低賃銀などの犠牲によつて外資の導入を諮り、企業の再建を企てようとしている之等政府に対して、労働者は、今や全力を結集して、断乎闘おうとして態勢を着々と整えつゝあつた。

支配者階級に対する憎悪と、激しい憤りとなつて向けられ、それは全人民解放の爲の、徹底的な闘いとなつて現れました。

——世界の二つの対立は、国家と国家との対立ではなく、国家金融資本を中心とする勢力と、労働者階級を中心とする人民との対立である、一方の勢力は資本主義の矛盾を、あたかも国家間の対立であるかのように見せかけ、戦争が起るばかりに宣伝しているが、世界労連に集つた労働者階級は、強く大きく団結して、世界の平和と経済の立て直しを固く守つている。

——完全なる独立国としての日本の再建は、経済の復興は、われ／＼労働者を中心とする全人民の共同の闘争によつて、始めてなし得られるのである。この爲に、人民戦線を統一し、われ／＼自身の手で、生産を復興する爲の闘いを始めるのだ——

最低の生活を保障し、人権を尊重し、同時に生産の復興を計りつゝ、われわれは、われわれ人民の上に加えられている資本家攻勢に対して、徹底的に闘うのだ——

議長！ 議長！ 発言を求めて嵐の如くあがる手に、立ちあがつて真剣にのべる力強い叫び、割れるような拍手に、全国産別組合会議の活動方針は決定され、それによつて働く労働者の手によつて、日本の国は回転し、全人民は雄々しく立ち上がつて行くのだ。

会場の隅々まで煌々と灯つた電灯に、張り廻された赤旗が赤々と輝き、議長席にはスローガンが浮きあがり、埋める代議員の堅く結んだ口、するどく議長に注いだ眼、我々は議長と真剣の極に達していた。

彼等の政党の代表、他の労働組合、農民組合、民主的な団体、青年婦人団体の代表者が次ぎ／＼と彼等の前に立つて、激励の言葉を述べ、働く人々の奮起を促した。

議場の空気は、益々高まつて行く討議と、旺盛な意欲に、愈々活気に充ち／＼て揺いだ。

議長！ 議長！ 議長！

おお、この叫び、この声。——この手。

この叫び、この拍手こそ、独立国としての日本を再建し、世界の労働者としつかり手を結んで、永遠に平和な、搾取なき明るい世界を打ち立てるのだ。嵐よ吹け。嵐よ吹け——。われ／＼は嵐の中に生長し、嵐の中を一步一步前進して行くのだ。

林の如くあがる手に、怒涛の如き叫びに、議長は誰を指名していか迷つた。

何度手をあげても発言を許されないので、業を煮やした友達は、丸めた本をしつかり握つて高くかざしながら、体を机の前に乗り出して、議長！ 議長！！ と絶叫するのであつた。（了）

（胡木英男「嵐」）

V[iolation] Leftist Propaganda

彼はファシスト国家に対する戦勝後の今日も尚封建性抜き難きこの国に於て 長時間労働によつて資本家に搾取されつゝあるのであるか。彼が一月五十時間も残業せねばならなかつた事を、以前彼の口からきいた時にはおれは資本家の奴等めと憤激の血を湧かし持前の闘争心を煽られたものだつたが、
(速水潔「コント コモレスク」)

102 (「働く人」第十一号)

Leftist Propaganda

V[iolation] Incitement to unrest

創痍の満身血みどろで闘え。
蛇のように執拗に、蜥蜴のように兇暴に、
からだをよしやちぎられても、彼等の怖れる毒が、
人民の百年の怨恨と呪詛の凝結した毒気が、奴等
のからだにまわるまで、噛みついた歯を弛めるな。
一日でも長く生きることこそが、おれの彼等に対する闘いだ。
□□は□われねばならない。
借りは返さねばならない。
撲たれた頬は撲ち返さねばならない。
この抵抗の意志だけが、瀕死のおれを奮いたたせ、
きようのいのちを支えるのだ。 (四八・五)
(速水潔「瀕死の独白」)

103 (「働く人」第十一号)

Leftist Propaganda

Vio[olation]

重役達、特に己の私服を肥やさんとする輩とは勇敢に闘う、まあこう云つた性格の男だつた。
次第に激しくなつてゆく戦争のなかで、現場は、戦争を挑発した者共の真の意図を解しない工員達が必死に生産と取り組んでいる時、一部の重役連中は材料、燃料の購入売買にその量目をごまかし、私服を肥やさんとしたのであつた。
(森直次「愛情」)

104 (「働く人」第十二号 特集号, 1948.12)

自分らのは搾取されてゐるおなじ立場の者同志が大きく結びついて、共同の敵に当つてゆく。さういふ階級的な闘ひの中で自分達の生活を……自分の生活ではなくて、自分たちの生活を良くしてゆく。
(秋山三郎「母の肖像」)

105 (「働く人」第十四号, 1949.2)

もしアメリカとソビエツトが戦争にでもなつたらどうなるんだ。
(安原浩「或る一家」)

106 (「働く人」第十四号)

大東亜戦争

(釜山言志「現実 第一部」)

107 (「ひろしま」6月号, 1948.5)

愚かしい。生涯の最も不幸な時で
(阿部静枝「運不運」)

108 (「ひろしま」6月号)

Foreign Books

已に昭和十八年に、鶴飼長春氏は「アロウスミスの生涯」と題して翻訳を紹介して居られる。丁度戦争中であつたので、序文を書いて居られる斎藤勇博士も、鶴飼氏も、アメリカを知るのに好箇の作品として紹介されたのであろうが、それ以上に人生的叡智を教えてくれる作品として、私はこの小説を愛読した。

アメリカで評判であつた傑作が、日本で左程の反響もなかつたとすれば、そう思うことは勿論私の独断であつて、鶴飼氏に質しても見ないで、さう速断することは失礼であるが□□「アロウスミスの生涯」は大きな反響を呼びはしなかつたと思うのであるが、そうだとすれば、その原因は何んであろうか。曾て阿部知二氏らの訳された、サンタヤナの「最後の新教徒」も、左程の反響を呼ばなかつたのであろう。これも私の独断で、そんなことはないと言われれば読者から抗議されるかも知れない。そうならば私は幸福だと思う。

パール・バックの「大地」が、新居□氏に訳されて大評判を得た。故にアメリカ物も必ずしも反響を呼ばないわけではない。之には広告や宣伝もあづかつて力があるのであろう。併し商業的□□は考えないことにして、作品の性格から考えてみよう。「大地」は支那農民の生活を描いたものである。主人公王龍の生活は誰にでも理解されるものである。併し「アロウスミス」も「最後の新教徒」も主人公は知識人である。而も高級な知識人である。天才者だと言ってもよいかも知れない。普通人とは違うのであるから、一般読者の興味をそゝらないのであろうか。それではベスト・セラーにはならなかつたにしても、アメリカでこれらの書物が人気のあつたのはどうしてであらうか。

たゞ私の質問を提したいのは、アメリカで評判であつたものが、どうして日本で左程問題にされなかつたと云うことである。「アロウスミス」は決して大衆小説ではない。それにも拘らず或はそれ故に世界的名声を持つている。外国でも一般の人々は読まないであらう。併しこれを読む人の□の□□が国によつて違ひ、受けとり方に深淺の差がある。まして況んや、かうした作品の生れる国とそうでない国とがあるということ——私は考えてみる必要があると思う。

(小川二郎「アロウス」による反省)

109 (「ひろしま」6月号)

Art affairs

こうした性格は、現代でも東宝第一撮影所の従業員を除く以外の会社に強く根を張つている。彼等が如何に日本映画の民主化を云々してもその性格を持つている限り絶対に希望はない。彼等が自己を映画労働者であると自覚し、映画芸術の生産者である事を自負しない限り、日本映画の民主化はあり得ない。そして個人としての動きを団体としての動きにまで転化させない限り、映画労働者として共同の運命観の上に立たない限り、それは絶対に達成されないであらう。昨年多くの佳作を送つた東宝第一撮影所の労組の動きがこれを端的に物語つていよう。

(「米重忠一「日本の「夢の工場」」)

110 (「ひろしま」6月号)

reaction to Foreign article

ジョン・ハースイの「ヒロシマ」は昨年八月三十一日号の「ニューヨーカー」誌に載つた。そして昨年の多くの読み物の中で恐らく最も評判になつたものの一つであつた。広島あの悪夢のような瞬間を体験した人達はいかに生々しくその瞬間を想ひ起したろう。それ程この報道は真に迫つていたのであつた。

私は昨年の暮にこの「ヒロシマ」の登場人物の一人である佐々木トシ子嬢に送られてきた「ニューヨーカー」を借りて読んだ時にこれはただの報道の記事でないものを知つた。それは文学である。しかも正確な調査に基いた貴重な体験の告白である——客観的に描かれているとはいつても、その底にはハースイの温い人間性を深く沈めていたといつた感銘をうけたのであつた。身近い我々の体験を偽らずに何の誇張もなく描写した人が実は遠いアメリカから遙々我々の都市を訪れたハースイ氏であつたことはむしろ意外でさえあつた。

(榎井迪夫「ジョン・ハースイの広島」)

111 (「ひろしま」6月号)

Imperial Family

これは皆陛下の爲であることを信じて、雄々しく広島の人達は原子弾爆に死んだのです」と或女学生は日赤病院で語つた。

(「アルバム・アトムヒロシマ」)

112 (「ひろしま」一月号, 1948.1)

Info[rmat]ion]. Imperial family

V[iolation]. [判読不能]

□□二十二年十一月三十日から十二月十一日にいたる十二日間、わたくし共は、わが中国路に初めて天皇陛下の行幸をお迎え申上げた。わたくしは仕合せにもその両陛下のお側近く供奉申上る光栄を賜ったが、〔一行塗りつぶし〕十二日間であったので、わたくしはこの十二日間を□□なしに一年にも感じ又一時間にも思えて不思議な□□を感じると同時に、いささかの□□もなく無事大任を□し終えたことに対する管内五万の□□□への感謝と、今こそ真にわれ等の尊敬する□□□となられ、尊敬する父となられた天皇に対する敬意の念に満たされている。

行幸の途中、わたくしはしばしば新聞記者から感想を求められて、いつも「〔一行塗りつぶし〕」と答えたのであったが、大任を終って□日を経た今日でさえ、なお所謂「感無量」の一語が今のわたくしの気持を率直に表し得る唯一語のことばであると言う気がする、全く語り尽せぬ程の感想を持ち乍、何を語っていいのやら□□のまともならないもどかしさを不思議にもどうすることもできないのである。

「ハイ、□□します

と□□□□したが、この□□の□□にたしかに□が浮かべられていたのをわたくしは見逃さなかった。予め考えていた最善の文句がどうしても言えなかったと後で□□が□□していたがわたくしはこの□□に満ちた瞬間を恐らく一生忘れることができないだろう。

わたしがこの十二日間、お側近く奉仕した□に深い肝銘を受けたことは、陛下の御□□が全く□□なものであられると言う一事である。陛下は「人間天皇」におなりになつたけれど、その御心の□き美しさは正に神に近いものであることをわたくしは□□と感じた。陛下は遙かな□□□□かわれると言う人もあるが、わたくしは□□□□されるのではなく、全く陛下の御□□がそのまゝ発露するものであると言うことを確信することができた。奉迎会に対し〔2行判読不能〕、決してわれわれの考うる如く気をつかわれたり、況して□□を□うなど言うさもしいお心からのものでなく、本当に時間さえ許せば国民の一人一人にことばをかけたいと言う□□□□がそのまゝ、□□し□□さるゝものであることをはつきりと感得できたのである。

温かい□□に充ちた、しかも玉の如く清く澄んだ御心がひしひしとわたくし共の心を□つて、何とも言えぬ□い□かい感概を覚えるのである。〔1行判読不能〕、わたくしも偶々□奉申上げたが、任を終えたあとで所長は□□共□□□目されている組合幹部のもの、中にも涙を浮べているものが□□居たことを□□の中で語つていられた。勿論□□と□□とを□□すべきではないと思うが□□□に□する□□□上の□□が□ずるもの、の中に、もしも□□の天皇に対する□□とのザレンマを感じたものがありとするならば、感傷的□□感情もさることながら、わたくしは□□なる天皇の□□□の及ぼす□□□□ないと信ずる。

(小幡靖「行幸に供奉して」)

113 (「ひろしま」一月号)

Rightist.

職場演劇を指導するため総司令部に民間検閲部 (C.E.D) がある。上演する時には民間検閲部宛台本を二部提出する。提出した台本は、一部を残し一部が送り返されて来る。この民間検閲部は東京、大阪、福岡にあり、広島県では福岡に送るのである。さて提出する台本の右肩に作者氏名、左下に演劇名と代表者氏名、中央部に□名を書く。日本字書きした□名の上部ははっきりさせるためローマ字で書くのである。これは新しい民主々義演劇を擁立するために是非守りたいものである。]

(羽田義朗「脚本検閲について」)

114 (「ひろしま」三月号, 1948.3)

[英文注記判読不能]

群集のころは凝りて静まれり歩廊降りたすみ靴の音す
吾が前の御壇に高くたたすときお髭のすこしのびしを拝す
壇上に立たすたまゆらたちまちにおのずからなる万歳起る
(上村実「客専と防犯」)

115 (「ひろしま」三月号)

[英文注記判読不能]

この人たちがアメリカに送られた因はまだ終戦後の日本の有様がよくわからぬために、それまで凡ての日本人が考えていた通りに、自分達は今捕らわれてアメリカの病院で治療を受け、手厚い保養をさせて貰っているが、全快したら一体どうなるのか。平和になれば、自分達は日本に送り返される。なつかしい故郷、一日も忘れることのできない母の顔、ああ飛んでもゆきたい故郷の□□ではあるが、自分達は、内地の日本人に顔を合わせる事の出来ない捕虜となった不名誉な男である。自分ばかりでなく、帰れば、一家親族悉く、社会に顔向けも出来ない□□的な□□を受けねばならぬ身の上だ。そんな□□、自分はこのまま消息を絶つて、一生なつかしい母の顔も見ずに、このアメリカで百姓でもして余生を虫のように暮らすの外はない。しかしそれでは生きていたとて、開運の希望はまるでない。およそ希望なき人生というものほど辛いものはない。それはまさに、死より辛い責苦である。そんなら死のうか。と、そこまで考えてくると、かなしや人間の本能は、それを拒否する。とつおいつ、毎日がたゞ苦しみである。殊に著者は知識人であるだけに、その苦しみは、他の無知な兵隊よりも一層はげしいのである。だが、日本には再び帰らぬとして、つまり生ける屍としてアメリカに屈すにしても、せめて母にだけは、せめて自分がここに生きているということだけでも知らしてやりたい。とはいえ、それが果して母の喜びとなるであろうか。生きていながら再び帰つてこぬ息子、と思えば、母の悲しみは一人深くなるのではなからうか。と、この人は、来る日も来る日も果てしなきこの寂しい責め苦に苛まれる。

その時、たまたまこの病院にタイピストとして勤めていた、自分より歳の多い物静かなアメリカの婦人がいることに気付いた。この婦人は、戦前は学校の先生をしていたのだが、ほんとうに敵も味方もない、凡ての人類を愛する母のように気高い、やさしい人であった。何も言わず、ぢつとガンヂーを見つめるその目の中に、百千の□□より強い力づけと慰めとがあつた。ガンヂーは、日々の心の責め苦の中で、希望を失つた生ける屍の身で、しかも今は捕虜として敵国の病院に捕われている身で、日一日とこの婦人に母の如きなつかしさ、姉の如き慕わしさ□□は、朝に夕に忘れがたい仄かな恋心に似たようなものまで感じているのである。

中島司令官、□参謀長は、大本營の無理解な命令に、朝も晩もウイスキーのガブのみをしていたらしい。これでは兵隊はどうしていか解らない。敗くべくして敗けている。病院の中で、全く動けなくなつて、半死の状態になつていた患者が、アメリカ軍に救い出された。司令官も参謀長も自殺、沖縄は完全に落ちて、兵士が日一日と参つてきた。□□もよくなつた。そうなると思心矢の如くなるのは当然である。日夜思うのは、語るのは、ただ故郷のこと、家族のことである。こうして気も狂わんばかりに内地を思つている時、アメリカ軍の好意で、ラジオをとりつけることができた。今夜は、初めて、たえて久しい日本の声が聞かれるぞと、みんなラジオをとりまいていて、最初に聞こえたのが、何か慰問の夕べで、勝太郎のハア小唄であった。あの□□たる勝太郎の声を聞いて誰一人顔を上げる者もなく、ある者は膝を抱き、ある者は腕を握りしめて、ただ頬に流る涙を拭おうともしなかつた——とある。私が初にあげた四つの□□□□の中で、□□の一番しっかりしているのは、流石に文理大の先生だけに「沖縄の最後」である。

(築町長久「終戦後に読んだ本」)

116 (「広島教育」, 第 17 号, 1949.4)

〔英文注記判読不能〕

しかるに日本における独占資本の権力は旧勢力を温存し、警察軍を再編強化し労働法を改悪して勤労者の人権をふみにじり、民族産業を破壊し、科学技術を軍事化し、旧軍国主義を復活しつつある。そのみか支配階級は外務省近藤鶴代政務次官の言のように北大西洋防衛条約にかたどり、極東においても太平洋防衛条約を歓迎し、日本を軍事ブロックのなかに織りこもうとしている。これはまさにかれらが東條軍閥の防衛協定の再現を企てて新しい戦争に日本を駆りたてんとする野心のあらわれである。

(民主主義擁護同盟準備会「平和声明」)

117 (「広島教育」第 18 号, 1949.7)

一、『民主々義上』の影響

文部省は「民主々義上」を発行し高校及び中学の教科書として使用させようとしている。

これはかつての「国体の本義」の如く日本教育に大きな波紋を投げかける事件といわねばならぬ。乃ちこの教科書は当局が意図する如く民主々義についての国家的解釈として権威あるものとの印象を一般に与えるであろう。戦後民主々義に対する解釈に色々の表現が用いられその何れを選ぶべきかに迷っているものが多い実情から当然特別の権威をもつに至るであろうと考えられる、然も教科書として多数の生徒に読まれることを予想して書かれたものであるから叙述が平易で廉価である。このことは誰でもとりつきやすく手軽に買え従つてその影響力が大きいということの意味している。

最近数十万部も出版され市販として全国の商店にばらまかれるに及んでいよいよ文部省が意図している民主々義の解釈を統一しようとする底意が明かとなつた。

二、教科書『民主々義』の意図

(一)

この教科書の目的は共産主義批判である。

第一章から第十章まで長々と途中数々の伏線を引きつつ美しい言葉で民主々義を説き来り独裁主義を徹底的に排撃し最後の第十一章で結論としてソ連の共産主義は独裁主義であると断定しかかる思想は日本からは勿論真の民主々義国から当然排撃されるべきだと信じさせようとしている。このことは文部省自身が教育基本法第八条を犯していることを示している。

(二)

民主々義の方法的な側面に重点をおいて目的の面にふれようとしない。最も大切なことは民主々義は如何なる政治形態をとり如何なる社会機構により如何なる経済体勢になつた時が一番徹底実現できるかということをはつきり表すことである筈である。このような民主々義の目標としての到達点は極力さけて触れないようにしその方法乃ちあくまで暴力を排し専制を除き多数決原理によつて平和的に解結に至るのであるという点を強調している。なるほど方法としてはその通りであるだろうが目的の面から考えれば全き自由、全き平等を実現することが究極である。階級なき社会、搾取なき社会、人種、信教、性の別等を越えて全き自由平等を実現するのが民主々義の目的である。

平等は政治的に制度として法律に規定されることで事足りるものでないことは自明である。社会的にも生れ乍らにして特権を持つ者等の存在を許さぬは勿論経済的にも一方に極一部の富裕者が居り一方には飢餓に類した全く動物的な生存をさえおびやかされる大衆が居るようでは民主々義どころでなく大衆は一部富裕者の爲に存在する道具でしかない結果となり人権を抹殺することであると云わねばならぬ。社会科の学習として小・中学校で色々と社会の現実を見て来た児童生徒はこの教科書を読んで一応感心するであろうが自分の生活開拓の糧を何一つ学び得なかつたことをやがて悟るであろう。ただ吾々が危懼するのは教師の権威、教科書の権威を以て与えられた全く感情的な社会主義排撃の印象である。方法面についても日本の現実に於ける社会的経済的生活の非民主性乃ち生活難、闇の横行、はてはボスのちようりよう等々これらをどのようにすれば理性的に平和的に多数決原理によつて処理し民主化していくことができるかということを示した場合に於てはじめて方法といえるのである。このように目的を示さない民主々義の方法が巧みな言葉で長々と綴られ社会主義（共産主義）独裁の結論を導き出して之を排撃し現在の資本主義社会乃ち搾取搾取関係を縦続して大衆を手段としてのみ存在させようとしているのである。

(三)

信愛の情のみに民主々義の解決点を見出そうとしている民主々義の目的は自由と平等の実現にありその方法としては多数決原理がとられる、然しその底を貫いて流れるものは信愛である。労働者は賃金を犠牲にして生産コストを下げ然も生産を上げなければ日本は自滅の外はない。かくて資本家の利潤を保証するかわり自分等の生活が破綻し或は失業すれば彼等の情けによつて施される社会保証制度によつて救われる。資本主義社会を維持しつつ然も永遠の繁栄がこれによつて、これによつてのみ期待される。美しい言葉の皮をはいで見たら右のような実が表れるのが第九章第十章である。

三、資本主義社会の一部分による大部分の支配乃ち独占資本の専制を隠蔽している。『共産党が色々策略を行つている』が国民が目ざめ『政治的な対立をさけて共同の事業の爲に力を合わせ』る『民主々義的気持があるなら』『経営者と労働者との利害の対立といういまわしい現実もふせげろ』し『資本主義の長所を発揮しつつ社会主義的政策を適当に実施して自由主義経済の弊害を除くこともできる。』乃ち『労働者の団結権・団体交渉権が保障されている』『また協同組合や消費組合が発達して中小商工業者や農民や消費者が自らの利益を守れば資本主義の大筋を変えないで民主々義の目的を達成できる』と著者（当局者）の立場を正しいものとしておしつけ『かたよつた政治思想をいなく少数の人々が組合を牛耳り独裁的な権力をふるい』或は『せん動的共産主義者が国民の政治に無関心なのに乗じて権力を握りプロレタリア独裁によつて批判を許さぬ上からの命令によつて国民を破極に導く』ようなことがないよう嚴重な警戒を怠つてはならない』と組合幹部や共産主義者は独裁者であり民主々義の敵であるかの如く表現している。教科書として特定の思想、特定の制度をおしつけない客観的な立場をとるなら資本家の利潤によつて生ずる理由又その利潤が何処に溜るかという資本主義社会の資本独裁の実情率直に表現して学習者の判断に資料を与えるべきである。然るに資本主義の大筋を変えることなくむしろこれを維持することが民主々義の目的に叶うものであると結論づけこれをおしつけているのは許し難い偽まんどいわねばならない。

現在まで如何に独占資本が自らの利益擁護の爲に策を弄し制度を設け専制をやつて来たか資本家個々の政治活動、資本家の諸団体のそれ、石炭□管案のときの石炭業者の猛運動や土建業者の献金、銀行資本家等の諸団体の政治家への事業の関係、政府当局者への献言・警告、それら諸団体の内面的重力大臣・官僚との密接不断の交渉等国政処理の上に如何に作用しているか、イギリス自由党の政治学者ラムゼー・ミューアですら『鉄道所有主、銀行家、大産業家などは彼等の利益が議会で代表されるように特別の方策を取てとる必要を感じない（なぜなら普通の経路で選出された議員は、

間違いなく彼等大ブルジョアジーの利益を代表するから)のが資本主義社会の実情である』と力説している。(Ramzy Mur ; Trade Unionism and Trade Union 1927) (労働評論二三年十月号□木安藏氏) 国家公務員法・人事院規則により公務員は投票以外の政治活動は禁止され法第二六五号により飢餓賃金に押えられ、労組法労調法は労働者の争議権を事実上奪っている。選挙法は第三者運動を封じて組織を弾圧し金と顔のみが議員たる条件となつている。米価を押え一般賃金を釘付けにし公定価格による計画的インフレにより資本家の利潤を保証し、更に税法は大衆に重く資本家に軽く国家予算は大衆に極めて薄く資本家の爲にのみふんだんに使われ国民は義務教育さえ満足に受けられない仕組になつている。宣伝報道機関は資本家に握られ大衆は国政に参与するどころか言論の自由さえ方法を奪われて失つている。

これが資本家の支配であり独裁でなくて何か『民主主義上』はいう『言論の自由と結びついた多数決原理こそは、民主主義の本質である』と現状を顧みて労働大衆の意志が反映しての多数決が行われ言論が自由に発表出来ているであろうか。このように抑圧され弾圧されあらゆる制度によつて束縛されて大衆は一部資本家の手段としてのみ生存している。この資本主義社会を維持することが『民主主義の本質である』と説く教科書を我々に忠実に講義させようとしているのである。我々にも意志があり判断ができるということを忘れていたのでなければかかることを強要はできない筈である。

四、特に第十一章について

教育新聞所載尾形昭二氏(ソ研東京支部長)の所説を引用する。

私は『民主主義』第十一章に眼を通して、愕然とするとともに肌寒い思いをした。というのは、その『修身』教科書的な押しつけ主義、特定の政党支持または反対の教育禁止に関する教育基本法違反さては日本の政府機関による対日管理国を名指しての誹謗の是非はしばらく別として、いやしくも文化的・平和的な愛される国として立ち直ろうとする日本のその政府が、事もあろうに、次代の国民にたいして、一般的・理論的にならともかく、具体的にある外国を名指してこれを悪しざまに、否むしろその国に敵意を抱かせるような教え方をその「教科書」のなかで敢てしているからである。しかもその内容は、事実在即するならまだしも、徹頭徹尾不正確な、またはゆがめられた事実で満たされているのである。

たとえば、独裁は現在でソ連にだけ残つているといつて(二一五頁)戦後連合国がファツシヨ国として挙つてボイコットしているフアランへ党独裁のスペインの存在には一言も触れず、また一九一七年の十月革命でポリシエヴキーが労働者代表ソヴェトで「多数」を獲得して革命を平和的に実現しようとした事実、しかしこと志とちがい、「社会民主主義者の参加する臨時政府の暴力のために己むなく「暴力」に訴えざるをえなかつた歴史的事実をほおかむりしてあたかもロシア革命は本来ポリシエヴキーの「暴力」革命によつて実現されたかのようににおわし(二二〇—二二一頁)そしてソ連の「実情なるものについては、あるいはそれが階級独裁ではなく、実は「共産党の独裁」であるとして(二一五頁)政治局なるものが実は党大会によつて選ばれた中央委員会で選出された執行機関であることを伏せて、政治局がなにか特別の「少数独裁機関」でもあるかのように印象づけようとし、あるいはまたソ連の選挙は「推薦」候補に対して行われるとだけ述べて(二二七頁)その推薦が主に広く市民有権者によつて行われる(憲法第一四一条)ことには一言も言及することを避けて、かくてソ連の選挙になにか天下りの独裁、いわばあたかも「東條推薦」によつて実施されるかのような印象を与えようとしている。

これを要するに、この書物はこの章で、ソ連とは「暴力」を信奉する共産党が遮二無二「暴力」で政権を獲得した国で、そしてそれからというものは、共産党、否、そのうちの極く「少数者」の民意を無視した「独裁」下にある「非民主主義」の国だと、右のようにあるいは事実をほおかむりし、あるいは事実をゆがめて押しつけようとしをいるのである。

が、しかし国民は、プロレタリアの支配し政治する国がなぜ今日の大をなし、卑近には、世界的水準の優れた映画をどうして作りだすことができたかを知りたがつているのである。もしかりに、この書物が説くように、少数者の独裁に抑えつけられた憐れな自由のないソ連が「真実」なら、それならそれなりに、今日のソ連の力がなぜそのなかから生れたか、そのわけを一応は教えるだけの親切と雅量があつて然るべきである。

もしそれができない、それでは都合がわるいというのなら、この書物はある底意を持つて書かれた以外のものでしかなく、したがつて「民主主義」の「教科書」としては、一文の値打もないといわなければならないであろう。

さきに述べたように日本はこれから文化的な平和国家として、世界の凡ての国、とりわけその隣接国、ソ連、中国、朝鮮とはこれまでも増して仲よくつきあつてゆかねばならぬ。しかもその中国と朝鮮も、早晚全面的に、共産党を中心とする人民の支配する国となるであろうことは予想される。それなのに、私たちの文教の府はこれらの国に少しでも理解を持たすかわりに、反対に、これを民主主義の敵自由と人権の敵、その敵の支配する排斥すべき見させた国だと文字通り敵視する教育を強制しているのである。ロスケ、チヤンコロ、ヨボと次代の青少年の間に、まだまだ別の意味の新しいファツシヨの独善思想が生れなければ幸いである。新しい日本、独立「民主」日本の、それは正しい在り方とはどうしてもいうことはできない。(筆者はソ研東京支部長)

五、結び

教育を真に民主化する爲の職場に於ける絶えざる闘争、労働者として民主日本建設の根基に培う爲の教育の充実、これが文化闘争でありこれが組合運動を充実させるものであると考える。

かかる意味に於いて毎日取扱う教科内容について十分な批判検討を加え精選しなければならぬ教科書の実質的採択者は我々である。今回の「民主々義」上の如きは採択しないことが最も賢明であると思われる。文部省も一応表面は準拠すべき権威としてではなく、参考であり批判すべき手懸りとして提示したものと思うが、実際に意図する所は単に教科書としてのみならず広く一般国民の準拠すべき権威ある民主々義の定義とする含みであることは容易に察知できる。故に仮に採択するとしても充分批判を加え取扱いに誤なきを期する準備がなければ、日本民主化の上に永く禍痕を残すであろうことを懼れるものである。

(佐藤熊太郎『「民主主義上」所感 文部省教科書の反動性』)

118 (「広島教育」第18号)

軽率無批判に流行に追随し又は個人的名利の追及をその動機とする者である。そこには流行を白眼視

現実遊離的性格

相互遊離性又は学科的割

(虎竹正之「カリキュラム運動の展望」)

119 (「いづみ」第二号, 1947.2)

Key Leg No.1,4

終戦以来、水上署復活の努力が続けられたが、此度六十名の定員と百万円の経費と十九隻の船舶の転用を受けることによつて、漸く旧臘十八日に之が発足を見たのである。此の蔭には、進駐軍当局の積極的な支持、就中広島軍政部ソーマス大尉の絶大なる後援を忘れることが出来ない。

(本多武雄「水上警察の発足に就て」)

120 (「いづみ」第二号)

「いや、やくざ物が良いんだ、日本精神と言ふものはどんなにデモクラシーの世の中になつても保存せねばならぬ。やくざ物の中には義理人情の日本精神がかくされて居るんだ。この芝居をやらせることは日本精神を保存させて置くことになるんだ。」

(内海潮二郎「署長日記」)

121 (「いづみ」第二号)

Key Leg

連合軍占領軍の占領目的

(「教養資料」)

122 (「いづみ」第二号)

Key Leg

連合軍側の理解

進駐軍の観覧

タムソン中佐

(大木明「柔道剣道競技大会記」)

123 (「いづみ」第四号, 1947.12)

D 乗車の時自分で持っている取調べを受けるので闇の荷物は赤帽に頼むようです。

(公安課「警乗員を囲んで」)

124 (「海田文化」第3号, 1947.10)

Information

一、安芸郡青年連合会綱領

本会は県下青年連盟相互の親睦と意志疎通を図り、共同□的の□□を期するを以て目的とする。

二、結成□□の概要

教職委自主的民主地方団体として、各地に興つた青年団体は、結成以来略半歳を閲し、逐次相互に意志の疎通を図り祖国再建の一大運動を展開せんとする気運□□となり、郡下青年有志懇談の結果準備委員会を設けてその設立準備にとりかゝつたのが昭和二十一年三月十五日であつた。其後菅原（船越）申山（奥海田）安倉（海田市）垣村（矢野）の諸君が中心となり、種種協議をかさね、数度の委員会の結果として当海田市青年文化連盟に規約草案其他を委任し、同二十一年五月廿五日、海田市町明顕寺に於て郡下青年団体の協議機関たる安芸郡青年連盟協議会なるものが発足したのである。（会長山崎実・副会長菅原博・宍戸博・総務安倉確）以来半歳、協議機関としての任務を果し、同年十月廿六日横浜に於ける評議員会の結果発展的改組を避け、安芸郡下五十団体を傘下に収めて青年連合会が新しく発足を見てこゝに一歳を経たわけである。以下簡単にその行事を紹介する。

三、事業の概要

（イ）昭和二十一年度

五月廿六日 安芸郡青年連盟協議会結成大会 一、海田市町明顕寺 一、会長山崎実（海田市）副会長菅原博（船越）宍戸博（音戸）総務安倉確（海田市）

五月卅一日 広島地区繊維労務処理委員会 一、広島市勤労署 一、安倉総務

六月一八日 安芸食糧危機突破対策委員会 一、安芸地方事務所 一、山崎会長

七月七日 第一回評議員会 一、坂村国民学校

七月一七日 金融措置令による新生活設定懇談会 一、安芸地方事務所 一、安倉総務

七月二〇二一日 広島県青年会議 一、三次町 一、安倉総務

八月二二二三日 安芸郡青年幹部講習会 一、音戸町□□□

八月二五二六日 安芸郡青年幹部講習会 一、海田市国民学校

九月三日 管内時局犯罪協議会 一、海田市警察署 一、安倉総務

九月七八日 第二回評議員会 一、小屋浦西明寺

九月二八二九日 広島県女子協議会 一、三原市女子師範 一、野村小夜子、北岡孝子（海田市）

九月二九日 郡下女子卓球大会 一、船越校 一、優勝野田憲子（海田市）

十月二六二七日 安芸郡青年連合会結成 一、楠浜説教場 一、会長山崎実（海田市）副会長菅原博（船越）宍戸博（音戸）総務部長安倉確（海田市）社会部長申山八太郎文化部長佐々木初一（田原）体育部長笹木豊（船越）産業部長中村政治（坂）

一一月十日 広島県スポーツ大会安芸予選 一、船越校奥海田校

一一月一七日 郡下末帰国同胞引揚促進運動始

一二月一日 海外引揚同胞越冬相愛運動始

一二月五日 年末宝籤販売始

一二月七八日 憲法講演会講師糸川成辰氏派遣 一、昭和村

一二月一四一五日 改正地方制度 新憲法講習会 一、奥海田村 一、判事森加重登氏及河田事務官

一二月二七日 宝籤利益金を援護資金とし寄附

昭和二十二年度

一月十日 幹事会 一、海田市明顕寺

二月一六日 県下団体長会議 一、□□ 一、山崎会長

三月九日 幹事会 一、海田市明顕寺

四月一二日 日米鮮青年交歓会 一、船越 一、安倉総務

五月二二二三日 社会科学研究大会 一、船越 一、安倉八木横□勝矢中島藤井

六月一三日 全国青年団体民生事業協力懇談会県代表派遣 一、東京都 一、安倉総務

六月五六月 第三回代議員会 役員改選 一、海田市町明顕寺 一、会長山崎実（海田市）副会長申山八太郎（奥海田）平如知之（上蒲刈）総務部長尾尻武司（府中）会計部長加藤一夫（海田市）社会部長（未定）文化部長山本南（戸坂）産業部長樽岡大作（瀬野）体育部長山本（中野）県連社会部長安倉確（海田市）県連常任委員山崎実（海田市）

[英文注記判読不能]

必勝の信念に敵なかるべき気魄を保ち負けて残りぬ
灰雲に実弾放ち兵を練りき山下大将中将の頃
マレーの虎ヒトラー西にゐし頃の東亜の地図を変へゐつるかも
□なき北満にして自らの手柄反芻しぬし虎かも
日本を救ふ者ただ我のみと頼らせてゐてあへなかりつも
敗るべき必然に奢豪語しぬ気魄と言はばその気魄さびしき
人類の正義にゆるぐところなし日本の英雄を殺すきはにも
彼あながち敵にのみ酷薄なりしにはあらざりき
自らに強ひてしことを敵にしひ世界の前に涙を流す
人間を殺し次ぎつつ彼の目に至高と見えしその理想はも
(庵東冬吉「山下大将」)

126 (「景雲」No.2, 1948.1)

□□に燃ゆる若き青年は考へてゐるだらう。

127 (「景雲」No.2)

□□によつて□□□希望も (以下文判読不能)

128 (「建造」第一号, 1946.5)

敗戦の原因は?
百姓が高射兵を見て「兵隊さんなぜあたネーだ」
兵隊「オマさん此の大砲は大正三年製で飛行機をうつても飛行機の方が速いんだよ」
百姓「アーン」
(「笑話」)

129 (「建造」第二号)

総力を結集して四年間苦闘を続けられた大東亜戦争は遂に三千年来未曾有の敗戦と言ふ□し忌じき□□に到達して終結した

先ず静かに現在の指導層を見□、現今の国政が血眼になつて戦争遂行に刻苦しているとき□国奴を□□年牢獄に繋留され或ひは又山中に□いて戦争を傍観し安閑たる日を過せし者共が民主日本の指導□吾なりと言はんばかりにのさばり出□□□□□いないか。
(中岡富勝「青年よ奮起せよ」)

130 (「建造」第二号)

[8行塗りつぶし。判読不能]
(HS生「自省」)

131 (「こだま」2月号, 1947.2)

Comment on Strike

「二・一スト禁止により□□□□に於て、一定の□□が□□された。理論的とは経済闘争もその究極に於てわ、政治闘争になつてきますが、我々の闘争わ、どこまでもその行為に於て経済闘争に終始しなければならないと、私わ考えます。」

「ストわ禁止された だが然し目的貫徹迄わ断固として戦わねばならない 他のあらゆる合法的手段を以て、闘争を継続していくより解決の途わない。」
(高橋歌夫「二・一ストを回顧す」)

132 (「耕人」七月号, 1947.7)

[1] Reaction of Imperial Systems

[12行塗りつぶし。判読不能]

(近保明男「白昼夢」)

133 (「興農」創刊号, 1946.9)

[2行判読不能]

[7行判読不能]

[3行判読不能] 再建を不可能たらしめる□□せられるを見て今後の日本は農業国にならざるを得ないと考へ、少くとも農を決心をせなければならぬと考ふる者多数を数ふるのであるが筆者は之に賛し得ない。交易が許される以上南方諸国が食糧生産に適し日用雑貨を□るのであれば我国は之に應ずること□□日本存在の意義があるのである。連合諸国も日本政府も工業生産の再開再建を望んで居り或種の重工業以外に許されるのではないかとの観測が漸次有るのである。商業面に於ては今後共民主義経済か社会主義経済かに依つて左右されるのであつて目下のところ未知数として置くのが妥当であらう。

(安原会長「創刊の詞」)

134 (「言霊」3・4月号, 1947.4)

国に寄せし心火おもへば今にしてなほかなしみの声の洩るるを

(岡本明「言霊集」)

135 (「言霊」3・4月号)

サボタージュの一途

(三原 野田勝巳)

136 (「言霊」3・4月号)

あかあかと秋晴れたれば国旗掲揚のポールが天に寂しかりけれ

(不明)

137 (「言霊」5・6月号, 1947.6)

劫火にし曝せしいのちおもほへば東京裁判を疑はめやも

(安芸 門長清美)

138 (「組合文化誌」創刊号, 1949.5)

の□に少人数で職員の多い経営体では、

(森田愛之「思ひついたままに」)

139 (「組合文化誌」創刊号)

V[iolation] criticism of Occupation

僅かに温もりの残つたペーチカに背を倚せて床に坐す。

飢餓と疲労に私は無気力な状態に於かれる夜なのです。お母さん、石油の少ないランプが小さくともつています、私の軍服のそして髪を短く刈つた影法師が兵隊のようです。

こゝはハヴロフスクを六〇キロ隔つと云ふ丘の上の捕虜収容所、そうして私は囚□の身、わたしがこゝにこうしているのを日本の誰も、お母さんさへ御存じない。

思へばかつて満洲の曠野に終戦をきゝ、丈なす□草の中に伏して転んで哭いたあの日から二ヶ月、

太陽に光あるさへ悲しかり祖国は敵に降りしと云ふに

白旗を掲げた幕舎に不安と空襲の雨の明け暮れ、泥濘を必死の逃避行、女なるが故に恐れなければならなかつた暗い夜「戦いは勝つべきものぞ」とは誰の言の葉だつたでせう。終戦になると樺木の部隊に配属になつていた弟のことも急

に案じられます。

お母さん、お母さんは私達けうだいの爲に夜もおねむりにならないのではないでせうか。生命ありて——と知らず術も無いもどかしさ、渡り鳥さへもう飛びません。

九月二十八日戦火に壊れた桂木斯埠頭から、多くの兵隊さん達と共にロシア船に乗せられた私達は、ハヴロフスクに護送せられそこからシベリア鉄道でウラジオに向ふのだそうして日本へと、いつとはなしに思ひ込んで居りましたから、まるで押取物資の一部のように狭い汚い船艙に押し込まれても、初めて与へられたロシア乾パンの菌のたゝぬ硬さにも、いくらか心愉しうさへ堪へられたのでした。

松花江を回江した船はいつか黒龍江を下つていました、「左岸にかつて国境の要塞堅固を誇つた北満洲の山々、燃へるような紅葉も鮮やかに静まりかへつて、神棲み給ふ故郷の山へ想ひを運びました。」

(林正カツエ「シベリアから母へ」)

140 (「組合文化誌」創刊号)

若草がもえ、桜が咲いて暖い春が来た。

人達はうき／＼としてそれを迎え、野に山に其の楽しみを求めている。此の数百年と変らない自然の恵みにも関らず、我々の社会には楽しまざる多くの人々がいる。明日の生活を□□□□。受けるべき医療も受けられぬ多くの人々がいるではないか？

我々の□□している社会は資本主義の社会である。しからば此の社会に大きな□□があるのではないか？。資本主義的な物の考へ方が楽しめる可き生活を破壊し、不幸な人々を産み出しつゝあるのではなからうか。又、これらの人達すらも、これ等のことに気づかずにあるのではなからうか。

資本主義□□させる□□力は資本主義経済機構の中にあり、其の経済とは、資本家が金儲けのために行う行爲である。これ等資本家が、如何に多く金儲けをし搾取するかによつて、資本主義社会の発展はとげられるのである。

搾取とはしほり取ることである。強き者が弱き者より取りあげる事である。勿論、資本主義社会には、資本家達に都合のよい政治・法律・思想があつて、これらの法則は何等怪むことのない立法的なものとされてゐる。

しかしこんな社会に於ても、総ての人々が楽しく、□か、に不和もなく生活出来るように願はぬ人はないのだが、其の願たるや極く一部の人々に適用され、その他の者は邪魔でなければそれでいゝのである。こう云つた思想が意識的に、或は無意識的に行なはれ、我々の生活を支配してゐるのである。

「生活が苦しい。食へないではないか」と叫ぶ。働け！ 働け！ 眠る時間も働けよ。人一倍働け。そうすれば食へないことはないではないかと。「貧民よ、食へないか」「これを上げよう」「病気が」「それなら慈善病院へ行け」と。これで悩める喰ふに食なき人達はいない筈になつてゐる。しかしこれは皆、資本主義の魔術ではなからうか。人の情にすぎる程の生活程度でない、嘗つての中産階級の人々があたり癒る可き病を入院も出来ずに□つて行つた悲しい実例を度々見るのである。持てる人々が少しでも出し合つて不幸な人達を助ける「助け合ひ運動」は人間の美しい行爲であるが、かゝる事業がなくても吾々働く人達みんなが最も幸福に暮せる社会があつていいのではなからうか。

かゝる不平等、不合理な社会を、より理想的なものにすることは吾々に課せられた大きな務めではなからうか。かくして自由な世界が訪れたとき、春のひざしはよりなごやかなものになるであらう。二四・四・一〇

(平瀬直之「ひとりごと」)

141 (「郷友」五月創刊号, 1946.5)

1

危険だからよせ——と止めて呉れる友人達の忠告を無にして、須川は開城行きの列車に乗つた。その開城には、もうソ連軍が入つてゐる。——と盛んに噂の飛んでゐるときであつた。北鮮方面から逃げてくる避難民達の話では、武装を解除された日本の兵士達はすべてシベリヤへ送られたらしいと言ふ話だつたし、十五歳以上の男達はみんな狩り出されて重労働を課せられてゐるといふものもあつた。そんな中を開城へ帰るといふことは、好んで死地に飛び込む様なものであつたが、須川は妙に意固地な気持ちになつてゐた。朝鮮ぢゆう何処へ逃げたつてソ連軍かアメリカ軍の眼から逃れることは出来ないではないかといふなげやりな気持ちも手伝つてはゐたが、矢張り長年住みなれた土地への本能的な愛着のせいであつたのだ。五月の九日に招集を受け、もう二度と帰つてはこないのだぞ、と自分で自分にいひ聞かせて、身辺の整理もすませ、僅かばかりではあつたが家財道具も処分して、すつかり割り切れた気持ちで出て征つたつもりであつたが、終戦でいざ内地へ引きあげねばならないと、なつてみると、今更らのやうに胸の奥底に何か整理のし切れない滓のやうなものが残つてゐるのを感じさせられ、我武者羅に引き返す気持ちにかり立てられた。係累のない、身一つの独身者のことなので、派遣地の済州島から真直ぐに内地へ引きあげようと思へば、それも大して困難なことではなかつたのだが、部隊副官から「誰か、半島人の装丁を連れて京城まで行つてくれんか、京城で召集解除といふことにしたい——」

と相談を持ち込まれたときにはもうすつかり腹が決まっていた。「ゆきませう」と簡単に手を挙げ、多くの日本人達が雪崩のやうに、南へ南へと流れ込んでくる中を須川一人が反対に北の方向へ逆流していった。京城では、朝鮮人が暴動をひき起し、日本人と見ると寄つてたかつて袋叩きにしたり本町通りの日本人の家を一軒一軒火を放けて歩いた——と尤もらしい噂も聞こえ、日本軍の戦車が出動して機銃の掃射をあげせた、といふ話も伝はつてゐた際のことである。往年の万歳事件の騒動やら、東京大震災のときの恐怖の経験を持つてゐる者ならば、そうした騒擾は容易に想像できることである。そうした危険な場所へ、血気盛りの装丁達を六百名も輸送してゆくことは大変な冒険であつた。須川は然し、その冒険の中に進んで我と我が身を突つ込んでゆく覚悟であつた。どうせ一度は潜らねばならぬ関門だといふ決心が須川を大胆にしてゐた。須川は、復員の証明書を受けると六百名の装丁を連れて出発した。途中、二、三の不愉快なごきごきもないではなつたが予想外に平穩な輸送を続けることが出来た。半島人の装丁達も日本人への反感に煮えたぎるさきに、突然自分達の懐へ転げ込んできた思ひがけぬ幸運に我を失つてゐる風であつた。京城駅のプラットホームに整列させて『達者で暮らせ、立派な朝鮮を作つて呉れよ、日本人はみんなそれを望んでゐるのだ』と最後の訓辭を与へて、解散させたときには、日本の軍人として最後の勤めを果たしたことを神に祈りたい程だつた。呆つ気ない程な平穩な輸送であつた。任務が修了すると同時に、須川もやつと自分の身体を自分のものに取り返すことが出来たわけだつた。応召前住んでゐた開城へ通ふ列車の出るまでの数時間を、別れてしまへば二度と会ふことの出来なくなるかも知れぬ旧友達を訪問することにし、急に増えてきた朝鮮服の群衆にもまれて須川は京城中を歩き回つた。みんな、須川の無事で帰れたことを喜んで呉れた、然し、開城へ帰ることにみんな反対であつた。どうしても帰る——須川は意固地に頑張つた。帰らねばならぬ理由が別にないではないか——といふのが友人達のいひ分であつた。然し、何かに追ひかけられてでもゐるやうに卑屈な根性になつて逃げ回つてゐる日本人の中で、一人くらは敵地に飛び込んでいつてもいゝではないか——と須川はいひ張つた。理屈にならない理屈であつたが、それで充分相手を納得させたつもりでもあつた。お前はどうかしてゐる、死ぬるのか——と友人の一人がいつた。ふだんの須川を知つてゐる常識家の言葉だつた。馬鹿をいへ、どうかしてゐるのはお前の方だ。俺は日本人の眼をさましてやるのだ——それは確かに須川の本音であつた。然し、どうにかしてゐない、といふことが、こんな混乱した、常識の通用しない時期には却つてどうにかしてゐることを須川自身も気がついてゐないのであつた。そうして須川は汽車に乗つた。友人達も憑かれたやうに氣負つてゐる須川には全く手も出ない風であつた。階級章と星章はとつてしまへ、と部隊の命令であつたし、友人達も、それだけは外さないと連れてゆかれるぞ、と真剣になつて止めたが、須川は開城へ着く迄は絶対にとるまいと覚悟をきめた。たつたさつき迄は、胸の中に輝いてゐた軍人の誇りをそんなに簡単に踏みにじれるものか、といふのであつた。そこにも須川のいつにない意固地さが姿を見せてゐた。

日本人は汽車に乗せるな——といふ朝鮮人ばかりの列車の中で、須川は、中尉の襟章をピカ／＼光らせ乍ら坐つてゐた。何でも来い——といふ太々しさであつた。命をかけた緊張に、彼の顔は蒼白になつてゐた。

此の鉄道は、終戦前須川の長年通ひ馴れた鉄道であつた。車窓外に見える風景の、一軒一軒の家の立たずまひから、山や林の形、白揚樹一本の茂みにまで鮮やかな記憶が残つてゐた。さすがに、胸のふくらむ懐しい思ひがした。さち鯨張つた感情の角が少しづつ、水に溶かされてゆき、須川は軍刀の束に顎を据えてぢつと窓の外の風景をみつめてゐた。

「おや、いつお帰りですか」

いきなり肩を叩かれて見上げると、見知り越しの李といふ青年が笑顔で顔をほころばせ乍ら立つてゐた。

「やあ」

思はず相手の笑顔に釣られて須川も瞬間に笑顔を見せてゐた。

「今帰つたばかりです」

「それは、ご苦労さんでした」

と内地人らしい言ひ方をして青年は、

「何処においでだつたのです？」

と聞いた。

「濟州島」

「おや／＼、それは大変でしたねえ」

これが朝鮮人の言葉であらうか、と須川は不思議だつた。然し、その疑惑は何としても快い疑惑でないことはなかつた。

「飛行機が随分来たんでせう」

「いや、むしろ呆つ気ないくらゐ、毎日々々退屈ばかりしてゐました。ところで開城も變つたことはありませんか？」

「えゝ、大してねえ、一度機銃掃射を受けましたが何でもない様でした」

「ソ連軍は入つてるの？」

「いや、まだ入つてはおりません」

「開城へは入ってくるらしいの？」

然し、そんなことを聞いたとて無駄なことであつた。ソ連軍が入らうと、アメリカ軍が入らうと、戦争に敗北したことに変りはない筈だと、落ち着くところへ考へが落ち着くと、馬鹿／＼しい気になつて須川は、又元のやうに軍刀の束に顎を載せて窓の外を見やつた。ふいに、濟州島でK山に登り、東方に向かつて腹かき切つて死んだ同僚の若い将校の顔が眼の前に浮んできた。その将校は腹を切る前日、途中ですれ違つた兵隊が敬礼しなかつたことをひどく怒つて、自分の居室へ引つ張つてゆき「戦争に負けたらもう敬礼はしなくてもいいのか」と、残酷な程な制裁を加えたのであつた。その時の血走つたやうな眼の色や顔付きに、自分もなつてゐるのではないかと気の縮む思ひもしたが、その顔が何の連絡もなく不意に浮かんできたことが不思議であつた。ソ連軍が開城には入つてゐない、といふことを聞いてからの気のゆるみかも知れなかつたし、日本人に対して案外に朝鮮人が白い眼を見せないことのすかさされた様な呆つ気なためかも知れなかつた。汽車は、八時すぎて全く暗くなつた開城の町に着いた。以前に増して明るく電灯の点いた町並は初めて見るやうな美しさだつた。まだ日本軍の鉄道警備隊が残つてゐるらしく、プラットホームの防空灯の下にわびしい歩哨の姿が見えてゐた。

2

ソ連軍は、須川の帰つた翌日の早朝、此の街へ進入してきた。市民たちの間に人民委員会が組織され、ソ連軍を迎へる群衆のかん声はまだ明けやらぬ街中に轟き渡つて市民のねぼけ眼を驚ろかした。速製の赤旗が軒並に張り回され、大極旗と共にひた／＼と風にはためいてゐた。街はずれの、京城に通ずる分岐道路には関所が設けられ、支那の便衣隊のやうな格好をした人民委員会の若者たちが、警察から引き上げてきた小銃を抱えて立つてゐた。北方から逃げ出してくる日本人はすべて此の関所で身ぐるみ剥がれ再び北方へ追ひ返されるのだつた。そうした日本人達は、須川の宿つてゐる旅館や、内地人達の家へ来ては飯を乞ひ、夜になると別の間道を抜けて京城へ逃げていつた。それが毎日数百人と続いた。みんな脱走の辛勞をその額に浮かばせ顔や手は棒きれのやうに細く瘦せ衰へてゐたが、足だけは真赤にふくらんでゐた。若い女は、男のやうに髪を切り、朝鮮人の女の穿くチマを引き摺つてゐた。ソ連兵は関所の前の大道に立ちだかつて、日地人とみると、大きな手をあげて「ニボンジン、ダメ、ニツボンジン、ダメ」と繰り返してゐた。内地人の警察署長は拉致されたといふ話であつたが、いつの間にか京城へ逃げてしまつてゐた。警察官はすべて、嘗ては自分達がぶち込む役目であつた留置場へ反対にぶち込まれ、二日の後にはトラックで北の方へ運ばれていつた。三井物産の買ひ占めてゐた名高い高麗人参は、人民委員会の手へに接収され、倭寇の不正物資数千万円を没収せり、と真紅な張り紙が貼られた。朝鮮人の復員軍人を主体とする団体が出来、青年団も出来た。市内を警備すると称する保安隊も出来たが、そうした団体はすべて日本人達にとっては恐怖の的であつた。全くの無警察状態が続き、強盗が随所に出没し初めた。折りも折り、ラヂオはミズリー一号上の降伏調印式の光景を報じてゐた。

須川は、朝も晩も寝たり起きたりの生活であつた。立ち上るさへももの倦く、ものをいふにも激しい嫌悪を感じた。三度三度の食事は、朝鮮人の女中が運んでくれ、須川は、唯、飯を喰ふだけの動物に過ぎなかつた。うと／＼と眠つたかと思ふと不思議な睡魔が再び襲つてきたりした。完全な痴呆状態の幾日かが続いた。ソ連軍の指示で民間の兵器が引き上げられることになり、須川の家宝物の軍刀も引き上げられた。命よりも大切にしておいた軍刀であつたが、須川は嫌なものでも捨てるやうに簡単に彼らに与へた。宿の老婆が日に□度顔を出しては「若い者の癖にどうしたんだえ」と声をかけるのが日課のやうになつてゐた。老婆にもわからないうつけの状態だつたが、須川自身にも分らないので精神の虚脱だつた。信念の崩壊とでもいふのであろうか、須川の肉体の中では大きな闘争が続いてゐた。崩壊せんとするものと、それを支へんとするもの、激しい闘争であつた。そんなうつ／＼に似た状態が二週間ばかりも続いてから、須川の終戦前使つてゐた従業員が、須川の帰つてきたことを聞きつけて挨拶に押し寄せて来た。

「ご病気だつたのですね」

「本当に御苦勞なかつたのですね」

「どうして直ぐに知らせて下さらなかつたのです」

口々に労はりの言葉を述べ、気の早い者達は歓迎会をやりませう、と本気になつて騒ぎ立てるのであつた。

「日本人とは余り深い交際をしてはいけない事になつてゐるのですが、然し人情に変りには有りませんものね。私達で出来ることでしたら、昔の様に何でも言ひつけて下さい。乱暴者がやつてきたら直ぐに私の家へ逃げて来て下さいよ。中には訳の分らない者も居りますから、デマを聞いてどんなことをするか分かりませんし、余り外へは出ない様にして下さい。終戦直後に市民大会がありまして、朝鮮人で内地へ行つてゐる人間の方が、内地人で朝鮮へ来てゐる者より多いので、絶対に日本人には手を出してはならぬと布令がありました。心配なさらぬでいいのです」

小さな時から目をかけて、一人前の地位につけてやつた若者たちは、真底からそう言つて呉れる様であつた。酒好きの者達は、夜になると、こつそり牛肉と酒をさげてきては、

「一杯飲んで元氣をつけませう、なあに大騒ぎさへしなければ、誰だつて文句を言ふものですか」

と夜の更けるまで飲んでいつた。

須川にとっては、町中の不穏な形勢に較べ、親しい者達のそうした思ひやりのある愛情には不思議な思ひさへするのだった。

須川の精神的なうつけ病も、虚脱から浮び上がるに連れて少しづつ健康を取り戻していった。日本の政治や日本の軍閥を弁護しようと言ふ様な神経は、同時に日本人の弁護にもなるのだったが、隠されてゐたことが明るみに出るとつれ、激しい憤激に変化していった。それは自分でも容易に納得出来ない信念の変化であつた。負けることと分つてゐた戦争を初めた軍閥に対して、やり所のない怒りがたぎつてゐた。北方から逃げてくる者達は、生き死にの境目を通つてきた自分自身の不幸から割り出した、軍閥への激しい呪詛に猛り狂つてゐるものの様であつた。彼らは日本人とみると、口々に日本の軍閥の悪口を言ひ、指導者達の馬鹿々々しい精神をののしつた。須川の良心は、如何なる不幸にも耐え得る強靱さを持つてはゐたが、日本の指導者達の不貞腐れた無責任さに対しては火のつき易い爆薬の激しさを持つてゐた。日本は止むを得なかつたのだそれだけでなく人口過剰で、戦争によつて土地を取るか、或は戦争に負けて、人口を減少せしめるより他に方法がなかつたのだ。——と日本の初めた戦争を弁護するのだったが、直ぐその後ではその裏にひそんだ大きな虚偽に気がつき白々しい顔になつた。東條大将もその他の直接の戦争の指導者に対して、日本人一億が悪かつたのだ、と言ふ甘い弁護の考へ二週間の虚脱のうちで完全にかき消されてゐた。それは結局、日本人の無能と言ふ、信念の崩壊と言に落ち着くものだった。事毎にそうした相克が頭をもたげ、それを克服度に日本人としての須川の脱皮が行はれた。そうして須川は脱皮の底から蘇り、信念は失つたけれども、頑健な須川に還つてきた。大きな渦の流れを喰ひ止めやうとする一匹の蟻ではなく、大きな流れの中に身を投げ込んだ水の一滴であつた。

3

朝鮮人と言ふ人種は不思議な人種であつた。一個の群衆を形づくつた場合には、甚だしい攻撃性を見せるのであつたが、個人である場合には極めて善良な、思ひやりのある紳士であつた。□□の使つてゐた従業員もみなその例に洩れなかつた。重だつた職を与へてゐた者達は、五日に一度必ず酒好きの須川を喜ばせるために、なかなか手に入らぬ酒を提げてきて昔の思ひ出話にふけり乍ら飲むことに極めてゐた。日雇いの人夫や、給仕に至るまで百人に近い従業員達が代る代る顔を覗かせて「お変りはありませんか、何か御用事はありますか」と言つて坐り込み、もう帰つてもいい、有難うと言ふまでは決して帰らうとはしなかつた。二十年の朝鮮生活で、貯め込んだ常識ではどうしても型のつかないことだつた。振りあげた拳の、持つて行き所のない照れ臭さを感じる様なものだつた。真底から朝鮮人を愛してゐたればこそだ——と言へばそれだけの話だつたが、朝鮮人の□□な性質と言ふものが分る様な気がした。然し、彼等が掌を組み、群衆の塊になつたときの性格の破綻の心配がなくなつたと言ふわけではなく、多くの日本人はすべて、そうした群衆の塊を恐れてゐた。□々と□□されてくる夥しい□と□の□□は、益々日本人を縮みあがらせるに役立つた。そうして彼等が扱ひ馴れない兵□を持つてゐるといふことが、日本人の恐怖的となつてゐた。然し、日が経つにつれて、市民の□□も薄らぎ、そうした□□□□が□□をしでかさなことが分ると、ほつ／＼日本人達も街中を歩き回れるやうになつた。土木請負を業としてゐる九州生れの親爺なぞは平気で、□衣を着て街中を歩くといつた風だつた。ソ連軍も、日本人に対しては割合寛大だつた。家に踏みこまれて家宅捜索を受けたといふ話もちらはら聞こえてはゐたが、一般には何の影響もないことだつた。道の真中に立ち止まつて、日本人と朝鮮人が言葉を交はしてゐても白い眼で見る者もみなくなつた。この分ならば引き上げの時期まで不安なく暮らせる——と日本人の誰も彼もが安堵の胸を撫でゝゐた。

そんな一日であつた。

金井順子がひよつくり姿を現はした。案内もなく階段を上がつてきて、すつと襖を開く癖は、昔の儘の金井順子であつた。

くちびるを曲ませてニツと笑ひ、純白な朝鮮服をひらつかせて須川の枕許に坐つた。

「お帰りになつたこと李さんから聞きましたわ」

李といふのは須川の会社の庶務をやつてゐる男だつた。

「お元気でしたの？」

美しく化粧した金井順子の顔を穴の開く程見つめ乍らごくりとうなづいた。女の真底の肝を読みとらうとする貪欲な顔付きになつた。戦争の終はつたといふことが、この女をどんなに変化させたか、それを知るのが一番の欲望だつた。金井順子は、此の街の有名なブルジョアの娘であつた。父親が開けた男で、此の一人の娘には思ふ程な贅沢をさせ、純日本式な住宅を建て、やり、和服も好みに任せて買つてやるといつた可愛がりようだつた。日本語の家庭教師を二人もつけ、和服の着こなし方なぞも、正則な習ひ方をしてゐるので、日本人の若い娘達よりははずば抜けて美しかつた。そうしたブルジョア娘にあり勝な高慢さは却つて此の女の場合でも一つの宝物にさへなつてゐた。須川が初めて知り合つたのは矢張り此の街のブルジョアの家に誕生日のお祝ひで招かれた日のことであつたが、その翌日、突然電話をかけて寄越して、京城へ映画を見にゆくから連れていつて呉れ、といふのだった。こんな時局に途方もないことをいふ女だ、と一時は驚ろいて断はつたが、二度も三度も立て続けに電話をかけてねだられてみると、それが不快になるよりも、むしろ、快い激情を呼び起してきたのは不思議だつた。電話口でも一人で、キヤツ、キヤツと騒ぎたて、どうした女なの

だらう、と正体のつかめない興味さへ湧いた。雲を喰つて生きてゐる女、高い空の上で飛び回つてゐる仙女、そういう感じだつた。肉親以外のものと交際した経験を全く持たないためか、他人の感情などには構つておられない、といった我儘さがあつた。一度起した欲望は、どうしても満足させねば、おれないのよ、と自分でもいひ、むくつけな欲望を露はに須川の前に示した。それは幼い女の子の、甘え切つた姿に見えた。

その屈託のない美しさに、須川はころりと参らされた。三十近くにもなつておかしな恋愛であつた。女の幼なさを持つて余し、却つてその幼なさに引きづられてゐる、といつた風だつた。須川が出征する迄、女は時たまの父の眼を盗んで須川の室へ入つてくるやうになつた。どちらかといへば、そうしたことに謹厳なところのある須川は、却つて相手の無警戒な、考へやうによつては挑発的な態度に気圧された形で、手も足もないでゐた。男女の關係に發育の遅れた女ではなからうが、とさへ思はされるやうな娼婦型な媚態さへみせることもあるのだつた。が、結局は当然な道に陥いつた。成熟し切つた、立派な女だつた。滑らかな皮膚などに見える充実した若さは須川の目にも眩しいくらゐだつた。赤ん坊が生みたいといつてみたり、いゝえ生み度くない、といつたりして須川を手こ摺らせる程な關係になつてゐた。其処へ須川の招集だつた。覚悟は出来てゐたとはいへ、須川も女も突然に奈落の底へ突き落された感じだつた。然しどういふこともない平凡な別れになつた。いつておき度いことが山程あるやうで、いざ向ひ合つてみると何も話すことがないのが不思議であつた。それでは行つてきます、と須川はいひ、どうぞお元気で、と女も答へ何のこともない普通の男女の別れよになつた。別れねばならぬと分つてから、現実に相手と別れねばならぬ間の四五日が最も不幸であるべき筈であつたが、余り大き過ぎる幸福を背負ひ続けてきた感情の余情は、却つて、痛切な現実を稀薄にしてしまひ、むしろ呆つ気ないくらひだつた。が、不幸は、抱き締めた両腕の中に相手の肉体の感じられない現実の虚しさによつて、かると底知れぬものになつた。不幸だ、不幸だ、と何度も何度も、手紙が往復した。然し、間もなく手紙も途絶えてしまつた。アメリカの飛行機と潜水艦が出没し初め、船が通はなくなつたからだつた。須川は戦争の厳しさに少しづつ、女のことを忘れていつた。思つたとしてどううにもならないといふ觀念が段々強くなつてき、毎日我を忘れて高射砲と取つ組んだ。玉砕といふ悲壯な決心が日の経つにつれて感情の隅から女の姿を押しつけていくのだつた。そうして、突然の終戦だつた。

「あなたも」元氣だつたの？」

電気の光りの下で、女の顔は真白く見えた。須川は、その顔を見つめた儘いつた。

「え、」

女は行儀よくそろへた両膝の前で手持ち不沙汰な手を弄んでゐた。うんと顔の上にくくり上げた髪が、何か日本人の顔を思はせた。

「いつ、」お引揚げになりますの？」

「それが僕達の自由にはならないらしい」

「早くお帰りになり度いでせう？」

「それはねえ、どうしても引き揚げねばならないのだから——」

「お父様や、お母様はお元氣なのですか？」

「元氣なのだらうと思ふのですが——何しろもう一年も手紙が来ないのだから——。あなたのお家も変りはないの？ 順子さんのお父様は？」

「え、みんな元氣ですわ」

と女は答へ頻りと眼を伏せた。それが女の羞恥からだと思へた須川の甘さは、女の、突然に示した冷たさに根こそぎ持つてゆかれた。

「わたし、貞子といふ名前は変へましたわ、昔の貞植ですの」

拒絶の方法を、そうした形でしか表はすことの出来ない女の性質は昔からのものだつた。

「何にもなかつたわね、何も思ひ出すことなどありはしない——」

女は、突然そういひ、しげ／＼と須川の顔を見つめた。

「何にもなかつたことはないさ」

須川も冷やかな声で答へた。

「そんな考へ事をするひつようはないのではない？、何かあつたつていゝのぢやない？ それが少しも、僕の邪魔にはなりはしないし、あなたの邪魔になりはしない。そんなことはどうでもいゝさ」

「いゝえ、いゝえ」

女は駄々ツ児のやうに首を振つた。

「いけません。わたしは後悔してゐるんです、私は朝鮮人なんです」

昂ぶつてくる女の感情も分るやうな気がした。不貞腐れた女の苦々しさではなく、少女の激し易い感情であることは須川の素直な氣持を呼びさました。

「僕は後悔しない。後悔しなければならぬ理由が見つからないな」

「わたしは結婚します」

「結婚を？」

然しそれを改めて考へやうといふ気持は全く失せてゐた。

「私は愛してるんです。朝鮮人が朝鮮人を愛するのは深いわ」

「それはいいんだ、それはあたり前なんだ。然し、それは、何もかも忘れてしまへといふ理由にはならない」

「分らないわ。そんな甘いこと！」

甘いこと、は痛い言葉であつた。何処でそんなとげのある言方を覚えたのだらうかと自分の知らないうちに、女の心の片隅に陣取つたもの、姿を盗み見たい気にもなつた。

「日本人には——」

言ひしぶり乍ら貞植は言つた。

「私達は 敵意を感じるわ。それは、これから一日々々高じて高じてくるに違ひないわ」

「僕とはまるで反対だ」

「それは」当然だわ、朝鮮人の、これ迄の惨めな境遇を考へれば——」

「……」

「わたしだつて考へてみれば、あなたに大変な負け目を感じてゐたのよ、いつも朝鮮人、朝鮮人つて馬鹿にされてるぢああるまいか、と思つて——。あなたは、そんなことない、とおつしやるかも知れない。あなたがどんなにお考へにならうとも、私達の負け目は日本人に制服されてゐる限りは永久に続いたんだわ。でも、今はもう対等ね。日本が国家だつたら、朝鮮も立派な独立国よ。わたしは、もうあなたに負け目を感じず必要もなくなつたわね」

「それは全く君のいふ通りだ。然し人間の愛情とか、何とか言つたものが、そんな外面からの出来事でひよつくり變つてくるといふことなぞ僕には考へられないな。そんなに容易くは崩れないのが人間性なんだ」

「私達は一度日本人から教へ込まれ、知らず／＼のうちに日本人臭くなつてゐたのをすつかり洗ひ落さねばならないのよ。言葉にしたつて、物事の考へ方にしたつて、道徳にしたつて、愛情にしたつて——。それには憎むとうふ事が必要だわ。愛情のあるものは捨て切れない。先づ憎むの」

「憎むことから初めるといふのは、何事にしろ僕は反対さ。憎悪からは何も生れてこないよ。例へ生れて来たにしても暗い翳がどうしてもこびり付く、不健全なものがね」

「わたし帰るわ」

急に金貞植はいつた。

「御機嫌よくね。あなたとわたしの喰ひ違ひは、血液の相違なのね。お元気で、御幸福に御暮しになつてね、もう会へないと申しますわ」

「あなたもお元気で、幸福な結婚をなさい。蔭乍ら祈つておりますよ」

「さようなら」

「さようなら」

女は出ていつた。ほのかな香料の匂ひの残つてゐるのが何か切なかつた。女のいつたことは、それが当たり前だらう、と、納得出来るような気がした。立ち上つて電気を消すと、月の光が障子の影から忍び込んだ。不思議に綺麗さつぱりとした気持だつた。日本へ帰り度い、と思つた。水が青々と流れ、茂み合つた緑の木々の立ち並ぶ故郷の風景が思ひだされた。大きく息を吸い込むと、何か味を持つた空気がじつとりと、咽喉を濡ほして呉れる日本の空気、手足の四方八方から身体の中に浸み込んでくる、何か中味のあるやうな空気——。いつの間にかうと／＼とした。音もなく襖が開き、白いものが流れ込むやうに入つてきた。今井順子だつた。暫くの間、枕許に坐つてじつと須川の顔を見つめてゐる癖も半年前の今井順子の癖であつた。それからいつものやうに、指先を羞恥と情痴にたゞよはせ乍ら、遠慮つぱく須川の頬にあてた。薄物の衣ずれの音がさやかに聞えてゐた。

それが、今井順子との最後の別れになつた。ソ連軍は、三十八度以北へ撤収し、新らしく米軍が入つてきた。人民委員会はソ連軍とともに北方へ逃□し、親米系の温和な、民主主義の団体が出来上がった。市民は再び米軍を迎へる喚声でわき返り、市内は平和な溜息を取り返しつゝあつた。今井順子の姿はそれつ切り見ることが出来なかつた。須川達は、追はれるやうに引揚の汽車に乗つた。昭和二十年十二月の半ばのことであつた。

(宇野哲郎「前後」)

142 (「郷友」7月号, 1946.7)

戸田 進駐軍と日本の女性との交際が大分云々されてゐるやうですけど、よい悪いは別として見てゐて寒い感じのす

るのがありますわね。自分をよく考へなければいけないと思ひますわ。

(「自由婦人座談会」)

143 (「郷友」7月号)

光輝と榮譽に充ちてゐた、我□□□□は泥土に斃れました。国体の□□を失ひ、天皇制をさへも危地に陥れ、国家存立の基本に亀裂を与へんと□る敗戦の徹底的経験により、軍閥に対する憎悪、戦争利用者に対する怨恨、我々国民の肝に銘じている所であります。

食糧不足の現状は到底自給自足を許さず、輸入許可と船舶の融通に待つ以外に手段方策は無いのであります。

併し、此鍵はマツクアーサー司令部が握つて居り、許可、不許可、融通不融通は先方の自由なのであります。

(武田キヨ「婦人参政の意義」)

144 (「郷友」9月号, 1946.9)

〔短歌3首判読不能〕

145 (「郷友」11月号, 1946.11)

〔英文注記判読不能〕

元来□美なる民族的自負心は、他の民族の優秀なる文化の輸入に依つて、特に仏教、基督教の如き超民族的なる所謂□□宗教の導入に依つて、著しく減退するを常とするものであるが、我国に於ては、その固有の民族的文化体系が、島国としての鎖國的地理的環境と、それと□□を有する我が国民性の為に、牢国たる自律性を保持し、これら外来思想に対して頑強に抵抗した。

更に此の偏狭なる民族的自負心を助長した有力な原因に、我が皇室の血統の連綿性である。諸外国に於ては、神の子孫或は代官と信せられたる君主も、屢々臣下たりし次の王朝の始祖に依つて王位を奪はれて居る。此の事は君主の神聖性の信仰を根本的に破壊する。即ち此の信仰の□□と欺瞞性を完全に暴露する。

然るに我が国に於ては、幸か不幸か斯くの如き事体を欠いて居た。此の事は君主神聖観が諸外国に於けるが如く、単なる神話的伝説たるに止らず、一般国民の間に広く現代迄、現実的信仰としてその生命を持続し得た事の原因であり、此の所謂世界無比の国体の存在が無批判的に、我が民族の世界無比の優秀性を示唆するかの如く誤解され、曳いては、我が民族に世界征服の使命が与へられ居るかの如き誇大妄想をさへ、□□の軍国主義者の間に醸成するに到つたのである。殊に此の国体に於て注意すべき事は、我が国に於ては、皇室が人民一族の宋家であると信ぜられて居る事である。此の事情の為に、単に天皇が神の子孫たるのみならず、人民自身もその遠き淵源に遡れば、同一の神的祖先より分出派生したるものであると考へられ、従つて特に神の子孫として、他の国家の成員よりも優秀なる者なりと信ぜられるに到つたのである。

(中井虎一「日本民族のみが神の子孫か」)

146 (「郷友」2月号, 1947.2)

Readers Digest

ナチスは非凡な体格と勇気を持つ独乙青年を永久に保持せんが為に一組織を作つた。それはヒットラーの種族専門家が民族の為に価値ありと認めた特徴を持つ選抜親衛隊の屈強な若者に同様な望ましき民族的特質を有する完全にナチ宗に訓練された臨時花嫁を提供するを第一任務とするもので、実際女の候補者の補充は容易であつたからであつたといふのは見なきは恥との考を叩き込まれてゐた女達は男の戦死者の増加につれて独身で終る恐れに悩んで居たからであつた。臨時花嫁希望者には仕度金と賜暇帰還の親衛隊の男達の写真集が手渡され、その中から好む相手を選ぶ。彼等には素晴らしい交配所に改められたユダヤ人所有の別荘と徴発の美衣美食が飽く迄あたへられる。生した子は選抜親衛隊の年輩の夫婦者がナチス的環境で養育するのである。此の狂信者、贅沢追求したる女共は□億二十五万に上ると云ふ。(ドイツの臨時妻、リーダーズ、ダイゼスト七月)、此うして見るとこゝでは女共に

(若木礼)

147 (「郷友」2月号)

Reparation

第二には賠償の問題で、賠償措置物件が確定し実際に何時頃から撤去が始まるかというところが問題となるのである、これは何時になるか予想は出来ないが三月頃に始まるのではないかとすれば之に伴い大量の失職と云ふことが考えられる。(村田すすむ「我が国の小説について—私小説に即して」)

148 (「郷友」3月号, 1947.3)

亜成層圏を飛ぶためには暖房装備をしたB 29 を発明する。日本の勇敢な特攻隊飛行士は体当りで之を落したが、常態では落ちないことになつてゐるのがB 29 の構造である。

人にいのちを投げ出させるには、彼と我との間に恩愛の関係が前提となつて居らねばならない。葉隠の口述者は君主に享けた厚い恩愛の故に、武士道は死ぬこと、見付けたのである。人は己を知る者のために死するのは世界共通の心理であらう。東郷大将は旅順口閉塞隊員が船にボートを積込んで行き、生きて帰ることを約束したとき、初めてこの決死行を許された。この慈愛にみちた大将を通して、祖国のために身を捧げることは、決死隊員のよろこびであつたに違ひない。

Criticism of US

B 29 も単なる物量だけでできたものではないであらう。物量を生かす科学精神といのちを尊ぶ心とが協力して発明されたと考へられる。よしそれが武器といふ反人道的の道具であるとしても。

(小川二郎「アメリカ国民性について」)

149 (「郷友」10月号, 1947.10)

[6行塗りつぶし。判読不能]

(水木寛「インフレ総合対策推進の機いたる」)

150 (「郷友」10月号)

advertisement of unregistered books

[右頁下段書籍広告欄に対して]

151 「郷友」12・11月号, 1947.12)

(一) 農地法の批判

新農地法が設定せられ、現在それが実施遂行の途上にあつて、その帰趨を想像し、これを構想の基礎として農村経営の進路となし、運営までも語ることは、一種の創作に過ぎないと考へるが人類進歩の経路は、昨日の夢が今日の理想となり明日の実現となつて居る、ここに新農地法実施後に於ける農業経営の夢物語を書くのもこの意味に於て無意義でないと考へるのである。

政府はこの新農地法の設定目的をどこに於いて居るか木村農相の「新農村の黎明」と題する文から抜粋すると

農家の七割を占める小作農家と耕地面積の約半を占める小作地とを支配する小作関係は旧態依然たるものがあり、耕作域は不安で、小作料は高くしかも物納制あつたこのことは農村の封建性を依然として存続させる□□であつて、このままに放置せんか農村の民主化は望み難く、日本□□□は困難である。これ農地改革の必要が叫ばれるに到りた所以である。

(斯く述べられた、) 吾農地の主□は封建性の打破に依りて民主化を企図したものと解すべきであると思ふ、農地法の設定そのものは占領軍の指示に依るものなるが故にこれが批判の限りではないが、占領軍の目的が斯く迄の細分化を意図せられて居つたか否かには疑問に思ふのである。

農村はこの農地法によつて、農地資本が減じたのみでなく、窮屈になつて来たこれが農村の経営者に及ぼす影響は大なるものと思ふのである。農村資本を斯く迄粉碎せねば民主化が行われぬが、封建的思想の打破は不可能であつたか、これによつて黎明が来るかと私には疑問的考を起させたのである、これには他に内在的の意図が伏在して居るのではないかとまで思はせる程の粉碎であるからである。

農村資産に斯くまで強い圧迫を加えてまで打破せんと企だてた封建思想はそれ程までも根が深く且強いものであらうかと考えさせる、農村の封建性は農民自身から由来するものでなく為政者の有する封建的思想の反影が現われて居るに過ぎないと私は考へるのである。幕府時代の「農民は殺さぬほどにしほれ」と云う思想が明治、大正、昭和の今日までも依然として存在して居る、旧態依然たりとはこのことを指して居るのかも知れない。農民はこれが為に且那衆も必要

なれば、ボスも亦必要の存在であつた否現在も尚ほ必要の存在なのである。

農民の風紀性も亦法□的行政によるものであるからこれが改められるならば放任しても農村は改められて行くことを悟らねばならん。これを最近の供出米の例を見ても判明する、米価供出価格五百五十銭に決定した当時既に一般に常識的には越年すれば紙幣の流通高は一十億を突破し物価これに従伴して騰貴すると考え又稱して居つたにもかかわらず斯くも安価な単位に決定し、供出成績不良の現象を呈して初めて報償金とか、肥料の増配とか報償物資の配給とか色々の手が打たれたが、何れも初期の効果が得られないとなると、強権発動とか進駐軍の援助を仰いで農民に強迫の手を打つたのではないか。これでも「農民を殺さぬほどにしぼれ」と云う□□時代の思想そのままの政治をせぬとは云われぬであらう。

金融資本とか商工業資本の膨張に依る波紋が農村に及ぼして現在の農家が再び農奴に没落する素因が多分に含まれて居ると考えるのである。

農村資本の細分に依り、農業の発展性なきに愛憎をつかし、農業に従事することに嫌気を生じたり、増産意欲の喪失を招来したりして農村の思想面に悪い影響を胎して来ることを畏れるのである。

要するに現在改革の新農法の設定では表面目的は農村の封建制打破に依りて民主化を計ると称して居るが、実際は唯小作人を少なくして自作農を多くすると云う、農村の一断面のみを考えて、小作人に土地を持たせたいと云うことのみで専念した為に、限られた狭い耕地面積を□割にしてそれで平均し反□の自作農ができると考えたに過ぎんと想像するのである。それが為に地価も安く設定して買安くしたものと考える。

その結果農村資本の切り下げとなり、農村の自発的活動を封鎖し食糧□□に□るい結果を与えるとか、安い地価の□反余で生産の合理化が行われるか否か。□□□に資本の細分化で将来他の資本の侵入してなつた筈の自作農が農奴的存在となる素因の□□となす畏れがあるなどは考えられてない、□□のである農地法の改革に□□□□□□に起る可き現象を将来の□□□□□□の費料にし、それは現在の農家の経済状態を分析検討して結果を得て農村の進むべき道を求めたい。

然かしわが国全体が改革の真最中にあるので各種の法規も朝令暮改であるからこの結論も亦□□の範疇を脱せないと思うのである。

(中川春一「農村の進路——農地制度改革後に於ける農業経営——」)

152 (「郷友」第18号春季特別号, 1948.4)

militarism

さきにイギリスからは、ポンド危機の赤信号があげられ、かつてはドルとともに世界最大、最強の通貨として自他共に許したポンド貨が、第二次大戦後倒壊してゆく大英帝国の苦悩を身をもつて現わして、ついにSOSを発することとなつた。事態はこれだけに止まらず、経済悪化は社会不安へ、社会不安はついに公然たる内乱の一步手前へという状態をフランスとイタリイとに出現せしめ、今や左右□□の間に政権のかく得をめぐつて熾烈な闘争が展開されており、戦後の世界史はここに一新時期に入つたものと見られる。

Leftist

ドイツ占領下にあつた戦場で、最も活発な地下抗戦□□□□を展開したのは、共産党を中心とする人民勢力であり、いわゆる中間派的中産階級諸勢力も、かいらい政権に参加した者は別として、やはりこのような人民勢力に、抗戦□□において□□せざるを得なかつたし、従つて終戦後においては、かいらい政権を構成した反動的資本家、地主勢力がその責任を問われることとなり、経済復興が始まると、共産党を中心とする新しい人民的建設運動に追従せざるを得なかつた。このようにして、フランス銀行始め四大銀行の国有、炭鉱、公共事業等の国有という大きな仕事が達成され、各国それぞれ労働者の自発的協力の下に、経済復興が行われたのであつた。この世界的な潮流に従つて、イギリスでも、□□内閣の下に、英国銀行や炭鉱の国有化が行われたのである。

(桑野仁「アメリカと欧州」)

153 (「麻本呂婆」八・九合併号, 1947.9)

神功皇后西征の時、此海を過給へるみ船を
(「長井補記」)

154 (「麻本呂婆」八・九合併号)

火ともゆるますらたけをのかなし

(笹本尊之「景山先生を迎ふ」)

155 (「麻本呂婆」七月号, 1949.7)

秋来れば銀の木の実を鈴ならし君が八千代を祝ふ木もがも
君が代の千代の栄を寿ぐと植へし若木のかくも繁りて
三十あまり四年を経ぬる今にして念ひは通ふ銀杏大樹に
かそけくも鳴り居る葉ずれの音にさへ祖先の声の偲ばるるかな
むらぎもの心をどらせさまさまに友等の声を想へど空しき
待ち待ちし時は来たれどいかにせむラヂオは鳴らず口惜しきろかも
み車の窓より仰ぐ御面輪光り輝く心地するなり
湖を吹く夜風の今宵寒むければ衣重ねませ諏訪の一夜を
大正の御代の記念の杉銀杏いかでか今日を待ち居たるらむ
(田中みゑ子)

156 (「麻本呂婆」七月号)

さりげなく別れて来しが君見えぬ町角に立ち涙のごえり
逢はさじとうからやからは告らすてふ胸も裂くごと聞いていにけり
今日もかも臥しどにありて君を恋ふ術なかりけり現身の恋は
うつそみの恋しき恋を忘れむと黙して居れどいや恋まさる
しとしとと霧霖ふりける臥床に静かに食めり白き真粥を
しのびてもなほしのびても○芽のもゆるが如き我がこの恋はも
(□居名乃子)

157 (「麻本呂婆」七月号)

君と我れ深く睦みし来し方を思へば切なく遂に泣きたり
十六夜のくまなく照らす月光に安寝ねられず一夜泣きたり
現し身は遂に会ひ得ずしかあれどみ魂結びて清げく生きむ
(近藤澄江)

158 (「麻本呂婆」七月号)

夜を深く衣縫ひ居れば小庭辺の地虫しばなくこころかなしゑ
ひたぶるに背子を恋ひつつ夜の更ちひとり静かに衣を縫ひけり
つたなかるわれが手縫の新衣(ルビ にひころえ)めします姿見ればうれしも
心こめ縫ひし衣をめしいつかしき逢ふみゆかすあはれ背子はも
山坂は手を取りゆかむ川なれば吾を抱きゆくとあはれのたまふ
かずならぬ我れにはあれど誠もちただひたすらに祈りゆかなむ
(三浦笑子)

159 (「麻本呂婆」七月号)

白百合の花は寂し言はめやも消えゆく清き思ひ出に似て
(東野茂)

160 (「麻本呂婆」七月号)

山の雨ふると詠ませし師のみうた高誦しにつつ濡れて吾がゆく
(藤井□三)

161 (「麻本呂婆」七月号)

高□のみづの若葉の濡れ光り空けざやかに梅雨晴れにけり
(塩谷昌雄)

162 (「麻本呂婆」七月号)

梅雨ばれの夕陽かへしてぬれひかる八ツ手広葉を見てあたりけり
(鮎本刀良意)

163 (「麻本呂婆」七月号)

吉備の地に六月過ぎけり新たなる旅を恋ふれば心動くも
旅心名残を惜しむ二心交々起りすべなし吾れは
云ふすべもせむすべ知らず物思ひ旅のいでたち解きにけるかも
偲ぶだに□き憂き事しみじみと友に語れり現身吾れは
過ぎにける日々の苦しさ語らへば吾が事のごと友は憂ふる
明星の名にぞ偲ばむ若人が勇み仰ぎし雄々し山はや
勇みけむ水無月五日の思ひ出は又見るよしもなきますらをの夢
初々しなりいでたちも今に残るうつしゑ見れば偲ばるかな
深き礼捧げ別れしいくたりの師のまなごしを今に偲ぶも
(松尾峯太郎)

164 (「麻本呂婆」七月号)

卯の花の憂さarikれば夜川立ち年魚を捕らさねころなぐさに
成羽川なづさひ泣り年魚つくと夜川立なる燈火の見ゆ
(角川弘之)

165 (「麻本呂婆」七月号)

学舎の真昼しづけくせんだんの大樹の花はほのほひ居り
道ゆけばあるとしもなき初夏の風山峽にして黒髪なびくも
おのづから恥らひにつつも背のことを語れる妹のほのほのかなしも
(清間ちづ子)

166 (「麻本呂婆」七月号)

齊辺の苔生す中に真榊の瑞の若芽は萌え出でにけり
鯉山の尾上を渡る松風を神の御声とつしみて聴く
四方の海波立たぬ世を祈りつつ生きにけらしな沖津玉藻は
(甲田利貞)

167 (「麻本呂婆」七月号)

時に来て唯物論をそれとなく説き□かすから青年の愛し
(赤木一郎)

168 (「麻本呂婆」七月号)

野に山に色さやかなる新緑の目に映ゆる頃となりにけるかも
(福田景門)

169 (「麻本呂婆」七月号)

たらちねの母このませし山百合の咲くべきときとなりにけるかも
三日月の淡くわたれるこの夕べなべての思ひ□きにあり
折りにふれ荒みゆかむとする我れを恥らひにつつ夜半目覚めめて
阿波石の青きもよしと賞でにつつ御手洗の水に句碑を洗ふも
しろがねにまされる宝もたずしてそのかなしみになれる句碑かも
ゆにはなる杜の木漏れの月光の淡くひとすぢ句碑にそそぐも
(鮎本刀良意)

170 (「真樹」3月号, 1947.3)

共にありてきびしかりける隊長と別れて今日の想ひ出多き
(みとりめ 山口 田中幸市)

ポツダム宣言の指向

(新生短歌の起点 富山義照)

171 (「真樹」3月号)

幾度かためらひながら戦死せし人への思ひ母にあかしぬ
戦死せし君の忌日とひもずがら心にありて麦蒔き終へぬ
(双三 小河内幸子)

172 (「真樹」5月号, 1947.5)

fraternization asset

恐ろしと見しアメリカ兵の朗らかさ妻の晴着を振回しみつ
かにかくに船に乗りたり玄海の荒れなば荒れね晴日は□□ぞ
(豊浦 有田□□)

173 (「真樹」6月号, 1947.6)

allied personnel

原子弾に死にし子をわが語り出れば所在なきがに面を曇らす
(益田□吉「チャンバレン曹長」)

174 (「真樹」6月号)

あるアメリカの将校が「あのジャングル戦に死闘した兵士が背囊の底深く一握の糧沫と共に自分の詩を持ち帰つたら
どんなに素晴らしいことか」と英文雑誌に発表してあった様に思ふが、
(前原香「体験から歌を思ふ」)

175 (「真樹」6月号)

unrest

長兄ビルマにて餓死す
遺髪とてなきまでやつれうゑ果てしとか飯炊ぐ毎涙あらたし
(香川 矢野幸子)

176 (「真樹」6月号)

四月号抄

われとわが民を□□□□しれり護身のすべとするかさかしら
(山本康夫)

177 (「真樹」7月号, 1947.7)

進駐兵の言葉

(山本康夫「短歌をかく味ふ——五月ラジオ放送要旨——」)

178 (「真樹」5月号, 1948.5)

Talkie motion Picture

戦敗の故にこびるといふなかれ知に訴へて足らへるものを
山桜家屋ひそけく花咲けば翳は結ぶも心の旅路
□□貫く知性の森□□の深くして生命にふる音さへたす
仄々と知性たゆたふ□□貫き民主の□は明るかりけり
(林冷子「米映画」)

179 (「真樹」 5月号)

進駐兵ためらひもなく登りゆき玉座にて群衆の写真取り始む
(新迫重義)

戦に山も畑も野も家もありたけの力あげて破れぬ」
(□□□□)

180 (「真樹」 5月号)

八十余俵の供米割当受けし夜の更け深くして心定まらず
異常なる決意なるかな保有量圧縮供出を肯なはんとす
いさかひし後のさびしき祖母の愚痴さへすでに肯ひをりて
(双三 岩見英三)

181 (「真樹」 5月号)

Occupation personnel

総て□明るく見えて羨まし外つ国々の兵ら五月晴
支那にありて我が日の本の兵士等も斯の如くに無邪気でありしか
終便の船で帰りし姑の背のリュック代りて□を急ぎぬ
(安佐 佐々木喜美子)

182 (「真樹」 5月号)

供出の割当に不正ありたりと謂ふ人見れば皆農家なり
(音戸 角正)

183 (「真樹」 5月号)

内閣の総辞職に関する声明の字句さやかなりマッカーサー元帥
政変は必然なりとマ元帥の声明ありて明るき朝
(神石 青木義市)

184 (「真樹」 6月号, 1948.6)

Imperial Family

1. 進駐兵ためらひもなく登りゆき玉座にて群衆の写真取り始む
(神田三亀男「二潮流の考察」)

185 (「真樹」 6月号)

Civil affairs Japanese GS

通学路に土下座している写真にて米誌の論評いたく鋭き
(三津田丘)

186 (「真樹」 6月号)

Civil affairs Japanese GS

強権に買収されし土地なれど過ぎたる今を感動もなし
(森安ます代)

187 (「真樹」 6月号)

Civil affairs Japanese GS

不当課税絶対反対を交渉する時にも半数は弥次的な農漁民連盟
陸続と赤旗に従ふ列の中吾も又群集心理の一人
(村田和介)

188 (「真樹」 6月号)

Criticism of Map applied programs

自作農吾客観的にながめても無理云へるあり小作人の中
時代の激流なりと諦めし女地主の語るなげきよ
自作地も売らねばならずなりけるもこれのぼろ畑買ふ者もなき
(寺迫弘「農地改革」)

189 (「真樹」 6月号)

War Tribunal trials

東京裁判につぎつぎと真相あばかれて怒新に録音放送を聞く
(織田隆邦)

190 (「真樹」 7月号, 1948.7)

American Personnel

横名刺急ぎ取り出し親しみをこめて碧の瞳を向くる
へだてなく呼びて寄りくる異人種の瞳見かへす吾も和みて
リズムカルな親しき言葉訳し聞く「私にも短歌を教へて下さいませんか？」
匂ふごと笑みを含みて語る時この明るさなし日本女性には
(山本康夫「アメリカ婦人」)

191 (「真樹」 7月号)

Taken Taxation

供米の代価残らず税金に取られしと言ふ聞せぬ農家

192 (「真樹」 7月号)

Imperial Family Rightist Propaganda

天皇を□のあたりに今拝みたり菊さきにほふ□原の街
(津田□子)

193 (「松風」 第五号, 1948.10)

Occupation-Plans, Policies and Personnel

〔「俳句欄 (編集部選)」全体に対して〕
大竹や弥山の月の明らかに
県境は大和川とや秋涼を
秋晴や開校の事すらすらと
開校の落輝をトンボよぎるかや
ほつほつと橋目渡る虫や秋
(「開校」 藤井直人)

□□のたかぶりさめし秋の蝶
舞神の極まる虫のむせびつゝ
(「戦没海兵に捧ぐ」 藤井直人)

□□とは七川渡る野分から
(杉本竹舟「広島抄」)

初夏の風女囚の鬢のほぐれかな
塵もなき庭のあやめや女囚織る
矢車の咲く庭女囚は主婦ならず

(杉本竹舟「刑務所見学雑斤」)

凌□花の音戸より戸口調査かな
(岩本潭湖)

潮風や 若人来る日は近し
海近く 夏草茂ひて沈黙あり
漠々の旧兵団よ 夏の雲
山なみに夢結ばれん秋立ちて
秋立てど魚鱗きらめく海青し
(近藤満子「大竹行」)

まみどりの樹々をとほしてさわやかに光さしきぬ朝の机に
(大林力「短歌」)

194 (「みなと」7ゴウ, 1948・6)

私の昨今愚考する最も深刻な一例は昨今国民の租税力を無視する徴税に向かいつつある事であつて一方産業の勃興生産の増強を云うも実質的にこれが徴税強要をなしつつあるのが事実である。

吾人の投資事業に□□の所得の見積額と其□、資本額□□購入額なりに於て営業の国鉄建築□費なりにあてはめれば、不生産的なほう大な軍事費はいらなくなった今日、進駐軍費でも、いらなくなれば我が国家財政を賄ひうる所得額が〔以下7行判読不能〕

(岸本松風「近頃思ふこと」)

195 (「木槿」5月号, 1946・5)

必勝を信じ働きしこの庁舎米兵は占領すしかも笑みつつ
我が掘りし防空壕もそのままに米進駐の庁舎しつづけし
(小田民子「逝きし父」)

196 (「木槿」5月号)

英兵の観兵式を見にゆきぬ散る花に躍る集団の美神
(福岡保「天守閣」)

197 (「木槿」6月号, 1946・6)

夏木立さやに光れば焼跡の軍港も見ゆ進駐船も見ゆ
(幸野羊三「夏日」)

198 (「木槿」6月号)

一竿の焼野ヶ原の鯉のぼりここに男の子の意気はあるなり
(玉井明「五月雨」)

199 (「木槿」6月号)

□期し居し如く死刑と書かれをり従容とこそ死するがよけれ
敗るも習ひか蓋したゆまねば国の不易の大道に帰せむ
裁かれて汚名そのまゝ果てにける本間山下の末路をおもへ
(大内美行「一念」)

200 (「木槿」6月号)

恐ろしき火焰の中を逃げのびてよくぞ生きたりわがはらからは
(中村四郎「めぐり来て」)

201 (「木槿」 6月号)

戦災の早やひととせはめぐり来ぬ香華手向けつゝ祈る心ゆ
空爆の夜を思ひ出て胸迫る南無阿弥陀仏と唱ふ称名
(中村京「香華」)

202 (「木槿」) 6月号

母と二人恐ろしき夜をあかしたるひととせ前の七月の二日
(北川美佐子「思ひ出」)

203 (「木槿」 八月号, 1946.8)

我が国体護持せむ微力だになさば我ら甲斐ありし生涯とせむ
(大内美行「青潮」)

204 (「木槿」 九・十月合併号, 1946.10)

忘れてふことは難しも乙女われ雄々しき人は征きてかへらず
(川井澄子「□□」)

205 (「木槿」 十一・十二月合併号, 1946.12)

八紘為宇等の宣伝強制はその一つであつた。八紘為宇そのものに即ち我々の血に伝はる必然の歴史要素として何も邪悪はない。
(大内美行「腰を据ゑるところ」)

206 (「木槿」 三月号, 1947.3)

河の上にゆるる赤□□□の光りを裂きてハッパどよもす
(大賀幸雄「□□」)

207 (「木槿」 五月号, 1947.4)

G I の群華かに歩むあたり額あげて視む春はなかりき
(塚本邦雄「数寄なる花」)

208 (「木槿」 六月号, 1947.5)

八年振り昔を偲ぶよすがなし焦土と化せし呉の街なみ
(服部明「青葉」)

209 (「木槿」 七月号, 1947.6)

レイテの果苔むす屍魂呼びて今一度の言よせ給へ
(杉山倭文子「□を乞ふ」)

210 (「木槿」 九月号, 1947.9)

incitement unrest

セブ島に病み棄てられし弟よいつこに向きて怒り嘆かむ
マラリヤ放棄てて逃げられし弟の哀しみは一生われにとりつかむ
病む者は棄ててかへりみず上官等悠々と逃げて復員せるも
(天谷多香子「犬死」)

211 (「木槿」 十三月号, 1947.12)

天皇にもの申す声ふるへつつせつなきことを遺児は□ひたり
立札に未亡人席と記されて陛下にまみえ皆泣きてをり
(阿部英彦「感情の處理」)

212 (「木槿」 1月号, 1948・1)

R B T Oのネオンライトに現なく旅愁わき出づる夕なりけり
(松田尚子「真実」)

213 (「木槿」 1月号)

東條の被告弁護もをわりたれど何かをあはれむ心にもなれず
(吉富英夫「火風」)

214 (「木槿」 1月号)

Information].S

ふゆぞらの低きに帽を振りまして人間とのらす君が□□□□
(越智美子)

215 (「木槿」 1月号)

御声きけば恐多しと涙ぐむ国民性はかくも根深き
天皇制とかく云えども眼のあたり陛下□へてただ一途なる
(田岡まさ枝)

216 (「木槿」 1月号)

Information].S

いま拝す陛下はただによき父のよき父にます涙こぼるる
鶴形の山ゆるがすや万歳に陛下のソフトゆれゆれにけり
はろばろのみ疲れいく日いとひなき人間天皇まさ目に拝す
よき父になごりつきせず初吹雪お召しの汽車は遠のきにつつ
(和坂亀松「鶴形山」)

217 (「燎原」 四月号, 1947.4)

まざまざと記憶蘇る死の街にふたたびを来て人を診療す
原子症にうごめく人をみとりたる袋町小学校の門に来て佇つ
(田部節子「広島市を訪ねて」)

218 (「燎原」 拾月号, 1947.10)

Nationalistic Pro[paganda]

其球の平なる所に人の居て菓瓜に虫の生たるが如しと
墨瓦臘尼加を合て六大州といふ寛政八年官許〔以下判読不能〕
亜細亜の極東に在る我が大日本と朝鮮琉球大寛の色別され□□
寛政版の世界地図を広げ大日本の過去現在未来を想ふ
戦ひに敗れしてヤパン或□□□を寛政版の地図〔以下判読不能〕
寛政の昔〔以下判読不能〕
(尾道 □□「□□新訳地球全地図」)

219 (「燎原」 拾月号)

〔英文注記判読不能〕

重代の〔以下判読不能〕極刑もて小旅人らが〔以下判読不能〕

220 (「燎原」 二月号, 1948.2)

抛りしも□□と潰えし二十代よ手負ひし豹の如き我等よ

221 (「燎原」 二月号)

散乱せる反故あり祖国なほ富めりとソ連引揚者の第一印象

222 (「燎原」五月号, 1948.5)

Rightist Pro[paganda]

八絃宇とおほはむ日の皇子の□出□□□のひかりに

223 (「燎原」九月号, 1948.9)

V[iolation].Rightist

素戔鳴尊が大蛇退治まし、神代俣ばゆお手火祭に

224 (「明星 (青年の想ひ) 3」, 1947.1)

○ポツダム宣言第十条に

日本政府は日本国民の間に於ける民主々義的傾向の復活強化に対する一切の障害を除去すべしとある。此れに依れば連合国は我が国にも「復活」すべき「民主々義的傾向」が嘗てあったと解してゐる様であるが果してさうであらうか。

マッカーサー元帥は「一日も早く民主主義になれ」と命令した
(浜本明治「民主々義の復活」)

225 (「明星」第二号〔三原工業高等学校〕, 1949.3)

考えてみるとさつき「ピカツ」と光つたのは原子爆弾だつたかも知れない。そうすると夢であつたお蔭で命は助かつたわけだ。汽車は静かに動き出した.....

(村上幸三「西江へ旅」)

226 (「沼田川」新年号, 1948.1)

PC of Censorship

総司令部の□□□たので、ここに新しく新会員の応募もされるそうである。諸君大いに発表しようではありませんか。

227 (「沼田川」四月号, 1947.4)

A.Bomb

多くの人命を奪う原子爆弾に、夫の命は奪はれたのだろう。

[3行判読不能]

(桂木千文「面影」)

228 (「沼田川」七月号, 1947.7)

Fantasy of Airraid

[17行判読不能]

[5行判読不能]

(春日□彦「晩春」)

229 (「沼田川」八月号, 1947.8)

rationalization

1頁判読不能

(青野□□「同窓会にて徳島に□□□」)

230 (「沼田川」十一月号, 1947.11)

.....

私達の電信室は滑走路に近い唯一の二階建てで、以前は旅客機を待つ
(「山野三平 = ANAK DI DJAWA = ジャワの子供達」)

231 (「沼田川」新年号, 1948.1)

bad usage of word

軍艦マーチを

〔2行判読不能〕

〔1行判読不能〕

〔2行判読不能〕

〔1行判読不明〕

(山下利孝「犠牲者」)

232 (「沼田川」二月号, 1948.2)

Incitement to Unrest

そしてざーッと死の恐怖が彼を襲ってきた。□が来る！やられる！夢中で、まるで浮き立つやうにベニヤ板の天井を破った。どこへゆくのか見当はない。□□このままではやられるといふ意識が全身をとらへてゐた。スレートの□□瓦を踏み、ガラスの破片の上を越えて傾斜した廊下へ出たとき、講堂の□□が一人裂けた廊下に落ちこんで挟まれ、□□に□□の下になつて。

「出してくれ！出して呉れ一え」と喚いた。血に滲んだ□□あたりが眼に入ると、ギョツとして□□浮足だつた。すぐ□□に運び出し□□が狂つたやうに右へ走つたのを見ると、彼も続いてその傍へ走つた。□□□□に。□□な□を終えると、山へ□つて必死で走つた。ばら／＼になつて山へ逃げる□□□達を□□中を、□□□衣を乱して走つてゐた。山の裾まで来て、彼は荒い息が□□に□□き、苦しくなつて□□た。

そこではじめて彼は空を見、市街に眼をやつた。燃える燃える！凄じい□□で全市に煙が舞つてゐた。病院は□□□□火は出てるなかつたが、□く□□つた姿を見せてゐた。川向こふの竹藪□□つと火に□□で□□に消えた。山に近い家の燃えていないものは、瓦がめくられて波形をなしてゐるか、或は□□□□から吹き飛ばされて傾いてゐた。□野の火のやうに、めら／＼燃えてゆく□は凄じかつた。太陽は消えうせて、厚い雲が頭上を覆ひ、地上のみ灼熱の焰に焦げてゐた。六十米ばかり離れた所を突端を海の方に傾けて燃える焰の熱が頬に感じられた。ドドツと鈍い音をたてて家台が崩れるとバツと火勢があがつた。

ガタ／＼ガタと歯の根が合はない。身体が震へる。少し風が出たやうだ。ヒリヒリと背中と頬が疼く。耐えられぬほどの疼きに、明は己れの身体を見た。禪一枚の裸身を肩から、頭から腹から腕から、糸を引いて血が這つてゐる。白い禪が半ば血で染つてゐた。キラキラ光るガラスの破片が刺つてゐる。大変な重傷に思はれた。同室の患者が三人程逃れて来た。

「寒いだらう？ 病衣を取つてきたら、右手の廊下から入ると、被服庫が開てゐるよ。直ぐ出せる」

それで急に彼は寒くなつた。これだけ焼けてゐればもう爆弾も落ちてこないと思ふと、病衣を取りにゆく氣になつて歩き出した。

患者、看護婦と、白いものづくめの病院は、全く悲惨な状景であつた。咽喉の肉がごつぱり割れた顔見知りの患者が壕の端で横になり、血染めの看護婦に強心剤を注射されてゐた。室長が、責任感ありげに同室の患者を呼び捜してゐた。その彼も亦、赤く血を浴びているのだつた。

「笠谷さん、やられたね。ちょっと、うちのガラス抜いて……」

兵庫出身の日赤の看護婦矢田が破れた看護衣から血に染つた二つの腕を伸して来た。大きな破片が二つ、ツブリと深く刺つてゐる。彼が破片を指先でつまむと矢田は、歯を喰ひしばつて横を向いて。

「早うしてえな」と急いた。

思い切つてズバリと抜くと、案外平気で。

「見て、もうどこにも刺つとらへん？」

スカートを腰まで巻き上げ、それから看護衣の裂けた背中を見せた。

「もう無ささうだ」

「さう？ うち事務室にゐてやられてん、笠谷さんも刺つとるわ。取らうか？」

「いや、いいよ、俺で抜く」

興奮は容易におさまらなかつた。虞茶／＼にガラスの散つた傾いた廊下に入ると、ここだけはどうか崩れないで残つてみた。屋根の棟木が斜にかたむいて、今にも落ちさうに瓦が載つてゐる下を危ふい足どりで彼は被服庫に入り、病衣をとり出した。

山へ引き返す田圃の中の道で、彼は患者ならぬ、続々と逃げてくる避難者に逢つた。ペロリと頬の皮が顎でぶら下がり、或は足先、手先に経を下げたやうに皮の垂れ下つた老人、女、若者、子供の恐怖に戦く列だつた。何処でやられたのかモンベの紐だけ残つて殆んど裸身の若い女が目を白く腫らして、手を丁度幽霊の絵のそのやうに前に垂れてくる姿

(山下利孝「犠牲者(第二回)」)

233 (「沼田川」五月号, 1948.5)

貴様たちや死にさへすりゃいいんだ！何□くたばつてしまおうが、三銭五厘だしやおかわりがくるんだからなァ！——俺が海軍の訓練に参加した時、水兵達をどなつてゐた下士官の言葉が思ひだされたのだつた。三銭五厘の至上命令か——。天皇陛下は□ひとさが五銭五厘の紙きれを男子の本分ぢやと押しつけられてゐるのをよもや御存知あるまい。
(高峰雪彦「再会(第一回)」)

234 (「沼田川」十・十一月号, 1948.11)

letter of registration [以下判読不能]

月間 広告界新聞 一部十円

235 (「黎明」創刊号(三原), 1946.9)

ポツダム宣言受諾以来今日に至る迄此の乱世した社会情勢はどうだろうか。□も無力巷に彷徨する失業者の□□夜も恐れない強盗実は無政府に相憲の乱□状態ではないか
(沖田「青年よ奮い起たん」)

236 (「プレイメート」4, 1948.4)

rightist

戦場に臨む位の緊張を感じるでしょう。

237 (「黎明」第二号, 1946.11)

顧みれば大東亜戦争の完遂を祖国日本が必勝 [以下3行判読不能]
(坂本「青年よ奮い起て」)

238 (「黎明」新年特集号, 1948.2)

天皇行幸の□□□を新たに

資本家に対抗するのだ

(田頭「労働者の叫び!!」)

239 (「黎明」新年特集号)

Viol[ation]. Lefist Prop[aganda]

労働力以外の何物も□□□□資本主義の独占資本主義の段階へと高度化される□□資本家の飽くことを知らない□□□□生活権を脅かされる此の場合に我々に残された道は□□□□「人は生まれながらにして自由平等である」と云ふ人権宣言も資本主義社会□□の前には一片の反古に過ぎない。

(塩田「労働者の開放」)

240 (「黎明」創刊号(川尻), 1946.4)

昭和二十年八月十五日、日本が敗戦国となつた日私はどうしても日本の降伏が信じられなかつたが、それが本当だとわかつた時悲しくて、悲しくてしかたがなかつた。
今度日本を築きあげるのは私たちの力である。新日本を築き上げるには米国に負けないやうに、もつともつとすばらしい科学を發明して新日本の文化を建設しなくてはならない。

(原本まさ子「すばらしい科学を」)

241 (「黎明」第三号, 1946.8)

陛下は我々のその幸福を□□めておられるのであります。我々は不幸でもよい天皇さへ幸福であればよいは□□□□。私が我々が幸福でなくては正□の如く「□が生活している間は天皇の□運は必ずお開き致します」これではなくてはいけません。大□□□□の国民の幸福の□は□□□□のであります。

(高富主事講演「民主主義国家の建設」)

242 (「黎明」第四号, 1947.1)

GHQ

今日の日本で炭鉱罷業を行へば一応の希望を持つている日本の産業が□□状態になつてしまふのであります。マッカーサー司令部より□□□□が出されたのは如何に大切なことであるかを示しているものであります。

(広幸先生「民主々義に就いて」)

243 (「黎明」第四号)

description of A.bomb

〔1行不明〕御勅□白樺林の空地に□した時将兵一同軍刀の束も砕けど固く握り□て男泣きに泣いたのであつた。そして追はるる如く懐かしの故郷に帰つて見れば我が家は跡方も無く吹き飛んで愛しの妻子は行方解らず、水都の景観は焼滅し、焦熱地獄の中に呪ひの怨嗟をあげて死んで逝つたであらう幾十万の□魂と今だ浮ばれぬ白骨は季節から謂えば秋とは云ひ乍らも□を付く様な太陽の光りに叩きつけられ、雨露に晒され人の□を突く□□し、噫その時の悲しい想ひ出を今本川尻の一角に□□うした悲しい□□に□るとは

(松本人百次「川尻の一角」)

244 (「黎明」第五号, 1947.5)

私が岡山の学校に勤めてゐる頃、進駐軍の或將校からこんな話を聞いたことがある。

(濱本正弘「一茶とワット」)

245 (「黎明」第五号)

V[iolation]

あの□□な街であつた広島の本通り セーラー服の氾濫していた呉の中通り、今は一望見渡す限りの焼野原進駐軍の兵士が□□□□□三五五歩いている姿を見て□□□□□なるものがある。

(涙石山房「山房雑記」)

246 (「労働ひろしま」第一号, 1947.6)

Labor Unions

端的にいつて、働く人たちが従つてその組織する労働組合は、日本民主化の原動力であり推進力である。現在六百万人を超えるわが国の組織労働者は、最も有力な日本民主化の一翼である。労働組合は労働者の社会的地位の向上□□をはかることによつて、生産を担い経済の復興につくすことを究極の目的としているが、労働組合は平和的民主革命遂行途上の基本的な一方式といつても過言ではない。そこで労働組合は社会進化の過程において、成長すべきものであるが、労働と資本とは調整すべきであるとか、または闘争すべきであるとかいつたいいづれの立場にあつても、組合又は組合員の活動乃至行動面において秩序と統制とが必要とせられ責任が要請せられるのである。されば労働者諸君は労働組合に課せられた重大な使命に思いを致し自らの権利を主張すると共に、自らの責任特に社会的責任を自覚することが肝要である。

(くすのせ・つねい「諸君への挨拶」)

247 (「労働ひろしま」第一号)

Labor Unions

組合の組織構造が悪いからか、組合員の教育方針が間違つて居たからか、それとも今迄の組合の行き方、成果を見て絶望を感じて居るのか、その原因を明確に分析して批評する事は出来ないが、組合運動に無関心な組合員が多い事は悲しい事実である。

無関心！これほど恐ろしいものは無い。関心を持たない所に進歩はない。私達の労働組合では、先づ組合え関心を持たせるという所から出発しなければならぬ。その意味において今年の二月に始めて組合長及び副組合長を四千人近くの総組合員で公選を行ったのである。最初から代議員により選出するよりも、公選をやる方が良い事は解つて居ても、実際に公選をやつて、候補者の人柄、識見、情熱といった組合員が正しい一票を行使するに必要な知識を全員に与える事が出来るかどうか、大いに疑問を持たないで居れない状態であり、第一回、第二回の選挙はいづれも職場代表である代表□□□によつて選出され、この第三回でようやく公選となつたのである。

それも公選をやらねばならぬの世論は漸次高まりつゝあつたが、それに動かされたというよりも、他の□つて居る同志を目覚めさせる一手段として強行されたのである。

当时尚、組合員の中では、過去一年間勤めた組合長の顔さえも碌々知らない、知る必要も認めぬという人々が何割か居る事は確実であり、出来得れば、候補者に各職場え巡回させて意見発表をさせ、昼休憩時には拡声器も利用させ、ポスターもはり、充分時間をかけて、啓蒙運動をやる計画であつたが、一部の実行しか出来なかつた。

結果は思つたよりも予想外に良好で、棄権は1%も無い位で、投票当日不在投票を認めなかつたので、代休日であるにもかゝらず、投票のためにわざ／＼出勤した人々もあり、無効票も1%内外で、更に嬉しいのは、ふざけた事を書いた票は、一枚も無つた事である。数字の上から、又選出された人物の上から見て、此度の公選は成功であつたと思うのであるが、組合員に組合運動えの関心を持たす事に成功したのか、どうか宇頂天になるのは、早計だと思ふのである。

私達の会社は明治二十三年出発以来、極めて封建的色彩濃く、職工はたゞ黙まつて働いて居るのが一番良いので、長いものには巻かれる、危険なものには近づくな、何も人間が精神を持ち、考え、行動しなくても、号令を掛けて貰つて、機械的に頭を空にして行動する事が国家のためであると教え込まれ、教育はされても、無思想、無自覚のなかに、権威えの従順を教え込まれたのであり、ふと自分で真剣に考え正悪を判断する事があつても、それを発表するのは、異端者の如く考え、たゞ蔭でぶつ／＼言うという上位者えの無条件屈服振りは、さうたやすく衣更えする訳にはゆかないのである。自分では、卒業したつもりでも何十年の積り積つた習慣は第二の天性となり、組合運動えも無関心と表われるのであろうと思う。つまり現在に至つても、面倒な事はその専門家に任せといったボス育成の温床に、又、ファシズムにとつて素晴らしい条件下にあると思ふのである。これが選挙の結果から見て、その数字上の良さから、組合員が関心を持つて居るとは断定出来ない。勿論、労働組合の重要な目的をよく認識して、指導者として、誰が適切なのかをよく考え判断して一票を行使した人々も多いだろう。然し、代議員や、選挙対策委員会が、やかましく宣伝するし、人が、あの人を入れてやつて呉れ、或は、みんながあの人を入れるというから入れたという人々が更に多いのではなからうか。

無関心は、あらゆる組合運動の面に反映する。賃上げ要求の如き、この激しいインフレ下にあつて、少くとも三ヶ月に一度は出会う問題であつても、幹部に任して居けといった無関心が見られる。従つて、生産闘争、労働協約、労働法規、といった面になると、愈々その弱点は曝露される。

かくの如き私達の労働組合では、如何にして、組合員をして組合運動え関心を持たすかゞ先づ、根本的な問題となり、掘り下げると、私達が自我に目覚めず、主体性が確立されて居らないからであると結論され、組合の教育方針として、組合員の主体性の確立えと定まる訳である。

私は、現段階では、最も教育活動に主力を注がれるべきだと信じて已まない。然しどんな教育でも良いというのではなく、人々の自我を育て、主体性の確立を目指さないものでなく、単に綱領を丸暗記させたり、批判する事を攻撃し、組合幹部の言う事をその儘のみ込み、法令で、右え左えと動く事が正しいのだという風に教育されるのであつたら、まだ、何も教育しない方が良いのであつて、これから以後、かの終戦の時の様に、吾々はだまされて居たと、すべての罪を戦争犯罪人に負わせ、自分は何も感じないという事は絶対許されない事である。民主主義は、会議を尊重し、会議制度は、代表者を信頼する上に成立して居るのであるが、信頼と無関心はどこ迄も本質が違うのであつて、信頼は代表者の変質によつては、不信任となるのであるが、無関心は、判断しない事であり、無限に変質を許し、無限に不正を許す事である。

組合は、労働者が、組合の団結を通じてこそ、資本主義社会の機構に対抗出来るのであり自分等が如何なる階級にあるか、いかなる力を持つか、組合員自身が、自分の頭で考える様にされねばならぬ。

主体性が確立されておらないための弱点は同じ会社に、二つの組合、即ち職員組合と労働組合の二本建てになつて居る所にも表われて居る。職員と工具は朝夕の出入門迄も建つて居た封建制度その儘で結成された当時にあつては、工具にとつては、余りにもはなはだしい身分階級差を破るという意識よりも、職員とは話が合はぬ事が原因となり、職員側では、あく迄その特権を守り抜こうとする強い意識と、吾々知識階級と言う自尊心からも、一応二本で出発したのも、致し方の無い事であつたらう。然し結成以来、二年になり職員工具の名を無くする事及身分制の撤廃に方針が内定して居る現状にあり、実際には労働条件は殆んど一本になつて居るのに、何故組合が一本になれないのか。そこに意識の低さを明白に語るものがある。

職員顔をしないと、工具が仕事をしないと考える人もあろうし、とうの昔職員の観念を卒業している人に、今尚あい

つは生意気だと、昔の印象をその儘持ち続けて居る人もあろうし、職員という身分制を置いておかないと、職階制である主任、班長といった命令系統だけでは仕事がスムーズに行かないのではなからうか、その昔、自分が工員であった時代、たゞ職員になりたいばかりで働いて来たが、身分制を撤廃したら、工員の人々に、はげみが無くなるのではないかと心配する下士官的職員、今尚、優越感を持ち続けたい人々、さうした小さな問題にこだわり、合同出来ないとすれば何たる意識の低さであろうか。

職員が新中産階級で無産階級より一段高いと考えて居ては決して救われる事はないのである。社会の歴史から見て、必然的に無産階級に没落整理されてこそ、浮ぶ瀬もあるのである。職員の知識経験と、労働者の行動力、推進力を一本にしてこそ、真に強い労働組合が生れるのであり、職員組合としてある以上は、永久に自分の職階上の地位と、組合の地位の矛盾を悩み、遂には、仕事上の地位を守り、組合運動から遠ざかり、弱いものとなつてしまう事は今更言う迄も無い事である。

こうした意識の低さは沢山在る。私達の労働組合が経済的に強固な基礎を持つて居らない事もその一つである。理由は極めて簡単、組合費が少額だからである。何故増額出来ないか、その理由として、一、二をあげると、現在の様に最低賃金さえ保証されない時にあつて、組合費を増額する事は無理であるとか、今の様な幹部では、捨て金になるとか、組合費を出す事に無関心で反対するとか、色々あるだろうが、誠に心細い程、経済的基礎が弱いのである。組合用務の出張や、消耗品や、紙代といったものは勿論組合費で支払つて居るが、組合業務の専従者の給料は会社側から支払われて居り、会議は原則として勤務時間外にやる事になつて居るのに、殆んど時間内で行われ、自分の□□会館を持たず、事務所さえも会社側から賃与を受けて居る状態が当然とされない迄も、致方の無い事として承認して居る事が私達の主体性の確立のない、意識の低さから来る弱さでなくて、何であろうか。

やらなければならぬと自覚され、ば、経済的な基礎を固めるのに、大して難事ではないのであつて、例えば専従者の給料にしても、組合員一人一円負担を増せば、一人分は充分まかなえるのである。経済的に会社と同等迄固めるには、一朝一夕には出来まいが、私達は私達同志で労働銀行も作る事は出来、それが機能を発揮する時、真の意味で、労資が対等の立場で発言出来ると言えよう。

とにかく、経済的基礎を固めなければ駄目だと、はつきり自覚さえ出来れば、たとえ組合費の増額が難しいとしても、他に方法は考えられ得るであろう。

何故、私はこの様に、組合の自己批判に当り、無関心とか意識の低さとか、つまり主体性の確立のないところに生れる諸々の弱さばかり目につくのであろう。組合にも長所は勿論ある。会議は未だ流会に終つた事が無く、至極□□であり、討論は□□でさえもある。

会計は極めて正確に良心的に行なわれ、問題を起した事はない。然し、こうした事は至極当然な事であり今更長所等と言えるものではない。やはり私は、弱さの底の底にあるものえ触れずに居られない。

労働組合史を読めばすぐ感じる事であるが、労働者が労働組合を作るという権利を獲る迄の世紀にわたる血の苦闘史、更に罷業権を確立する迄の親子にわたる闘争史。一日八時間労働制の原則一つでも如何に苦難に耐え団結したか、私達はその苦勞の程を想像するだけで、本当に自分で血涙を流して獲たものでなく、終戦の結果、贈られたものであるだけに、猫に小判的な感じがするのである。容易に与えられたものは容易に奪われるのであつて、無関心の根本原因はそこにあるのである。

不幸にして、私達の労働組合には、組合運動が非合法とされた時代に身を呈して組合法の制定に努力した人が極めて少い。従つて吾々労働者には、本当の意味において、労働組合法や基準法の有難さが解らないのである。

外国において何百年もかゝつて得られたものを一挙に与えられ、その尊さを感じて居らないとすればこれは正に一大悲劇である。

然し、私達は焦せつてはならない、ローマは一日にして成らずと言う。私が組合員が無関心であるというのも、何かから何まで、底の底迄救われない無関心ではなく、意識はしないけれども、何とかなりたいという意欲は常に吾々の身体に流れて居るのである。たゞ啓蒙されないばかりに、外面的に見れば無関心と見えるのではなからうか。方法一つによつては、見違える程、活力に満ち満ちた組合にするのは大して難事では無いと信じる。

原則は組合員総員が組合運動に関心を持ち何が真の道であるか常に自分の頭で考え、組合に責任と義務を遂行し、何よりも組合を死守するという心に満ちた組合員で構成され、秩序ある組合であつてこそ、資本家からさえ、称賛を受ける様な組合になり得るのである。要はその方法である。私は幹部として、その具体案を並べて見たいと思う。

第一に組合の執行部でやられた事は、すぐ職場の隅々迄浸み渡り、職場の隅々の声がすぐ組合の幹部に伝達される様な連絡の組織を作り、各自が真剣に考えた事が、宙に迷う事が無い様にし、幹部と組合員が密接につながり、如何なる悪宣伝も入り込めない様にするには、どうしたら良いだろうか。

先づ現在の役員構成を見よう。先づ八十名の職場を単位に一名の代議員が選出され、その中の互選で執行部が出来る。代議員四名に付き、執行委員一名の割合である。数の割合から見ても判る通り、執行委員と代議員の間の連絡は容

易につくのであるが、問題は代議員が職場にどこ迄根を下して居るかである。代議員が職場全員を集めたいという時、その人数が多ければ多い程、故障も多く、面倒であれば、代議員は段々その手数を省くであろうし、職場との密接さが失われるに至るのである。私は代議員の下部組織に十人に一人の割合位で工場委員といつたものを作り、代議員がその工場委員を集めて、すぐ話が出来る様にしたと考えて居る。

一方、投書箱を増設し、中間組織を通らないでも、組合幹部え通ずる路を開く事である。

会社の拡声器を通じての呼びかけも忘れてはならない。すべて問題は出来る限り平易に面白く興味が持たれるべきである。

次に、会議の議題は、単に議題だけにとまらず、その提案理由、その具体的内容を出来る限り詳しく書いて、それを読んですぐ大衆討議にかけられねばならない。一方一般の組合員にも掲示板その他で議題だけでも知らせ、今何が会議で問題になつて居るかを知り、組合員自身が求められる前から世論を形作る事が必要である。組合の民主化運動は実に、かゝる形になる事であり、こうなれば、フラクション活動とか、ボスとかいう問題は自然消滅すると信じる。

大会は是非共一年に一回は開かれるべきであり、大切な組合の運動方針は是非共充分に大会に於て確立されるべきである。

第二に組合が教養の高い文化的組合員で組織され、誠に秩序ある団結をするにはどうしたら良いであろうか。私達は賠償機械の保全手入をやつて居るが、その手入の要求程度をきくにつけ、今更の様にアメリカ人或は英国人との文化的水準と機械に対する観念が違うのを感じるのである。何と言つても日本人はおくれて居る。或る面から見たとき、或は優れた事を発見出来るのであるが、全体から考えると、道路という観念一つでも大いに違うのである。

これは出来る限り、見聞を広め、教えを乞わねばならぬ問題で、急に完成する事は出来まいが、文化部や教育宣伝部の徐々にして、たゆまざる努力の下に、一步一步前進すべきである。良い映画を広く観せるとか、組合図書館を建設して、良書を読むとか、方法は種々あるだろうが、とにかく何事であり、組合員がついて来るだけの面白さがなければならぬ。例い講演会であつても、音楽を入れたり、映画をやつたりして、講演の嫌いな人にも講演をきかせる手腕が必要である。

さて、私は結論に入ろう。

一体、私達は組合を作つた目的は何であろう。労働組合法の第二条には、労働条件の維持改善を目的とすると書いてあるが、単にそれだけが吾々組合の目的であり、社会に関係ないのであるか。私は次の様な意見をよくきく事がある。つまり、労働組合の維持改善が主目的であり、組合が生産増強をとり上げて働くのも、みな労働条件の維持改善の為であり、生産そのものは目的でない。

私は、この考え方に大いに異論を持つ者である。一体、進駐軍がいち早く労働十六原則を發表し、労働組合の助成に積極的に動いたのは、労働者の低賃金を擁護するという意味もあつたろうが、それよりも日本の社会の民主化に、労働組合の果す役目が非常に大きいからなのである。つまり労働組合を通じて日本社会が民主化されるのであつて、その事が、吾々の労働条件の維持改善という問題を一応離れて考えても、それ自身大きな目的である事を信じる。誠実に働いて居たのでは喰えないと言う現実の下にも、黙々として働いて居る私達の姿こそ、荒廃したこの社会の再建の基盤でなくて、何が基盤であろう。

私は労働条件の維持改善を忘れて居るのでは無い。衣食足りて礼節を知るという諺の示す通り、現実の社会相の悪さは、物の不足、物の偏在にある事は確かである。然し、現在の日本の姿は余りにも、人間は喰う事が最終の目的の様に考えられすぎては居ないだろうか、人間にとつて喰う事は出発点でなければならぬと信ずる私達は、窮乏の中にも、刻々と封建的制度や資本主義制度の汚点矛盾の解決に努力して居るのである。労働組合は社会の構成に大きな存在として、次の社会の原動力としての希望でなければならぬと思う。

日本産業の再建も亦然りである。私達の労働組合が権利のみ主張し、義務を忘れ、この何よりも生産量を回復せねばならぬ時に、生産意欲を失い、結果として乏しい隣人の喰物をもとり上げる様な事になつたら、もう存在の理由は無いのであつて、労働組合に求められて居るところをよく自覚し、あせらずせかさず、しかも休まず、一步一步足を踏みしめて前進したいと念願する。

(西本春三「私達の労働組合の現在と将来」)

248 (「労働ひろしま」第二号, 1948.7)

『常に真実を知らせること——たとえそれが組合スタッフにまづいことでも』、これが組合教育の第一歩である。大衆は知らされることを喜び教えられることに反ばつする。

組合幹部は常に正確なニュースと解説を組合員に提供せねばならぬ。それにもとづいて組合員がどんな判断を下そうとそれは組合員の自由である。そして大衆の判断を組合幹部のそれに一致させる最善の方法は、幹部がそれにつけ加え

て自分たちはかくかくの理由でこのように判断している。という判断の根拠および結論に到達する方法を組合員に懇切に説くことである。これは指導である。こうしたうえでできた組合の総合的なそして最終的な意見に対してはすべての組合員が従わねばならぬ。

(山根博司「常に真実を知らしめよ」)

249 (「労働ひろしま」広島事件特集号, 1949.8)

Leftist Propaganda

事件の原因

今次事件のよつて来るところは、世界的規模における資本主義の一般的危機の激化に求めることできる。しかしわれわれは国際的背景を喋々するより、現在の吉田反動内閣の貴族的集中生産政策をみることにより、鮮やかに資本主義一般の危機の浮き沈みをみることができ。現内閣が与党絶対多数の□□勢力の上に、国内独占資本と繋りさらに国際金融独占資本と密接に繋つて、それと関連ある少数の企業にのみ生産、受注が集中されそれ以外の企業は中小企業はもちろん、民族産業のすべてが生産、受注、資金、資材あらゆる点で□□、圧迫を受け次第に経費を□□させられ、困難となり、ついには次々に崩壊している現状は何人も否定できないところである。

(吉田治平「日鋼事件の意義」)

250 (「山茶花」九月号, 1946.9)

武力なき日本の□□子も□軍艦をたのしみにつづくを□□□

[2行判読不能]

(南口隆)

251 (「山茶花」九月号)

New [以下英文注記判読不能]

山茶花 九月号 七銭

[奥付全体に対して]

252 (「山茶花」12月号, 1946.12)

Destructive of Japan's democratization

[1行塗りつぶし。判読不能]

253 (「山茶花」十月号, 1947.10)

[一首塗りつぶし。判読不能]

(毛利霞山)

254 (「生活文化」創刊号, 1946.5)

[3行塗りつぶし。判読不能]

揚句私は□天皇陛下に対し奉りて私□の不心得者の□□□□我国三千年

(島田生「老人の寝言」)

255 (「生活文化」6月号7月号総合版, 1946.7)

国家主義とは国家を最高のものとし、国家の幸福発展のためには個人は之に従属せしむる主義で、倫理的内容を十分持つてゐるものであるが、之が極端或は過激となると適当でなくなる。

(新宅博雄「主義の解明」)

256 (「生活文化」6月号7月号総合版)

顧問 米軍「星条旗」紙印刷所 日本タイムス社編集局総務 長谷川肇

257 (「青年」第三号, 1946.10)

[5行判読不能]

戦争□□□□軍部に数人の□□□□禁止とその
〔判読不能「随想」〕

258 (「瀬戸内海」創刊号, 1946.6)

五月の□□□□ある港にて娘等のけはひぞ米兵に□□
(今井篤三郎「復員」)

259 (「瀬戸内海」八月号, 1946.8)

私は原子爆弾でむごく焼け死んだ一中学生だつた子供の幻影を追ひながら、わづかの硯を見出しては習字をした。

「原子爆弾で倒れた廣島の戦災死者こそ世界永遠の平和の使徒である」と。

当時はそれら死者の魂はさぞくやしいであらうと切なくてならなかつたのが、今は誰かがこの光栄ある人類繁栄への犠牲を負はねばならなかつたのである。ああ讚へるに価あるその尊き犠牲よと心に叫びこれこそ些のためらひもなく神佛として拝むことの出来る対象となつて来た。

(山本康夫「原子爆弾のころ」)

260 (「瀬戸内海」第四号, 1946.12)

進駐軍の□□□□実□□と□□場とに使用せられてあるが
(阿波野青畝「雨の井吹島」)

261 (「瀬戸内海」第四号)

〔5行判読不能〕

アメリカの人は最高の人以外は日本の趣味、侘びさびなどは理解されない。どこまでも能率的で□□で快適といふことが主眼だから、それをいつまでも、日本茶宗式浮世絵式のニツボン趣味で押つけて行つては、初めは風変わり面白くても、すぐ飽かれてしまふ。

今まで、瀬戸内海を世界の公園などと言ひながら、果して、外人を吸引する設備を□一つしてあつたらうか。

島がくれゆく船をしぞ思ふ——なんてことはアメリカ人には解らない。□□□□□□にも苔を踏まぬように気をつける公園など□目もくれない。

曾ての島人わたしたちは、再び見なれた瀬戸内海の島々や海の色を大空から見下ろすことは、生涯なかるう。

(中正夫「空から見た瀬戸内海」)

262 (「瀬戸内海」第四号)

人を信じ切るといふことは美しい。けれども、あまりにばつといつばいに心をひらいた情熱が、もろく崩される現実はこの□□のうちひらいた明るさと、何か感度の違ふものがあるのではないかとあまりの豊かな色彩と光のはんらんのなかで、よりきびしく、冷たい世界が心に迫つてきたりした。

この旅はたのしく、そして、力強い或るもの一の響きを感じさせられた。まだ寒い夜々は星が多く□□の□□でない町や村も、無惨のひびきを身にうけて、会場である学校や公会堂の窓や□は□れたまゝに□□を□はせて身を震へさせられた。

(横山美智子「光りのなかに」)

263 (「瀬戸内海」第五号, 1947.11)

(V) Key Leg No.8

(V) Criticism of the new Constitution

世界の文明国民中教養最も低き吾が国民には国家主権の行使は平和の時代であつても決して容易でないだらうに、ましてやこれは祖国が一敗地にみれて無条件降伏を余儀なくされ、一切を捨てて、無一物から新たに国家を作つて行かねばならぬ非常時であるといふ□□を思ふ時吾が国民に主権の行使は先づ不可能に近いと言つていい。

その進歩した憲法も教育の程度低くその人格と識見とにおいて半文明人とも目される吾が国民に取つては「猫に小判」とも言はれ、「三尺の童子に正宗の名刀」とも言はれよう。

だから人はここでも新憲法は吾が国民に取って「猫に小判である」と言はなくてはなるまい。
(長田新「新憲法の精神に就いて」)

264 (「瀬戸内海」第五号)

See the Editor's note on back page

ヘンリー・H・アームストロング

(ヘンリー・H・アームストロング 「仙境の湖」)

265 (「瀬戸内海」第五号)

終戦後日本に駐屯している幾十万の米軍□兵が大切だと口癖のやうに君の言つてるのがよく判つた。

むろん天然色映画で、航空機をつかつての撮影だから、米軍あたりの援助を要請せねばならぬ。
(加藤郁哉「瀬戸内海観光放談——内海観光あれこれ帖——」)

266 (「新道」十一月号, 1946.11)

米軍□□□□□□は必要然らば新大□の〔以下判読不能〕

民間情報教育所のホームス女史は現在の日本の女子教育は六十五年前のアメリカの状態に似てゐると語る。

総司令部機構を發表
(「今月の話題」)

267 (「新道」年末特大号, 1946)

Mention of 〔以下英文注記判読不能〕

〔3 暁判読不能〕

(勝弘生「ダンス打診」)

268 (「新道」新年号, 1947.1)

□□爆撃で

(M「友を偲んで」)

269 (「新風」十二月号, 1946.12)

〔英文注記判読不能〕

教員の醜態を見よ、文化国家建設の其の初期に神聖な教育を修養道場を打捨て、ゼネストを決行せんとしてゐる教員の要求は最低賃金六百円としてそれに諸手当を加算し千五百円の基礎控除を叫んでゐる。教員は教育指導者か或る政党の試験台か金を湯水に使う放蕩者か 国家の経費を見よ 莫大な予算なり経費は国民より出でずして何処から出るであらうか教員の増給は吾々国民の納税の加重なり政府に対して闘争を行つてゐる様な気持で御祭りさわぎをやつてゐるが左にあらずして国民への闘争と云つて過言ではあるまい一部の不貞分子を除いては忍び難きを忍び国家再建設の為黙々として働いてゐるのに拘らず全教では農組、労組と連繋し共同組織を作りストに突入せんとしてゐる青年よ無関心であつてよかろうか 吾が村まで及んだ其の際には教員の行動を世論に訴え不貞分子は□□／＼追放すべし吾々後輩の教員は我々青年の手で為す心構を持って全教員は日夜を通じて得た吾々の金を搾取せんとしてゐる国家を破壊に導く先導者である教育者の面を被つた吸血鬼なのだ吾々国民に闘争を挑む不貞教員を徹底的に追放するのだ男女青年諸君教員ゼネストに反旗を翻してゼネスト□□の闘争を展開しようではないか。

(舞子「教員ゼネストと青年」)

270 (「新風」三月号, 1947.3)

〔判読不能〕

(内田教官「所感」)

271 (「新風」 三月号)

Criticism of General Strike

又教育郵便局の如く人民の師範であり公僕である者が少数の利益の爲大衆の幸福を投捨てんとゼネストを決行せんとする

(佐藤治雄「去るに当りて 団員諸君に訴ふ」)

272 (「新風」 三月号)

Agricultural policy

闇買いはしたくないしようにも金がない.....何とかして補充食糧を入手したい.....これが非農家の切実なねがいだ。遠い山腹に可墾地がある 配給米ではつらひ思ひだが墾こうか背に腹はかへられぬ

之に対する供出問題はどうかなる？

県の方針 勿論供出して戴きたいとなるだろう。亦供出しなくてはならない。然し供出しなくてはならぬとなれば供出量も出来かねる山腹の砂礫地を粥腹いためてまでは墾きたくない..... これがいつわらない人々の気持ちだろう 此の問題は農区長会議に於ても複雑な提案らしいが満足的に意見をまとめてほしいものである

第三者に判定させば

各部落毎に事情考察しての農区長の検限とせよ。 三或は五ヶ年は無供出とせよ。

農区長に依任し作柄を調査させ即時供出量を決して供出せしめよ。

(「新墾地はどうかなる 非農家の切実なねがいだ」)

273 (「新風」 十一・十二月号, 1947.12)

V[iolation] Emperor's Worship

2、健々に亡夫の在せば今朝の朝とく□□陛下おろがみ□□□□

3、老ひき母御幸しませる陛下おば目近におろがみ涙しするも

5、陛下来ませりかしこき陛下

3、御戦

(細川翠嶺「短歌抄」)

274 (「新風」 三月号, 1948.3)

ensorship / viol[ation]

[2行判読不能]

(一団員「新風に寄す」)

275 (「新人短歌」 八月創刊号, 1946.8)

[5行塗りつぶし。判読不能]

(中島淳子「幻」)

276 (「新光」 第二号, 1947.1)

Justification of Gunbatsu's misdeed (Defence of Gunbatsu)

過去の日本は軍閥、財閥の□で国民は奴隸的感があつ□嘗ては日本の製品は世界市場を獲得し、他国の産業界をして脅威に至らしめた。それは低廉な値でどん／＼製品を各国に売出したからであろう。その結果が経済封鎖となつて現れ此の経済封鎖に対抗する爲めに軍閥が起つた。低廉な値.....何を意味するであらうか即ち資本家が国民を低賃金で雇ひその労力を搾取し私腹を肥やさんとしたに他ならない。此の度びの戦争も事の起りは此処にあるのではなからうか。

(中山孝雄「労働組合と青年の使用」)

277 (「新光」 第二号)

上る日□□ざして

資本家は妨害しようとする。如

(谷岡満雄「労働運動に関して」)

278 (「新光」第三号, 1947.3)

我が国に於いては往々にして理屈なきの御題目が非常な勢で□延して八紘一宇・国体護持等の好適例がある。
(AYAY生「敗戦百景」)

279 (「新光」, □□□特集号, 1947.9)

bad terminology

nationalistic

日本の場合には西欧諸国□□と異り経済者や資本家との〔以下3行判読不能〕

V[iolation], bad terminology

nationalistic

民主主義は敗戦に□る□か□□□□である以上に、近代社会の最も進歩した合理□□□□□□して我々の欲求に副ふ所のものなのである。

(井上一造「組合員教育の課題」)

280 (「新光」, □□□特集号)

mention of GS

二・ースト

(はなし生「教育は如何にあるべきか」)

281 (「彗星」第一号, 1946.9)

Disturb quality tranquillity

新聞の一行にも足らぬ工場名だつた

染料と医薬品原料を作る

平和産業として

焼野ヶ原に

雄々しくも立ち上る己の工場が

賠償に指定されてゐた

国家再建の悲願も空しく

引き裂かれ行く運命よ

暑さうな太陽は

いつもの様にもう昇つてゐた

楠の梢の葉も

向ひの丘の松も

何時もと少しも変つてはゐなかつた

が何と淋しい朝だらう

やがて己の工場を此の世より見送り

働く事の喜より

切り離され

うらぶれた心を持って余し乍ら

さまよひ歩くその日を

はつきりと宣告されてしまつたのだ

わな／＼と戦き止まぬ心よ

残念なもとを打ち振りつゝ

平和を願ふ外国人を

戦ひの真中に

刈りたて追つ立てゝ行つた

そのつぐのひの第一歩か!

(北村忍「つぐのひ」)

282 (「彗星」 平和二周年特集号, 1947.9)

〔4行判読不能〕

〔2行判読不能〕

〔3行判読不能〕

〔5行判読不能〕

吾々是对米貿易に日本再生の希望をかけている。ルイス氏の考える不安を除去することに依つて、吾々日本人の将来の幸が保障せられることを深く考えなければならぬ。かく考える時日本経済の再建は、最早資本主義的手段によつては決して許されないであろうし、又許さるべきでもない。

(松井委員長「平和を破壊せるもの」)

283 (「彗星」 平和二周年特集号)

key leg no.1 3

(II) the 1 February general strike

成程二・一ストに於て労働者の掲げた要求は正しいものであつた。生きてゆくためのつゝましい最低限の賃金要求、また分類□行税□□等労働者が団結して闘ひ取らなければならない必然的な政治的欲求……之等に対しては実に共鳴以上の賛意を有するものである。然しどうした事であつたらうか。世間の轟たる非難を浴びつゝスト直前まで追込み、マ司令部の指令下、涙と共に之を放擲するや忽ちにして内部的に之が反省を強く要望されるやうになつたといふ事は果して何処にその原因があつたのであらうか。

自分はその原因の第一として組合が民主的に運営されてゐなかつた事、即ち組合員の無自覚と幹部の独裁とを訴へたいのである(形式的には闘争委員会の性格の矛盾)結果から言つて、組合幹部、主として、労働運動強圧時代の騎士であつた現幹部達が、労働組合は闘争を通じてのみ強化されるといふ誤つた観念から出発して、我武者羅に闘争へと誘ひ込み、組合員一般はその智識と経験の浅きにより、無批判に従属して行つた結果があつた二・一ストだつたのである。

第二の原因としては組合が外部からの支配をうけて行動してゐたといふ事である。勿論労働組合が政治に無関心であつてよい筈のものでもなく、また全然無関係ではあり得ない事ではあるが、逆に一部政党の手足となり乃至之が統制の下に動くといふが如き組合であつてはならない。二・一ストが総選挙を目前に控えて一部政党のために労力拡張の具に使用された結果、行過ぎた倒閣運動が行動の第一目標となつてみたり、悪戯な破壊的行動となつて表はれ、世人のひんしゆくを買ふやうになつたのである。

第三の原因としては、労働組合が唯物的階級闘争論に把はれた結果、社会一般の福祉に奉仕するといふ義務を忘れた点である。労働者と雖も、社会構成の一部分であり如何に個人の自由が主張されようとも、社会の秩序を乱し不幸に陥れるやうな事があつては決してならないのである。

総司令部〔以下2行判読不能〕事であつた而してこの作戦は見事成功した。□□院に参議院に、我々は労働者の勢力を實に予想以上に獲得する事が出来たのである。

(横山智一「我国労働運動 二ヶ年の歩みと将来」)

284 (「彗星」 第二号, 1948.5)

Labor Union

今度の役員の中には新しい顔も多い様ですが其の人達に特に希望致します。過去の組合のように幹部二三人の意見で運営する様なことは役員の人達で十二分に監視して下さい。又幹部二三人の人達も良く役員の人達に相談してほしいです。組合の役員は全員の代表者です。其の意見も聞かずにきめる事は組合員を無視した行動ではないでせうか。新しい役員の人はこの点に十二分注意して下さい。又良く反省して幹部も役員も一致団結し組合の発展をはかつて下さい。

(S・C「所感」)

285 (「彗星」第二号)

Practical Party

今日まで国民が困つて居なければならなかつたのは資本主義の支配者と被支配者が対立した世の中であつた爲に被支配者であつた我々国民大衆は困らなければならなかつたのだ。だから皆なで乏しきを憂えず等しからざるを憂ふる社会主義体勢を確立せよと宣伝し社会党内閣をつくらしてしまつてしかもその挙句には何のことも千八百円ベースがどうのと言つて我々がその日／＼食ふにも困らなければならぬ世の中にしてしまつた。今度は又国民大衆の社会党の信頼の徹頭徹尾なくなつてしまつたのを早くも見通して、我々国民相対立する階級的抗争はやめて、皆なが相共に手をたずさえて平和の生活の出来る協同社会主義とかを標ぼうして労□□党なるものが出来かゝつて見たりした。しかもその新党がこれは又突然党首とも見られる人の公職追放さわざにたよる人がなくなつてつい先日脱党したばかりの社会党に帰らうかどうしたものかと去就に迷つてみたりまつたく国民の爲には我党こそ眞の公僕的役割を果すものだと言ひ乍ら内実を割つてみたら結局何もかも自分が大臣になりたかつたりお金がもうけたかつたりするばかりである。

(藤井生「嘘の世の中」)

286 (「彗星」第二号)

Japanese Currency

賃金課税の立法ではあるが、賃金を物価にスライドさせて見てはどうだろう。安心して預貯金が増加するし、又換物の傾向も阻止できるし、案外効果がありはせぬかと考へられる。

(S生「庶民経済談」)

287 (「彗星」第三号, 1948.7)

他人の言論を不当に抑圧するような、中傷やバトウはないか。他人の意見をからかひ半分にあやつてはゐないか。又一方自分の考へてゐることを自由に云つてゐるか、人に笑はれると思つて云ひしぶつてはゐないか。

大会は学者の集りではない。皆んな労働者なのだ。社会正義の信念さへあれば、どんなまずい表現で意志の発表をしても笑ふ者はゐない。又怒るものもゐない。もしあれば、他人の自由に制圧を加へる人間だ。

(松井一郎「自由は人間平等に与へられたものだ」)

288 (「彗星」第四号, 1948.10)

Key Leg

フーバー 公務員制度課長の見解によると、「書簡に底触するすべての法規は□益かどうかと云ふことは云へんが、マ元帥の書簡は即時実施せよと云ふことである又鉄道専売事業は企業の形式次第で争議権を有することになるかも知れぬが、将来それ等が公務員でなくなつた場合の話で、現在公務員である限り、書簡の主旨を生かして□□は出来ぬ」

Labor Unions

以上の如く、発表された意見は仲々強硬であるが、書簡に対し、正面より反対の意見は一つも見当らず、国民の常識は明かに書簡支持であると見て差支へない様である。と云つて全□国鉄に喰ひ込んでこゝまで伸びて来た、共産勢力は勿論そのまゝ引込むものではなくはつきりと反米闘争として展開されるであらう。

フーバー公務員制度課長は「マ元帥の書簡は数ヶ月前から充分考慮されたものであり、命令と解するのは正しい」

然し乍ら我々は飽く迄労働者としての最後の線は確保しなければならない即ち

(一) 団体交渉権・経済上の既得権等の確保

(二) マ元帥の書簡に便乗する資本家および官僚に対しては断固戦ふ

(広井雄次郎「国家公務員法改正と労働組合に及ぼす影響に就いて」)

289 (「彗星」第四号)

United Nations

日本は現代□□には占領連合軍最高司令部の監督下にあるが、現代の世界に於ける国際平和と民族自立との課題の解決は国際連合の手にある。そして世界に於ける労働者の自覚は、既に第二次世界大戦終□にあたり、ファシズム及び侵略主義の徹底的絶滅の爲の□□の現実的基礎として、世界労働会議及世界労□の□□に成功してゐるのであり、この現

実の組織を基礎として国際連合は成立してゐるのである。

さきの国際連盟がさうした現実の基礎を持たず単なる外交的□□として失敗したのとは異り、更には国際連合が国際ヒューマンイズムの組織としてのユネスコによつて強力に支持されてゐることを考へる時、これが成果は非常に期待されるべきであらう。□その□き国際平和と民族自由との実現の条件のもとに、日本の民主□□□再建が保障されるのである。
(桑田剛直「労働運動と文化運動との関係に就いて」)

290 (「彗星」第四号)

Occupation personnel

マッカーサー元帥夫人

(藤井薫「パードンミー」)

291 (「彗星」第五号, 1648.12)

I, NPSL Practice

然し我国に於ては既に米国で大統領が拒否す可き法律に近き国家公務員法が近く制定せられると云う事に対して異状なる関心と深き反省とを持たねばならぬ。

要するに労働法は労資勢力の関係を明文化したものであり、労働階級の強力な組織と正しい運動方針に依つてのみ労働法を有利に展開して行く事が出来るのであつて、最近いわれる労働法改正は明らかに資本家攻勢の一大逆襲の証左であるが、又反面過去二年間に亘つて行われた共産党フラクシヨシの指導に依る誤つた指導方針が、労働者が一般から孤立化し見放され、組合組織自体も亦崩壊と混乱に落ち入ろうとして居る間に打込まれた大きなクサビであることを銘記しなくてはならない。これは単なる資本家の攻勢ではなく終戦以来の労働組合指導部、特に極左的指導の誤謬が次第に組合を混乱せしめて行つた。その弱点が漸く明瞭になつて来た瞬間に一挙に組合運動を屈服しようとする集中砲火なのであつて、之に対する労働階級の闘う方法は徒らに資本家攻勢を怒号して空虚な叫びを上げる事なく過去の□□□正しく□□□□□□整え、充実した力を持つて闘わなければならない。

(近藤正「資本攻勢及びその他の労働法改正に及ぼす影響に就て」)

292 (「彗星」第二号, 1949.4)

Transferred from Periodical

メーデーに就て 広報部長

293 (「太玄」通巻一号, 1946.7)

[3行塗りつぶし。判読不能]

(小山尚「青年の自覚」)

294 (「太玄」第三号, 1946.10)

Violation

Disturb public tranquility

[8行塗りつぶし。判読不能]

[原爆の描写に対して]

(吉村忠義「広島戦災一周年記念を迎える」)

295 (「太玄」第五輯陽春号, 1947.5)

Violation

[判読不能]

(好富周満「短歌(三月廿日頃)」)

296 (「太玄」第六輯盛夏号, 1947.7)

(V)

Feudalitic

[2行塗りつぶし。判読不能]

彼が勤王の志を抱き一身を捧げて国家に犠牲とならんとする志は実に絶世の亀鑑と仰がねばならない。彼は不幸にして

幕府に容れられず四十九歳を一期として自尽したのであるが、彼が死するの一日に邯鄲夢裡の□を作り、餓死すと雖も二君に□ふる勿れ、慎んで祖母に仕へよ、汝の母は不幸の人なり、宜しく孝を尽すべし、汝の父は罪人なり、必ず墓碑を建つこと勿れ、といふを以つてし更に自らも不意不孝渡辺華山の七字を書して死したり、彼は正しく自責の人といふことが出来る。

(福原英巖禅師「心の扉」)

297 (「太玄」第六輯盛夏号)

illegible

〔表紙絵に対して〕

298 (「太玄」第六輯盛夏号)

illegible

〔困い数行。判読不能〕

299 (「竹はら」五月号, 1947.5)

落花庵寄付金帳と突き合はす

(山本白雨)

300 (「竹はら」一号, 1948.1)

V[iolation].Imperialistic

御帽子をとり給ふまた落涙す

(□□「奉迎」)

301 (「竹はら」一号)

V[iolation].Imperialistic

冬□□の御紋章澄み渡る

(浜本金□)

302 (「竹はら」一号)

V[iolation]

Imperi[alistic]

こみあげる涙に□し冬御幸

(浜本金□)

303 (「竹はら」二月号, 1948.3)

V[iolation].Imperialistic

灰の上に金金と書く□あかり

(亀本秋草子)

304 (「竹はら」

兵〔以下判読不能〕

戦災の城跡の松や初日出

(則武祥)

305 (「浮城」No.2, 1948.2)

Imperial Family

朝焼の空私は何時もより早く起きた。

そして隔々の塵を掃い私の机の花瓶にも黄菊白菊を活けた。

清掃した町を気持ちよい風装をした人々はせはしげに行く。

私は私の風装を見た。美しいアスファルトの路に靴音が高く響く。私は友と語りながら行つた。

陛下のお姿を拝す。私は天皇を謁たのだ。
年若いし人の杖おそく、何か満足さうに皈つた。若き
婦人は何か嬉しさうに皈つた。
幼い生徒は師と大人の騒ぎを見て喜んだ。
久々の人々にも会つた。苦心せし記念句集も出来た。
私の親しき友もやつて来た。
そして笑ひ、そして話した。私は一日中楽しかった。
(石井章造「私は一日中楽しかった」)

306 (「浮城」No.2)

Imperial Family

天皇の御幸むかえて道の端に期せずにおこる万歳の声
(木下隆一)

307 (「若葉」第四号, 1946.9)

[英文注記判読不能]

[本文判読不能]

308 (「若葉」第六号, 1946.11)

もと陸海軍の徽章帽章階級章等の使用は禁止する様広島軍支部長及官庁等を通じて指示がありしものが、未だ之が徹底してゐないので、再び英□邦占領軍地区より指示がありたる旨尾道地方事務所より通達がありました。

(総務部「元陸海軍の帽章等の使用禁止に就て」)

309 (「若葉」第三号, 1947.3)

Reaction to Farmers

胃袋を売つて喜ぶ人が
世の中にあるだろうか
それはある 農民だ
農民の新円景気とは
こんなものだ。
金を持つて安心してゐる農民よ
金は胃袋の代用にはならない
新円の甘い匂ひは
悪魔の囁きだ。
新円はあの世への
旅行証明書だ
□□まで□□を□はされる農民よ
禪まで脱いで闇ブローカーや
資本家や殺人商人□□□つて居る農民よ
進駐軍 (以下8行判読不能。)
(森良幸「胃袋を売る農民」)

310 (「若葉」第三号)

Classified, Reactions

侵略戦 破れて朕は惟ふ事なし
朕一人惟ふ事なき新憲法
ゼネストで官吏も□□□を一寸見せ
ゼネストが (以下8句判読不能)
(川柳 作愚者)

311 (「ユーカリ」1947.1)

Atm's, sign to the jeep

時々ジープが通つて炎熱の原子沙漠を一段とむし暑くし、軽快なレコードの音も完全にカバーしてしまふ。

Militaristic fever

戦争は烈しくなるし環境がどうにもならないので、軍人を志願して出て行つたのです。戦争が続いてゐれば今時分少尉にでもなつてゐるでせうが、かうなつてみれば軍人であつた事が、何の役にもたゝず困つたもんです。

(増田大「靴屋」)

312 (「ユーカリ」1947.1)

V[iolation]. Militaristic tranquility

戦争中、あの物凄い爆戦の雨の下で病んだ姉。又、終戦になつて以来の台湾人の暴逆——殺人強盗、又あちらこちらに散らばつてゐる死体、学生への乱暴一等の阿鼻叫喚の巻に病気に苦しんだ姉。

(今田龍夫「追憶」)

313 (「ユーカリ」1948.3)

V[iolation]. Militaristic

剣を抜いて

(「広島一中生徒の歌」)

314 (「ユーカリ」1948.3)

Info Imperial Family

Imperialistic

V[iolation]. Criticism of U.S

津々浦々よりは幾万の老若男女が□□路に又行幸先に奉迎致し声を限りに□□の万歳を唱へ、真に君民一致の光景を見ることが出来、感激の涙はとめどもなく流れ日本国民としてこの日ほどしみじみその喜びを感じたことはないと多くの人から後に聞いたほどでありました。不肖私はこの年この日偶々職を広島一中校長として奉じて居りました幸いによつて有難くも本校として再度の陛下お迎えの機会に接しましたことは、真に身に余る光栄でありまして私の終生忘れることの出来ない感激であります。ここに其の感激の二三を極めて率直に書き残していつ迄もこの日を想い起したいと思つてます。

間もなく其の他の先駆の車が入り忽ち陛下の御召車を拝しましたので直ちに私は再敬礼を致しました。私が静かに首をあげましたときには陛下は私の前に御止になつた御車から已に御出ましになり、私は真に□尺の中に御姿を拝しました。この瞬間私は筆舌にあらわすことの出来ない厳肅な気持ちになりました。

——御会釈を賜わり一同感激の極みでありました。

私は一同を代表して陛下の行幸に対し心からの御礼を申し上げる最敬礼を致しました。

嬉しいものでありました。

幾万の奉迎者が運動場の周囲から唱える万歳万歳の声が私の心に甫めて意識されたときに私は思わず眼底の熱して来るのを覚えました。

(数田猛雄「行幸の光栄に浴して」)

315 (「ユーカリ」1948.3)

V[iolation]. Imperialistic

明治天皇本校に臨御し給う。

両陛下御写真下賜せらる。

勅語謄本を下賜せらる。

天皇陛下御真影を下賜せらる。

皇后陛下並びに皇太子殿下御影を下賜せらる。

皇太子殿下本校南運動場に行啓あらせられ、本校生徒対広島師範学校生徒のア式蹴球を御台覧あらせらる。
行啓記念碑陵功。

両陛下御真影を下賜せらる。

天皇陛下、皇后陛下の御真影を一日奉還し二月十日更めて下賜せらる。

教育者に賜りたる勅語謄本下賜。

秩父宮殿下本校に台臨あらせられ本校生徒対広島県師範学校生徒のア式蹴球を台臨あらせらる。

陛下本校に行幸し給う。

(「広島県立広島第一中学校沿革概要」)

316 (「ユーカリ」1948)

V[iolation].Rightist

V[iolation].Militaristic

今日混沌としている貫相のなかで最も嫌な存在であるオポチユニストは生れてこないはずである。

(佐伯敏夫「紫考現学」)

317 (「ユーカリ」1948.3)

兵学校とかへ□るのが今日的ではないかという□□□□を受けた。

(ん子「その頃」)

318 (「ユーカリ」1948.3)

V[iolation].Militaristic

若々しい情熱を以て「聖戦」を信じたのでした。

(松浦道一「Hに与うる手紙」)

319 (「ユーカリ」1948.3)

militaristic

ラヂオの前に陛下の玉音を拝聴して

やさしい進駐軍に「ハロー」と呼びかけ

調子よい平和の歌を口ずさみ

雲なき空に異風のまぶしき銀翼をあふぎ

街を征く軽快なジープに手を振り

(小西道善「知らない幸福」)

2. 検閲により指摘を受けた雑誌一覧

01. 「あけぼの」(広警察署, 1949.6 ~ 1949.9)
02. 「登音」(登音社, 1948.8)
03. 「あゆみ」(三原車両製作所職員組合青年婦人部, 1948 ~ 1949.2)
04. 「鷲進」(三菱重工業株式会社三原車両製作所従業員組合, 1947.12)
05. 「文化」(国立広島療養所文化部, 1949.6 ~ 1949.7)
06. 「文林」(文林社, 1946 ~ 1947.12)
07. 「中国電気工事労組機関紙」(中国電気工事労組中央本部書記局, 1949.7)
08. 「大広島」(大広島研究会, 1947.7)
09. 「動輪」(全金属広島支部三車職員組合, 1948.11 ~ 1949.5)
10. 「エスポワール」(エスポワール文化サークル, 1948 ~ 1949.5)
11. 「Friend」(中之町三菱社宅青年団, 1947.5 ~ 1947.8)
12. 「風土」(風土社, 1948.1 ~ 1949.4)
13. 「古市文化」(古市文化協会, 1946.7 ~ 1947.3)
14. 「学校教育」(広島高等師範学校付属小学校学校教育研究会, 1946.7 ~ 1949.9)
15. 「芸備教育」(広島県教職員組合, 1947.4 ~ 1948.9)
16. 「芸南文化」(芸南文化同人会, 1946.夏 ~ 1946.秋・冬)
17. 「激浪」(呉市立工業学校同窓会だより会, 1948.2 ~ 1949.2)
18. 「ギンノスズ(ぎんのすず)」(広島児童文化振興会, 1946.10 ~ 1948.3)
19. 「暁星」(播磨造船呉船渠労働組合文化部文芸班, 1948.6 ~ 1949.9)
20. 「暁鐘」(広島市選挙管理委員会事務局職員組合, 1949.2)
21. 「働く人」(三原車両文化サークル, 1948.1 ~ 1949.5)
22. 「ひろしま」(株式会社瀬戸内海文庫, 1948.6)
23. 「ひろしま」(広島鉄道局, 1946.10 ~ 1949.8)
24. 「広島教育」(広島県教職員組合文化部, 1949.2 ~ 1949.7)
25. 「いづみ」(国家地方警察広島県本部警務部教養課, 1946.12 ~ 1948.7)
26. 「海田文化」(海田市青年文化連盟, 1947.10)
27. 「溪流」(溪流短歌会, 1946.5 ~ 1947.5・6)
28. 「景雲」(広島師範女子部付属小学校同窓会, 1947 ~ 1948.8)
29. 「建造」(全船日立向島支部青年部, 1946.5 ~ 1947.11)
30. 「こだま」(福山市職員組合文化部, 1946 ~ 1947)
31. 「耕人」(耕人会, 1946.11 ~ 1947.7)
32. 「興農」(興農同志会文化部, 1946.9)
33. 「言霊」(言霊社, 1946.10 ~ 1948.6)
34. 「組合文化誌」(広島赤十字病院従業員組合本部, 1949.5)
35. 「郷友」(株式会社郷友社, 1946.6 ~ 1949.7)
36. 「麻本呂婆」(麻本呂婆社, 1947.1 ~ 1949.8)
37. 「真樹」(真樹社, 1946.10 ~ 1949.10)
38. 「松風」(広島管区警察学校, 1948.1 ~ 1949.7)
39. 「みなと」(文親会, 1946.11 ~ 1948.7)
40. 「木槿」(木槿社, 1946.5 ~ 1948.9)
41. 「燎原」(燎原詩社, 1946.4 ~ 1949.10)
42. 「明星(青年の想ひ)」(能登原青年団, 1946.9 ~ 1947.2)
43. 「沼田川」(郷土文芸愛好会, 1946.11 ~ 1949.9)
44. 「プレイメート」(広島図書株式会社, 1948.4 ~ 1949.10)
45. 「黎明」(小畠中学校交友会, 1948.4 ~ 1949.6)
46. 「労働ひろしま」(非理島権労働部労政課, 1948.6 ~ 1949.8)
47. 「山茶花」(広島県山茶花短歌会, 1946.9 ~ 1947.10)
48. 「生活文化」(日本生活文化協会, 1946.5 ~ 1946.6・7)
49. 「青年」(長江青年団文化部, 1946.9 ~ 1946.10)
50. 「瀬戸内海」(浜根汽船株式会社出版部, 1946.7 ~ 1947.11)

51. 「新道」(和庄青年会, 1946.10 ~ 1947.10)
52. 「新風」(御野村青年団, 1946.10 ~ 1948.8・9)
53. 「新人短歌」(新人短歌会, 1946.8)
54. 「新光」(三菱化成株式会社大竹工場労働組合, 1946 ~ 1947.9)
55. 「彗星」(日本化薬株式会社福山染料工場労働組合, 1946.10 ~ 1949.4)
56. 「太玄」(太玄会, 1946.7 ~ 1947.7)
57. 「竹はら」(竹はら俳壇, 1946.11 ~ 1948.3)
58. 「浮城」(広島県浮城高等学校交友会, 1947.5 ~ 1949.3)
59. 「若葉」(東大田村自治青年団, 1946.6 ~ 1947.3)
60. 「ユーカーリ」(広島県立広島第一中学校交友会, 1947.1 ~ 1948.3)

刊行月が不明のものは、刊行年のみを記した。

3. CCD 檢閱英文注記一覽

- 01.A.Bomb
- 02.Antisocial facts
- 03.Apparent Propaganda
- 04.Atm's,sign to the jeep
- 05.advertisement of unregistered books
- 06.Agricultural policy
- 07.allied personnel
- 08.Allied Powers
- 09.American Personnel
- 10.Art affairs
- 11.bad terminology
- 12.bad usage of word
- 13.Censorship
- 14.Civil affairs
- 15.Civil affairs Japanese GS
- 16.Classified, Reactions
- 17.Comment on Strike
- 18.Criticism of Education
- 19.Criticism of General Strike
- 20.Criticism of Map applied programs
- 21.Criticism of the new Constitution
- 22.Criticism of Occupation
- 23.Criticism of SCAP
- 24.Criticism of U.S.
- 25.Criticism of U.S.Management
- 26.Crit[icism] of U.S.& allies
- 27.Decentralization of Economic Centers
- 28.Defence of Gunbatsu
- 29.description of A.bomb
- 30.Destructive of Japan's democratization
- 31.disapproved all entirely
- 32.Disturb public tranquillity
- 33.Disturb quality tranquillity
- 34.Education
- 35.Emperor's Worship
- 36.Fantasy of Airraid
- 37.Feudalitic
- 38.Forces
- 39.Foreign Books
- 40.fraternization asset
- 41.GHQ
- 32.illegible
- 43.Information
- 44.Imperial Family
- 45.Imperialistic
- 46.incitement unrest
- 47.Incitement to unrest
- 48.Information.S
- 49.Introduction of Foreign Capital

50. Japanese Cabinet
51. Japanese Constitution
52. Japanese Currency
53. Justification of Gunbatsu's misdeed
54. Juvenile Delinquency
55. Labor Union
56. Leftist
57. Leftist Propaganda
58. letter of registration
59. mention of GS
60. militarism
61. Militaristic
62. Militaristic fever
63. Militaristic tranquility
64. Morale
65. nationalistic
66. Nationalistic Propaganda
67. NPSL practice
68. Occupation
69. Occupation personnel
70. Occupation-Plans, Policies and Personnel
71. PC of Censorship
72. Practical Party
73. rationalization
74. Reaction of Imperial systems
75. Reaction to Farmers
76. reaction to Foreign article
77. Reactions to Occupation Policy
78. Reactions to the present government
79. Readers Digest
80. Reparation
81. Rightist
82. Rightist Propaganda
83. See the Editor's note on back page
84. Story from news Chugoku
85. Taken Taxation
86. Talkie motion Picture
87. the 1 February general strike
88. The Expression toward young
89. Transferred from Periodical
90. unit check required
91. United Nations
92. unrest
93. War Crime
94. war Criminal Trials
95. War Rumor
96. War Tribunal trials

4. 調査対象雑誌一覽

001. 「愛郷」(佐伯郡河内村青年団文化部, 1948.11 ~ 1949.9)
002. 「愛郷の泉」(三玉新生クラブ, 1948.10・11)
003. 「赤羽根」(呉市宮原中学校自治会, 1947 ~ 1948)
004. 「赤い屋根」(国立広島療養所内赤い屋根文化サークル, 1948.12)
005. 「あかつき」(横谷青年団文化部, 1947.4)
006. 「あかつき」(深安郡大津野村青年団, 1948.6 ~ 1949.6)
007. 「あけぼの」(あけぼのの会, 1947.8 ~ 1947.11)
008. 「あけぼの」(柿浦小学校 PTA 第六学年部会, 1949)
009. 「あけぼの」(広島警察署, 1949.6 ~ 1949.9) ※
010. 「あけぼの」(三原桜南高等学校桜南クラブ, 1949.2 ~ 1949.7)
011. 「あけぼの」(広島県立第一高等女学校, 1948)
012. 「あけぼの」(広島地方検察庁呉支所内呉区司法保護委員会, 1948.4 ~ 1948.11)
013. 「あけぼの」(広島有朋高等学校, 1948.12)
014. 「あけぼの」(水呑村共養連盟, 1946.9)
015. 「あけぼの」(南方青年連盟文化部, 1949.3 ~ 1949.7)
016. 「曙」(西野青年団, 1947.6)
017. 「あこがれ」(自進社文芸部, 1947.5)
018. 「青い曲線」(広島師範学校男子部交友会, 1948.12 ~ 1949.4)
019. 「青空」(広島図書株式会社, 1949.6 ~ 1949.10)
020. 「青空」(下原青年連盟, 1947.3)
021. 「青空」(小屋浦青年団文化部, 1948.6 ~ 1949.7)
022. 「青空」(深青年団文化部, 1948.12)
023. 「新潮」(新潮短歌会, 1949.3)
024. 「あさ」(宮原高等学校文芸部, 1949.7)
025. 「朝風」(大新聞青年同志会・少年団, 1948.9)
026. 「足跡」(出版社不明)
027. 「登音」(登音社, 1948.8) ※
028. 「愛宕少年」(愛宕青年会, 1947.8)
029. 「新しい村」(広島県開拓協会, 1949.2 ~ 1949.9)
030. 「新しい村・資料」(広島県開拓協会, 1949.1 ~ 1949.9)
031. 「あとむ」(全逓信広島郵便局支部, 1947.9 ~ 1949.4)
032. 「あゆみ」(広島学園特別科学教育学級同窓会, 1947 ~ 1949.9)
033. 「あゆみ」(広島ゴム労働組合, 1949.3 ~ 1949.6)
034. 「あゆみ」(三原車両製作所職員組合青年婦人部, 1948 ~ 1949.2) ※
035. 「あゆみ」(神原町青年会, 1948.6)
036. 「あゆみ」(西高屋中学校, 1948.3)
037. 「霧進」(三菱重工業株式会社三原車両製作所従業員組合, 1947.12) ※
038. 「晩鐘」(晩鐘社, 1948.10 ~ 1949.8)
039. 「防犯」(芦品郡治安協力会, 1949.8)
040. 「母子愛育」(恩賜財団母子愛育会広島県支部, 1949.2)
041. 「母子愛育文庫」(母子愛育会広島市連合会, 1949.1 ~ 1949.2)
042. 「文学探究」(いつくし文庫, 1948.11 ~ 1949.8)
043. 「文化」(国立広島療養所文化部, 1949.6 ~ 1949.7) ※
044. 「文化の友」(渡子青年団文化部, 1948.6)
045. 「文林」(文林社, 1946 ~ 1947.12) ※
046. 「文秀」(Kibo 会, 1949.1 ~ 1945.5)
047. 「無頼派」(宝幢院光明寺, 1948.12 ~ 1949.2)
048. 「白道」(白道舎, 1949.8 ~ 1949.10)
049. 「病院文化」(国立大竹病院, 教育文化部, 1948.9)
050. 「B・Z」(理応科学社, 1948.7)

051. 「千草通信」(佐々木守, 1946.4 ~ 1947.9)
052. 「地方自治教室」(広島文化社, 1949.4)
053. 「地核」(広島詩人協会, 1948.12 ~ 1949.8)
054. 「竹友」(国立大竹病院患者自治会, 1949.8)
055. 「竹友文化」(国立大竹病院自治会文化部, 1948.11)
056. 「中国地方の産業と経済」(中国産業経済研究所, 1948.11)
057. 「中国地方総合統計月報」(中国地方総合開発委員会, 1949.3 ~ 1949.9)
058. 「中国電気工事労組機関紙」(中国電気工事労組中央本部書記局, 1949.7) ※
059. 「中国熱管理」(中国熱管理協会, 1949.1 ~ 1949.10)
060. 「中国繊維」(中国繊維協議会, 1949.2)
061. 「中国輿論」(輿論社, 1946.4)
062. 「中間者」(中間者発行所, 1949.5 ~ 1949.9)
063. 「大広島」(大広島研究会, 1947.7) ※
064. 「団結」(日本労働組合総同盟三原合同労働組合, 1948.8 ~ 1949.5)
065. 「電化レポート」(中国配電株式会社営業部, 1948.9)
066. 「デルタニュース」(広島工業会, 1948.5)
067. 「童化」(童化会, 1946.11)
068. 「同盟の友」(鏡の浦青年同盟, 1948.8)
069. 「動輪」(全金属広島支部三車職員組合, 1948.11 ~ 1949.5) ※
070. 「English」(株式会社文化評論社, 1949.2 ~ 1949.7)
071. 「エスポワール」(エスポワール文化サークル, 1948 ~ 1949.5) ※
072. 「Friend」(中之町三菱社宅青年団, 1947.5 ~ 1947.8) ※
073. 「風土」(風土社, 1948.1 ~ 1949.4) ※
074. 「婦人会報」(木頃婦人会, 1949.5)
075. 「婦人会誌」(時安婦人会, 1948.7 ~ 1949.1)
076. 「福工」(広島県立福山工業学校, 1947.2)
077. 「福山工試情報」(広島県立福山工業試験場, 1948.5 ~ 1949.9)
078. 「福山短歌」(福山短歌会, 1948.11 ~ 1949.8)
079. 「古市文化」(古市文化協会, 1946.7 ~ 1947.3) ※
080. 「ふるさと」(広島高等師範学校付属小学校, 1949.4)
081. 「故郷の鐘」(仁方青年連盟文化部, 1947.8 ~ 1949.2)
082. 「学校教育」(広島高等師範学校付属小学校学校教育研究会, 1946.7 ~ 1949.9) ※
083. 「学生の経済」(株式会社郷友社, 1949.2)
084. 「学友会誌」(広島県立尾道東高等学校学友会, 1949.3)
085. 「芸備教育」(広島県教職員組合, 1947.4 ~ 1948.9) ※
086. 「芸南文化」(芸南文化同人会, 1946.夏 ~ 1946.秋・冬) ※
087. 「芸陽」(広島県立広島第二中学校, 1948)
088. 「激浪」(呉市立工業学校同窓会だより会, 1948.2 ~ 1949.2) ※
089. 「月刊中国」(中国新聞社, 1948.12)
090. 「原泉」(広島図書株式会社, 1948.10 ~ 1949.3)
091. 「月報」(広島県教員組合, 1947.12)
092. 「技術」(広島県科学技術協会, 1949.4 ~ 1949.9)
093. 「技研時報」(中国配電株式会社技術研究所, 1948.10 ~ 1949.6)
094. 「銀杯」(三晃社, 1949.2 ~ 1949.4)
095. 「ギンノスズ」(広島児童文化振興会, 1946.10 ~ 1948.3) ※
096. 「ぎんのすす」(広島児童文化振興会, 1946.8)
097. 「ぎんのすす がくしゅうのともーがくねん」(広島図書株式会社, 1948.9)
098. 「ぎんのすす がくしゅうのとも二がくねん」(広島図書株式会社, 1948.9)
099. 「銀の鈴 五年生」(広島図書株式会社, 1949.1 ~ 1949.11)
100. 「ぎんのすす 1ねんせい」(広島図書株式会社, 1948.4 ~ 1949.11)

101. 「ぎんのすず 2ねんせい」(広島図書株式会社, 1949.1～1949.11)
102. 「Gin no suzu 理科と社会科 中学一年」(広島図書株式会社, 1949.5～1949.10)
103. 「Gin no suzu 理科と社会科 中学二年」(広島図書株式会社, 1949.7～1949.10)
104. 「銀の鈴 6年生」(広島図書株式会社, 1949.1～1949.11)
105. 「銀の鈴 3ねんせい」(広島図書株式会社, 1949.1～1949.10)
106. 「銀の鈴 4年生」(広島図書株式会社, 1949.1～1949.11)
107. 「グラフ」(グラフ社, 1949.3)
108. 「暁星」(播磨造船呉船渠労働組合文化部文芸班, 1948.6～1949.9) ※
109. 「暁鐘」(広島市選挙管理委員会事務局職員組合, 1949.2) ※
110. 「暁鐘」(慈音仏教青年会, 1947.8～1949.2)
111. 「暁鐘」(帝人従業員組合文化部, 1948)
112. 「暁笛」(広島鉄道局広島管理部文化係, 1946.4～1947.8)
113. 「巴苑」(巴苑詩話会, 1949.2～1949.8)
114. 「花むしろ」(はなむしろ発行所, 1949.8～1949.10)
115. 「埴生」(埴生会, 1946.7)
116. 「春樹」(御調高等学校交友会, 1949.3)
117. 「働く人」(三原車両文化サークル, 1948.1～1949.5) ※
118. 「平原」(原村文化協会, 1948.8～1949.2)
119. 「ハットライト」(広島貨物自動車株式会社三篠営業所, 1949.5)
120. 「日時計」(日時計発行所, 1949.9)
121. 「姫谷」(姫谷会, 1946.10～1948.2)
122. 「秘鏡」(ひめかがみ短歌会, 1946.10～1947.9)
123. 「広教」(広島鉄道教習所, 1947.7～1949.3)
124. 「ひろしま」(株式会社瀬戸内海文庫, 1948.6) ※
125. 「ひろしま」(広島鉄道局, 1946.10～1949.8) ※
126. 「広島文学サークル」(文化ライト社, 1949.3)
127. 「広島医学」(広島医学会, 1949.1～1949.7)
128. 「広島古書情報」(広島古書籍商組合, 1948.11～1949.3)
129. 「広島教育」(広島県教職員組合文化部, 1949.2～1949.7) ※
130. 「広島青年」(広島市青年連合会, 1948.9)
131. 「ほんかわ」(広島市本川小学校文化部, 1948.5)
132. 「鷗雲」(広島県福山東高等学校通信教育部, 1949.7)
133. 「岩山」(郷原小学校文化部, 1949)
134. 「いづみ」(国家地方警察広島県本部警務部教養課, 1946.12～1948.7) ※
135. 「人類学輯報」(広島県立医科大学解剖学教室, 1948.10～1949.8)
136. 「Journal of science of the Hiroshima University」(Hiroshima University, 1949.3・7)
137. 「会報」(安佐郡教員会, 1946.11)
138. 「貝類学雑誌」(日本貝類学会, 1946.12)
139. 「海田文化」(海田市青年文化連盟, 1947.10) ※
140. 「雁」(広島県立尾道商業学校第41回同窓会, 1946.4)
141. 「溪流」(溪流短歌会, 1946.5～1947.5・6) ※
142. 「警察文化」(広島管区警察学校, 1949.8～1949.9)
143. 「景雲」(広島師範女子部付属小学校同窓会, 1947～1948.8) ※
144. 「建造」(全船日立向島支部青年部, 1946.5～1947.11) ※
145. 「木靴」(木靴発行所, 1949.3)
146. 「近代風景」(近代風景文学会, 1949.5～1949.8)
147. 「こだま」(福山市職員組合文化部, 1946～1947) ※
148. 「蓍」(蓍文学研究会, 1946.3～1947.2)
149. 「子供の世界」(広島県児童文化協会, 1946.8～1946.12)
150. 「高原」(国立療養所賀茂病院患者協定会文化部, 1949.7)

151. 「高原文学」(芸備文芸会, 1946.10 ~ 1947.1)
152. 「柑子」(広島県葦陽高等学校交友会文芸部, 1949.3)
153. 「耕人」(耕人会, 1946.11 ~ 1947.7) ※
154. 「国語通信」(株式会社広島教育図書刊行会, 1946.6 ~ 1949.9)
155. 「興農」(興農同志会文化部, 1946.9) ※
156. 「言霊」(言霊社, 1946.10 ~ 1948.6) ※
157. 「交友会誌」(広島医学専門学校交友会, 1948.12)
158. 「交友会誌」(広島県尾道高等学校, 1949.2)
159. 「組合文化誌」(広島赤十字病院従業員組合本部, 1949.5) ※
160. 「クリスタル」(広島高等師範学校付属同級会, 不明)
161. 「郷友」(株式会社郷友社, 1946.6 ~ 1949.7) ※
162. 「L'ami」(広島県高校学生ペンクラブ, 1948.11 ~ 1949.7)
163. 「窓」(広島郵便局窓の会, 1946.6 ~ 1949.4)
164. 「麻本呂婆」(麻本呂婆社, 1947.1 ~ 1949.8) ※
165. 「真樹」(真樹社, 1946.10 ~ 1949.10) ※
166. 「松風」(広島管区警察学校, 1948.1 ~ 1949.7) ※
167. 「道草」(道草社, 1946.9)
168. 「みどりの丘」(山陽図書株式会社, 1949.1 ~ 1949.4)
169. 「みなと」(文親会, 1946.11 ~ 1948.7) ※
170. 「御調青年」(御調郡連合青年団, 1946 ~ 1947.12)
171. 「みやゝなぎ」(呉市宮原高等学校文化部, 1947 ~ 1948.11)
172. 「木槿」(木槿社, 1946.5 ~ 1948.9) ※
173. 「明星」(三原工業高等学校交友会, 1948.10 ~ 1949.3)
174. 「明星(青年の想ひ)」(能登原青年団, 1946.9 ~ 1947.2)
175. 「虹」(虹俳句研究会, 1946.6 ~ 1948.11)
176. 「燎原」(燎原詩社, 1946.4 ~ 1949.10) ※
177. 「農技文化」(広島県立農業技術員養成所文化部, 1947.10 ~ 1947.10)
178. 「沼田川」(郷土文芸愛好会, 1946.11 ~ 1949.9) ※
179. 「尾道文化」(尾道文化研究会, 1948.9 ~ 1949)
180. 「をたけび」(矢野中学校, 1949.7)
181. 「プレイメート」(広島図書株式会社, 1948.4 ~ 1949.10) ※
182. 「鈴峯」(鈴峯学園自治会文芸部, 1948.8 ~ 1949.9)
183. 「鈴峯」(八幡青年連盟文化部, 1946.12)
184. 「黎明」(小島中学校交友会, 1948.4 ~ 1949.6) ※
185. 「黎明」(東洋繊維三原工場従業員組合青年部, 1946.9 ~ 1948.2)
186. 「黎明」(黎明会, 1946.4 ~ 1949.8)
187. 「労働ひろしま」(非理島権労働部労政課, 1948.6 ~ 1949.8) ※
188. 「緑風」(竹原高等学校文芸部, 1949.7)
189. 「療友文化」(国立福山病院内療友文化発行所, 1948.2 ~ 1949.2)
190. 「彩雲」(西関西詩人倶楽部, 1946.5 ~ 1946.11)
191. 「砂陣」(砂陣社, 1946.12 ~ 1947.11)
192. 「山波青年」(山波青年団文芸部, 1946.6 ~ 1948.5)
193. 「山茶花」(広島県山茶花短歌会, 1946.9 ~ 1947.10) ※
194. 「生活文化」(日本生活文化協会, 1946.5 ~ 1946.6・7) ※
195. 「青年」(長江青年団文化部, 1946.9 ~ 1946.10) ※
196. 「清流」(広島県加計高等学校交友会, 1948.11)
197. 「誠之」(福山誠之館高等学校誠之会, 1948.2 ~ 1949.3)
198. 「誠之通信」(福山誠之館高等学校通信教育部, 1949.2)
199. 「瀬戸内海」(浜根汽船株式会社出版部, 1946.7 ~ 1947.11) ※
200. 「社会教室」(広島師範学校学友会学術部, 1949.7)

201. 「四季」(小国村青年団文化部, 1946)
202. 「新道」(和庄青年会, 1946.10 ~ 1947.10) ※
203. 「槇峰文芸」(尾道北高等学校文芸部, 1948)
204. 「新風」(御野村青年団, 1946.10 ~ 1948.8・9) ※
205. 「新人短歌」(新人短歌会, 1946.8)
206. 「新科学」(広島図書株式会社, 1947.11 ~ 1949.3)
207. 「新光」(三菱化成株式会社大竹工場労働組合, 1946 ~ 1947.9) ※
208. 「新農村」(広島県農業会, 1946.3)
209. 「新社会」(広島図書株式会社, 1949.1 ~ 1943.9)
210. 「白岳」(白石青年同志会, 1946.12)
211. 「白鳩」(国立広島療養所白鳩会, 1948.11 ~ 1949.8)
212. 「紫雲」(広島国泰寺高等学校交友会文芸部, 1949.7)
213. 「彗星」(日本化薬株式会社福山染料工場労働組合, 1946.10 ~ 1949.4) ※
214. 「スクールダイジェスト」(中国四国教育図書出版協会, 1948.5 ~ 1949.8)
215. 「旅人」(旅人詩社, 1946.9・1947.6)
216. 「太玄」(太玄会, 1946.7 ~ 1947.7) ※
217. 「大衆文化」(広島県労働文化協会三原師部, 1948.5)
218. 「竹はら」(竹はら俳壇, 1946.11 ~ 1948.3) ※
219. 「多々良」(西条高等学校文芸部, 1948.12)
220. 「浮城」(広島県浮城高等学校交友会, 1947.5 ~ 1949.3) ※
221. 「Um」(株式会社文化評論社, 1949.4)
222. 「歌の新聞」(歌の新聞社, 1946.8 ~ 1946.10)
223. 「若葉」(東大田村自治青年団, 1946.6 ~ 1947.3) ※
224. 「私たちの研究」(太田部科学教育同好会, 1946.11 ~ 1947.12)
225. 「ユーカー」(広島県立広島第一中学校交友会, 1947.1 ~ 1948.3) ※
226. 「輸送文化」(広島県貨物自動車交通労働組合廿日市支部, 1946.9 ~ 1947.8)

※印のものは、検閲により指摘を受けた雑誌。

GHQ/CCD(民間検閲支隊)による検閲の実態
—プランゲ文庫広島県雑誌226誌の場合—

翻刻・発行 岩崎文人・植木研介・宇吹 暁・槇林滉二

発行日 2004年3月10日

印刷 株式会社タカトープリントメディア